

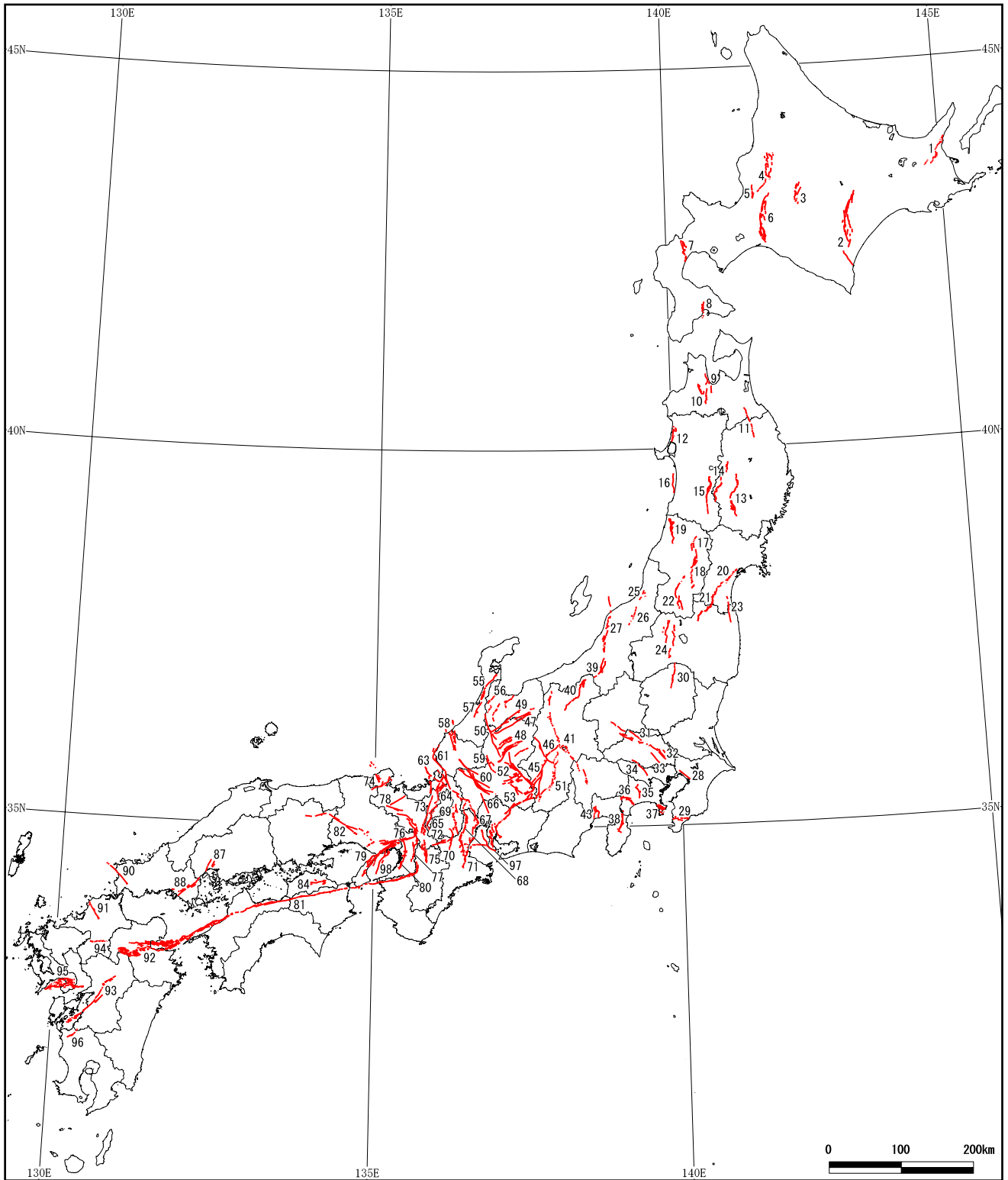
付録 1. 主要 98 断層帯のパラメータ（項目別まとめ図）

評価した断層帯のパラメータを項目別に、将来の地震発生確率を求めた区間を単位として地図及びグラフを用いて整理した。付図 1 は 98 断層帯の分布を、付図 2～付図 27 では各パラメータの値の分布とその値の幅を、付図 28～付図 37 では断層面の傾斜、過去の活動における 1 回のずれの量、活動間隔、将来の活動における 1 回のずれの量及び将来の地震発生確率について、これらの値を検討する際に用いた手法と値の関係について整理した。

（添付図一覧）

- 付図 1 主要 98 断層帯の位置 [地図]
- 付図 2 断層の長さ[地図]
- 付図 3 断層の長さの評価値 [グラフ]
- 付図 4 ずれの向きと種類 [地図]
- 付図 5 ずれの向きの種類と断層長さの対応 [グラフ]
- 付図 6 地震発生層下限の深さ [地図]
- 付図 7 地震発生層下限の深さの評価値 [グラフ]
- 付図 8 断層面の幅 [地図]
- 付図 9 断層面の幅の評価値 [グラフ]
- 付図 10 平均的なずれの速度 [地図]
- 付図 11 平均的なずれの速度の評価値の幅 [グラフ]
- 付図 12 最新活動時期からの経過年（最遠値） [地図]
- 付図 13 最新活動時期からの経過年の評価値の幅 [グラフ]
- 付図 14 最新活動時期からの経過年（最近値） [地図]
- 付図 15 歴史地震の活動との対比 [地図]
- 付図 16 過去の活動における 1 回のずれの量 [地図]
- 付図 17 過去の活動における 1 回のずれの量の評価値の幅 [グラフ]
- 付図 18 平均活動間隔（評価値の幅の中央の値） [地図]
- 付図 19 平均活動間隔の評価値の幅 [グラフ]
- 付図 20 将来の活動における 1 回のずれの量（評価値の幅の中央の値） [地図]
- 付図 21 将来の活動における 1 回のずれの量の評価値の幅 [グラフ]
- 付図 22 将来の地震発生確率 [地図]
- 付図 23 将来の地震発生確率の評価値の幅 [グラフ]
- 付図 24 地震後経過率 [地図]
- 付図 25 地震後経過率の評価値の幅の分布 [グラフ]
- 付図 26 集積確率(最大値) [地図]
- 付図 27 集積確率の評価値の幅 [グラフ]

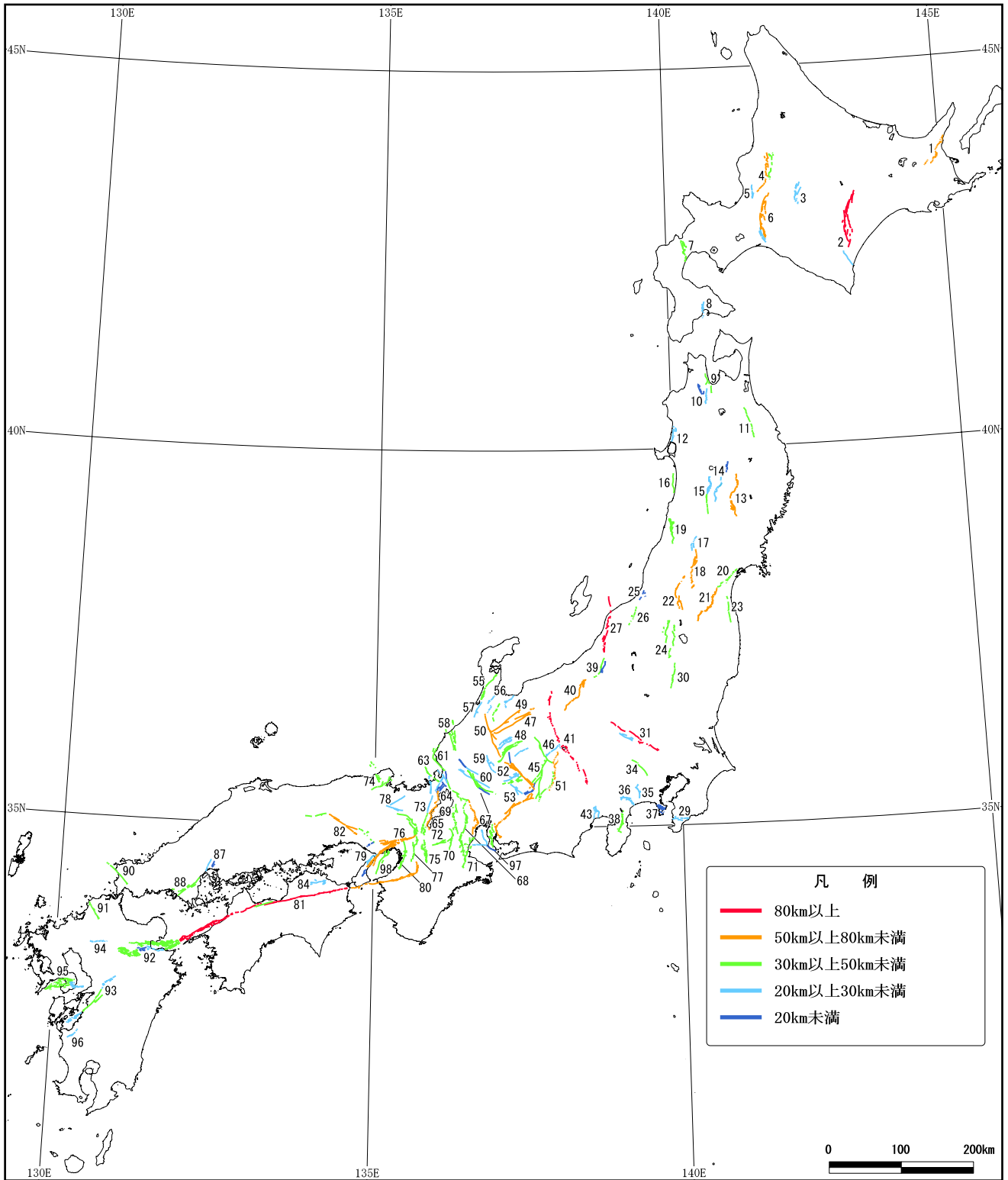
- 付図 28 断層面の傾斜の評価手法別分類 [地図]
- 付図 29 断層面の傾斜の評価手法と断層の長さの対応 [グラフ]
- 付図 30 過去の活動における 1 回のずれの量の評価手法別分類 [地図]
- 付図 31 過去の活動における 1 回のずれの量と評価手法の対応 [グラフ]
- 付図 32 平均活動間隔の評価手法別分類 [地図]
- 付図 33 平均活動間隔の評価値の幅と評価手法の対応 [グラフ]
- 付図 34 将来の活動における 1 回のずれの量の評価手法別分類 [地図]
- 付図 35 将来における 1 回のずれの量と評価手法の対応 [グラフ]
- 付図 36 将来の地震発生確率算出手法 [地図]
- 付図 37 将来の地震発生確率と評価値算出手法の対応 [グラフ]



この地区の海岸線及び県境には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。地図の範囲は基盤的調査観測の対象活層の分布する範囲。

- 1:標津断層帯, 2:十勝平野断層帯, 3:富良野断層帯, 4:増毛山地東縁断層帯・沼田-砂川付近の断層帯, 5:当別断層, 6:石狩低地東縁断層帯, 7:黒松内低地断層帯, 8:函館平野西縁断層帯, 9:青森湾西岸断層帯, 10:津軽山地西縁断層帯, 11:折爪断層, 12:能代断層帯, 13:北上低地西縁断層帯, 14:雫石盆地西縁-真昼山地東縁断層帯, 15:横手盆地東縁断層帯, 16:北由利断層, 17:新庄盆地断層帯, 18:山形盆地断層帯, 19:庄内平野東縁断層帯, 20:長町-利府線断層帯, 21:福島盆地西縁断層帯, 22:長井盆地西縁断層帯, 23:双葉断層, 24:会津盆地西縁-東縁断層帯, 25:楡形山脈断層帯, 26:月岡断層帯, 27:長岡平野西縁断層帯, 28:東京湾北縁断層, 29:鴨川低地断層帯, 30:関谷断層, 31:関東平野北西縁断層帯, 32:元荒川断層帯, 33:荒川断層, 34:立川断層帯, 35:伊勢原断層, 36:神縄・国府津-松田断層帯, 37:三浦半島断層群, 38:北伊豆断層帯, 39:十日町断層帯, 40:信濃川断層帯(長野盆地西縁断層帯), 41:糸魚川-静岡構造線活断層系, 43:富士川河口断層帯, 45:木曾山脈西縁断層帯, 46:境峠-神谷断層帯, 47:跡津川断層帯, 48:高山・大原断層帯, 49:牛首断層帯, 50:庄川断層帯, 51:伊那谷断層帯, 52:阿寺断層帯, 53:屏風山-恵那山断層帯及び猿投山断層帯, 55:邑知湯断層帯, 56:砺波平野断層帯・呉羽山断層帯, 57:森本・宮樫断層帯, 58:福井平野東縁断層帯, 59:長良川上流断層帯, 60:濃尾断層帯, 61:柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯, 63:野坂・集福寺断層帯, 64:湖北山地断層帯, 65:琵琶湖西岸断層帯, 66:岐阜-一宮断層帯, 67:美老-桑名-四日市断層帯, 68:鈴鹿東縁断層帯, 69:鈴鹿西縁断層帯, 70:頓宮断層, 71:布引山地東縁断層帯, 72:木津川断層帯, 73:三方・花折断層帯, 74:山田断層帯, 75:京都盆地-奈良盆地断層帯南部(奈良盆地東縁断層帯), 76:有馬-高槻断層帯, 77:生駒断層帯, 78:三峠-京都西山断層帯, 79:六甲-淡路島断層帯, 80:上町断層帯, 81:中央構造線断層帯(金剛山地東縁-伊予灘), 82:山崎断層帯, 84:長尾断層帯, 87:五日市断層帯, 88:岩国断層帯, 90:菊川断層帯, 91:西山断層帯, 92:別府-万年山断層帯, 93:布田川・日奈久断層帯, 94:水縄断層帯, 95:雲仙断層群, 96:出水断層帯, 97:伊勢湾断層帯, 98:大阪湾断層帯
- (42, 44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83, 85, 86, 89中央構造線断層帯は81に統合。)

付図1 主要98断層帯の位置



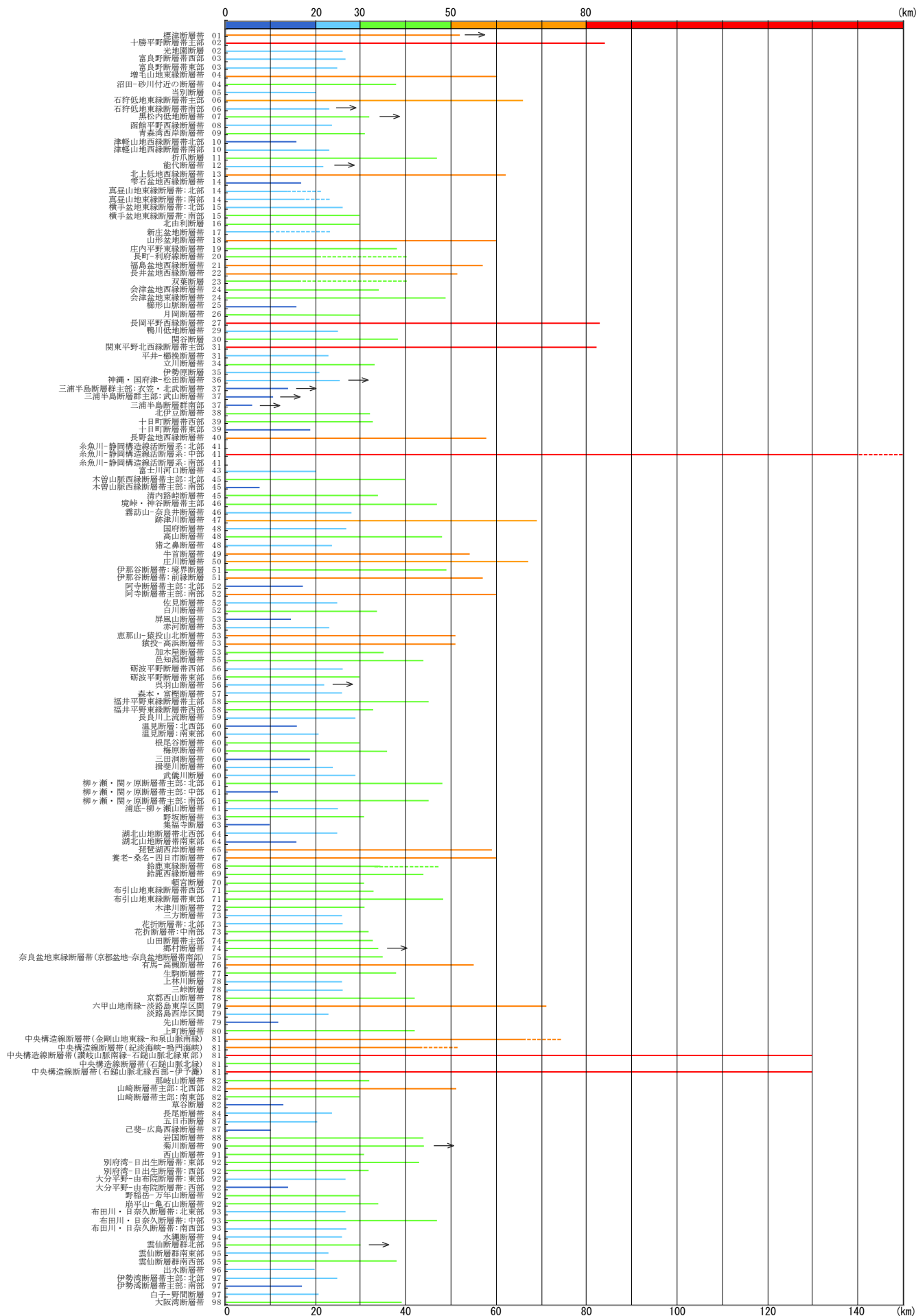
・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 ・62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜—宮断層)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注)分類の基準は評価値の最大値。

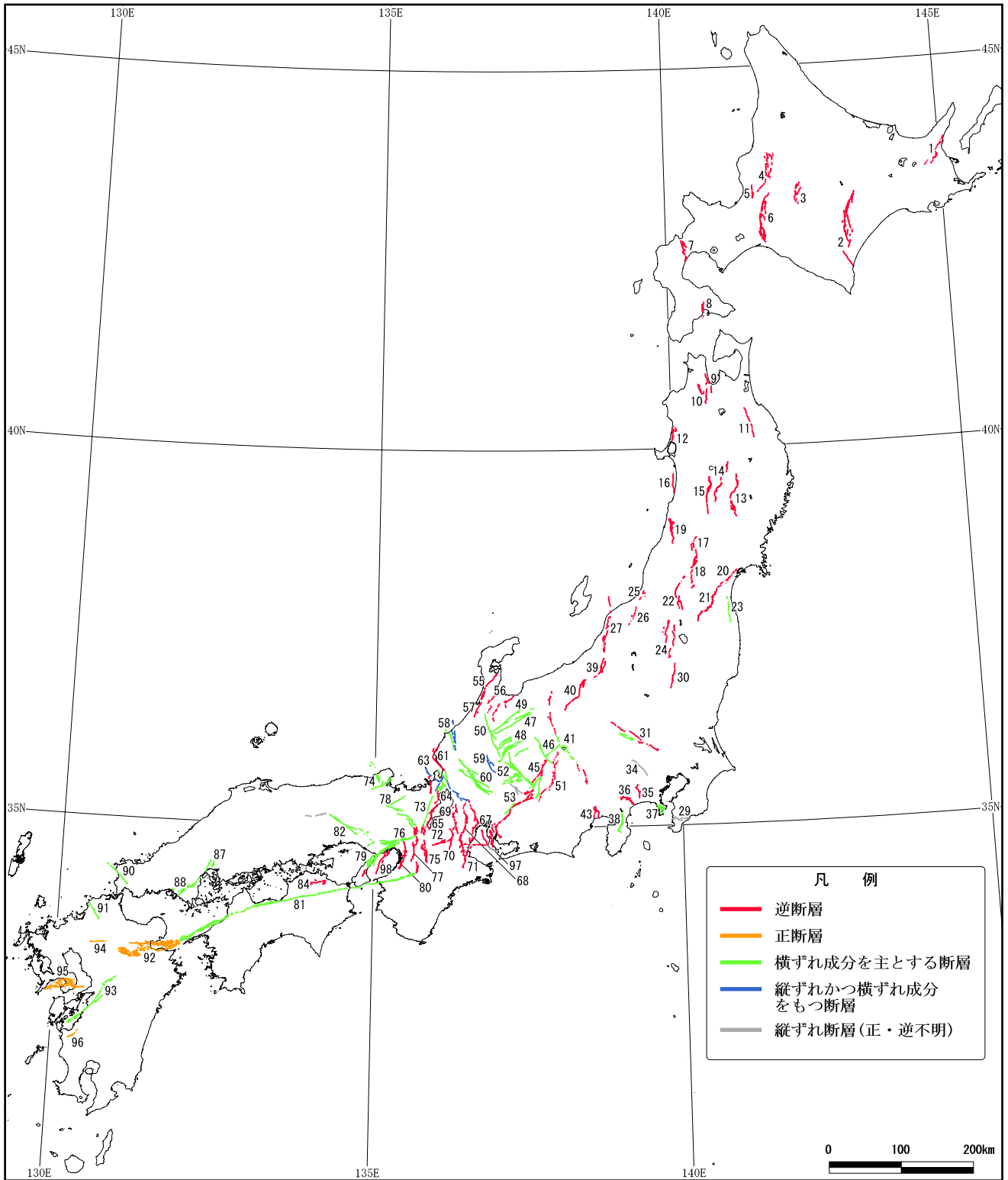
- ①長さに幅をもたせて評価:14雫石盆地西縁—真昼山地東縁断層帯[北部]及び[南部]、17新庄盆地断層帯、23双葉断層、68鈴鹿東縁断層帯、81中央構造線断層帯[和泉山脈南縁—金剛山地東縁]及び[紀淡海峡—鳴門海峡]
- ②図示された長さ「以上」と評価:1標津断層帯、6石狩低地等縁断層帯南部、7黒松内低地断層帯、12能代断層帯、36神縄・国府津—松田断層帯、37三浦半島断層群、56砺波平野断層帯・呉羽山断層帯[呉羽山断層帯]、74山田断層帯[郷村断層]、90菊川断層帯、95雲仙断層群[北部]
- ③最大の場合と評価:11折爪断層。

付図2 断層の長さ



注1) 糸魚川-静岡構造線活断層系は、各区間の長さが示されていないため、中部の場所に全長を示した。なお、北部及び南部は逆断層と評価されている。
 注2) 図中の各断層帯の線の色は、左頁の地図に示した色と対応している。

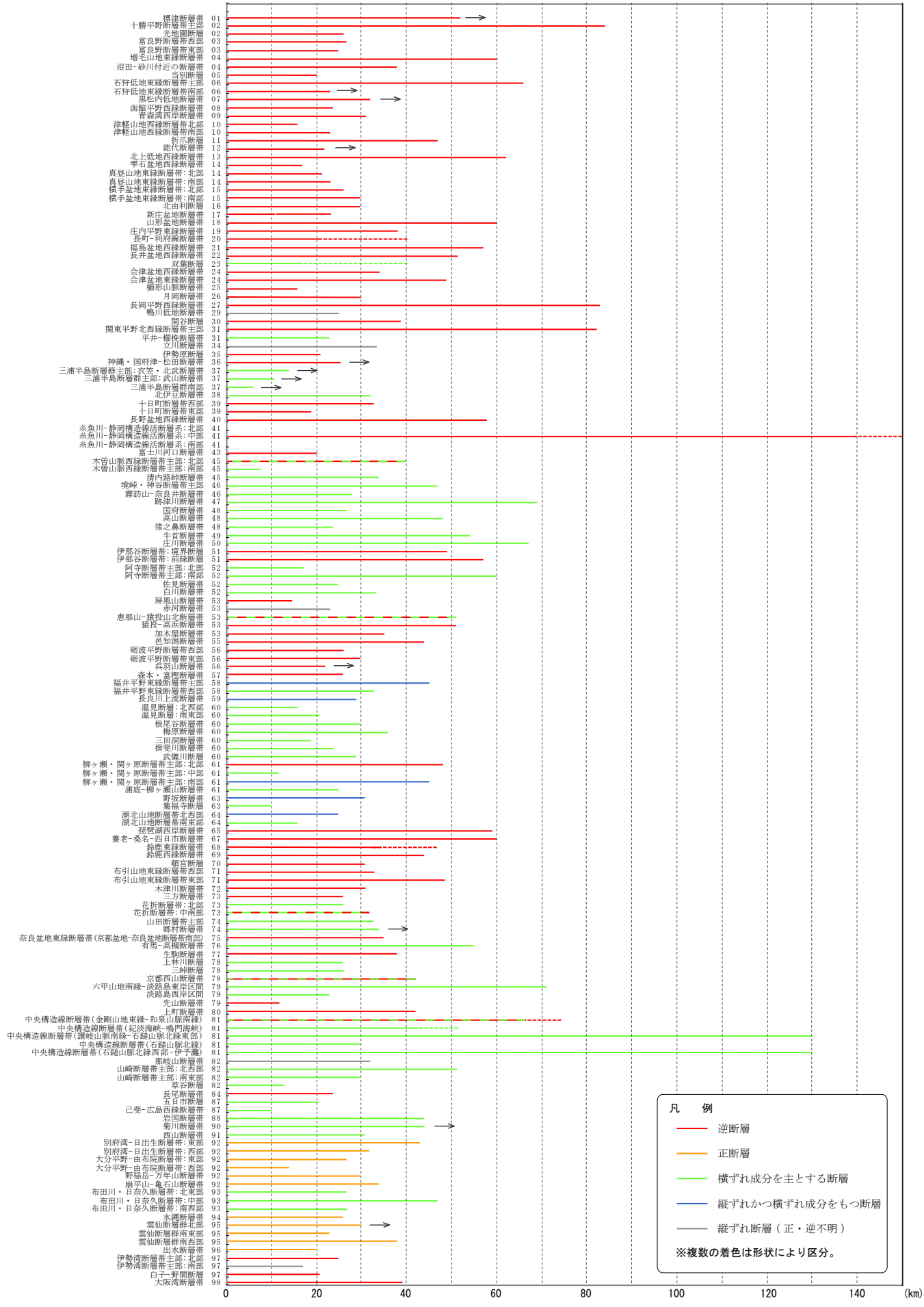
付図3 断層の長さの評価値



・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 ・62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

付図4 ずれの向きと種類



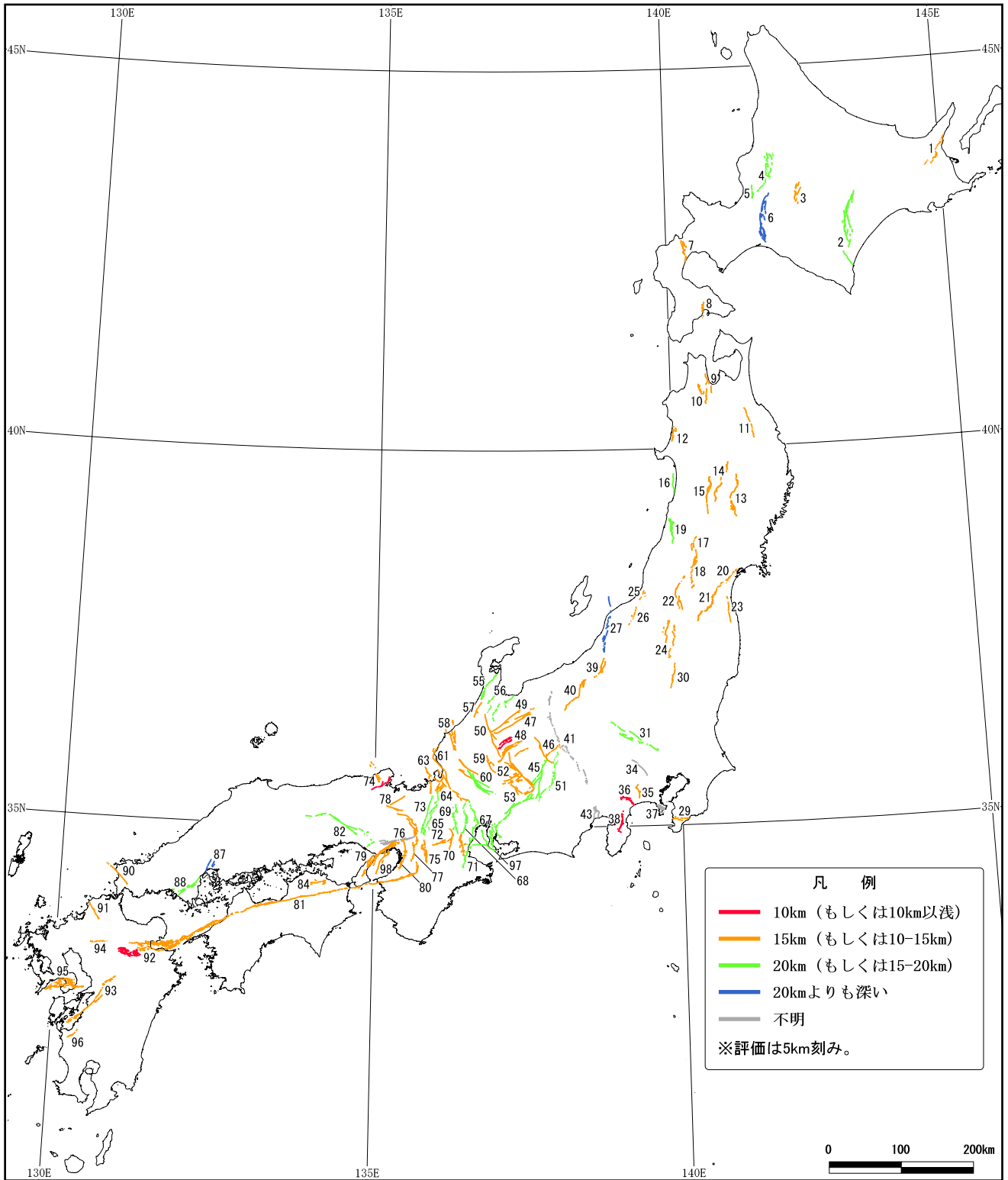
凡 例

- 逆断層
- 正断層
- 横ずれ成分を主とする断層
- 縦ずれかつ横ずれ成分をもつ断層
- 縦ずれ断層（正・逆不明）

※複数の着色は形状により区分。

注) 41 糸魚川 - 静岡構造線活断層系は、各区間の長さが示されていないため、中部の場所に全長を示した。
 なお、北部及び南部は逆断層と評価されている。

付図5 ずれの向きの種類と断層長さの対応



・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 ・62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基礎的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注1) 分類の基準は評価値の最深値。なお、以下の場合に留意。

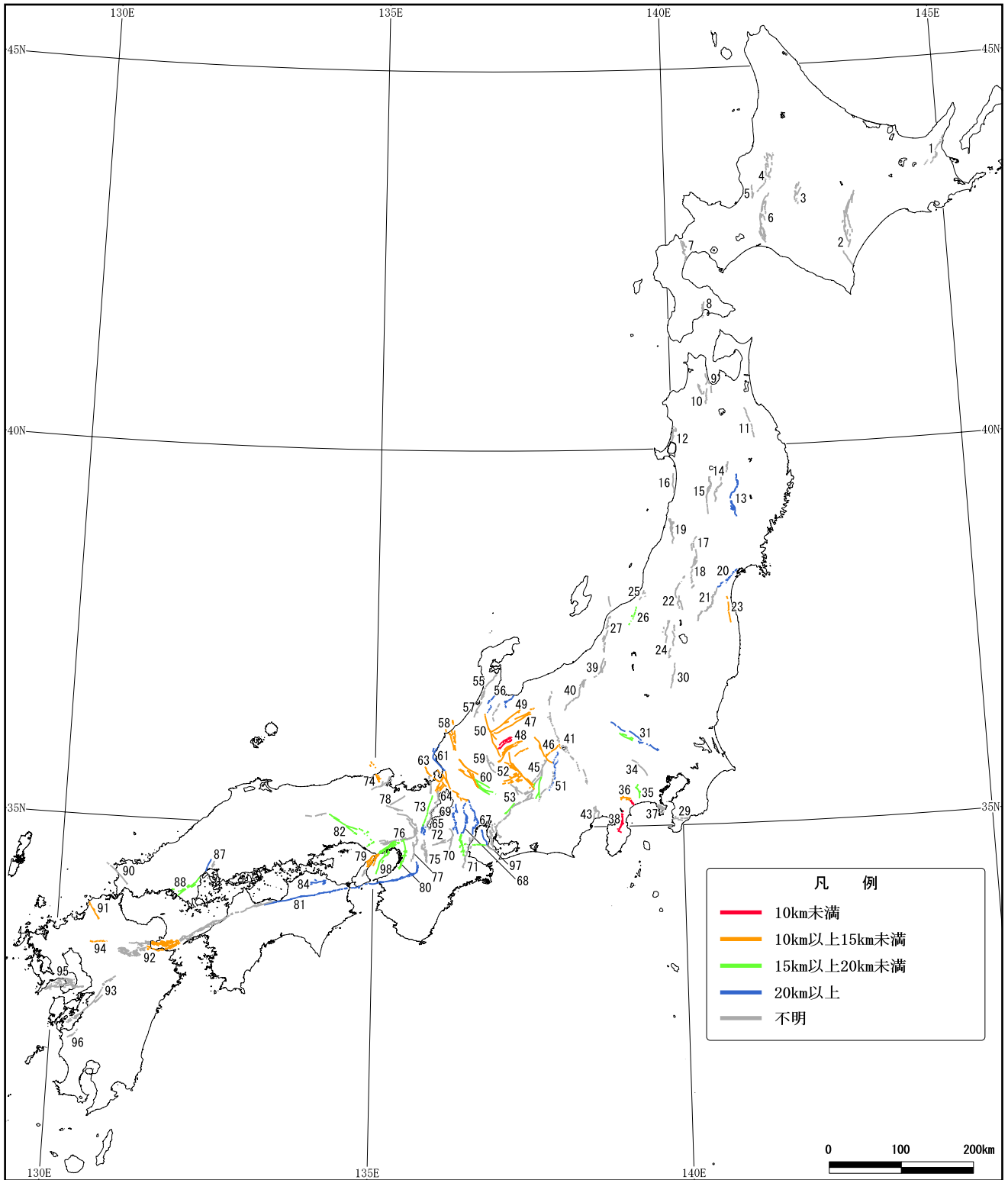
- ① 下限の深さに幅をもたせて評価： 51伊那谷断層帯、60濃尾断層帯[主部]、65琵琶湖西岸断層帯、67養老-桑名-四日市断層帯、73三方・花折断層帯、82山崎断層帯[那岐山断層]、90菊川断層帯、97伊勢湾断層帯)
- ② 図示された深度よりも深いと評価： 6石狩低地断層帯
- ③ 図示された深度よりも浅いと評価： 8函館平野西縁断層帯、48高山・大原断層帯[国府断層]

注2) 20長町-利府線断層帯は深さ13kmと評価。

付図6 地震発生層下限の深さ



付図7 地震発生層下限の深さの評価値



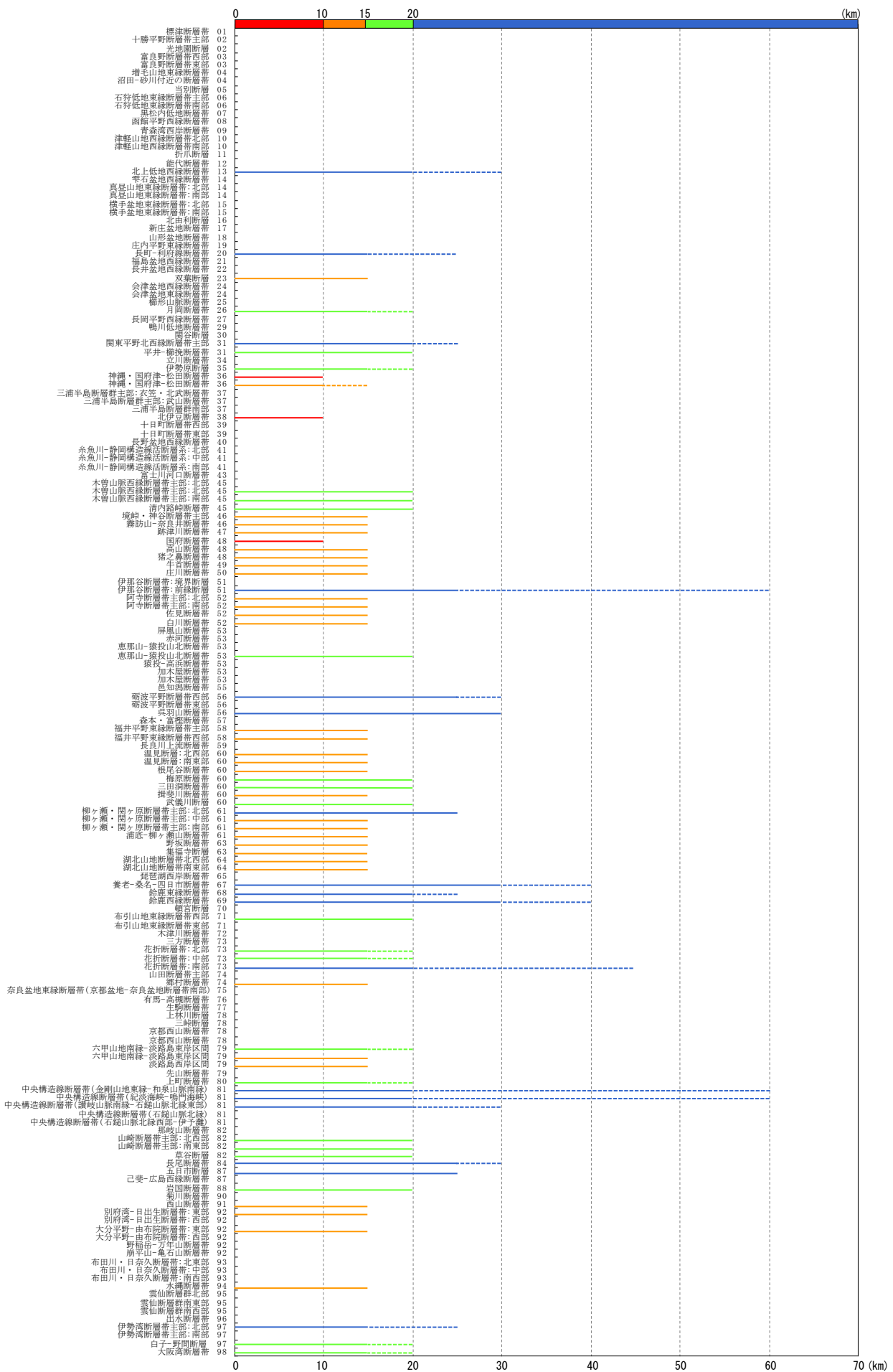
・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 ・62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

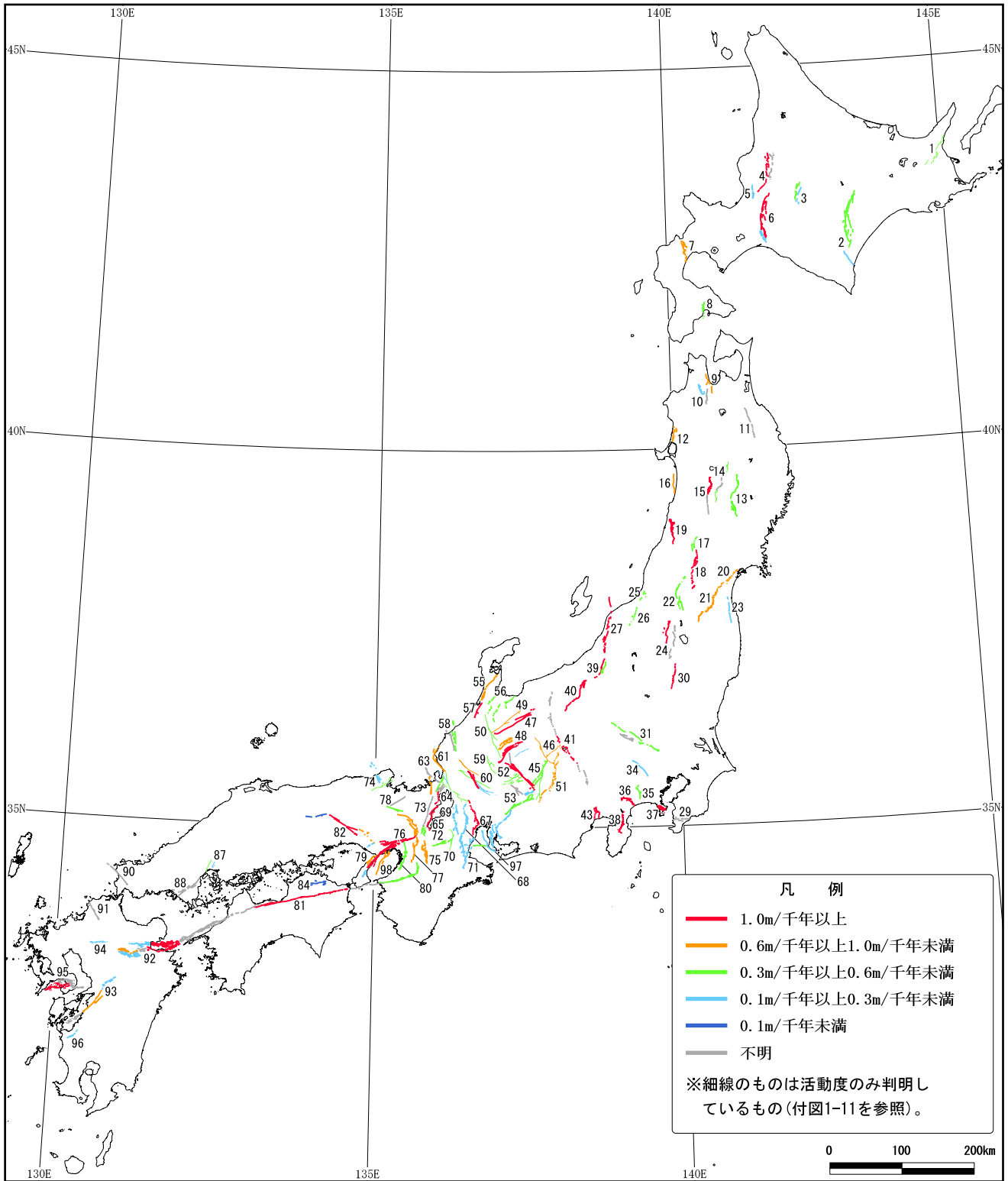
注)分類の基準は評価値の最大値。なお、以下の断層帯に留意。また、各断層帯の評価値は、付図1-9及び付表1を参照。

- ・数値に幅をもたせて評価：13北上低地断層帯、20長町-利府線断層帯、26月岡断層帯、31関東平野北西縁断層帯、35伊勢原断層、36神縄・国府津-松田断層帯の一部、51伊那谷断層帯[前縁断層]、56砺波平野断層帯[西部]、67養老-桑名-四日市断層帯、68鈴鹿東縁断層帯、69鈴鹿西縁断層帯、73花折断層帯[北部、中部、南部]、79六甲-淡路島断層帯[六甲山地南縁-淡路島東岸区間の一部]、80上町断層帯、81中央構造線断層帯[金剛山地東縁-和泉山脈南縁、紀淡海峡-鳴門海峡、讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部]、84長尾断層帯、97伊勢湾断層帯[主部:北部、白子-野間断層、98大阪湾断層帯。

付図8 断層面の幅



付図9 断層面の幅の評価値



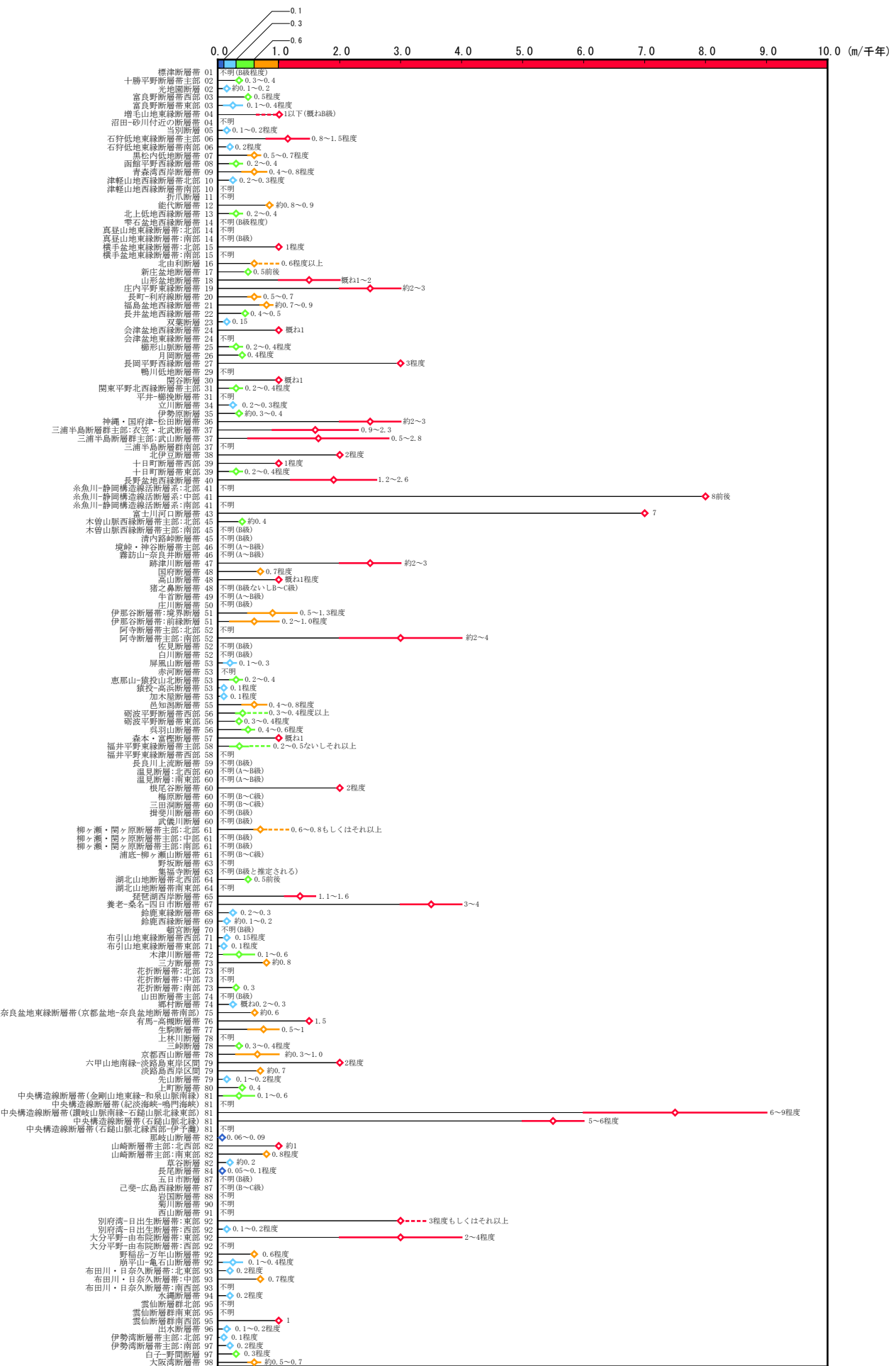
・42,44米魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-富山断層帯)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注)分類の基準は評価値の幅の中央値。なお、以下の断層帯に留意。また、各断層帯の評価値は付図1-11及び付表1を参照。

- ① 1つの断層帯で、上下成分と横ずれ成分のいずれの向きが得られている場合は、卓越するずれの向きの平均変位速度を代表値とした。
- ② 次の断層帯は、示された値「以上」と評価されているため、値の最高値とした。(56砺波平野断層帯・呉羽山断層帯[砺波平野断層帯西部]、58福井平野東縁断層帯、61柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯[北部]、92別府-万年山断層帯[東部])。
- ③ 4増毛山地東縁断層帯は、「1.0m/千年以下でB級程度」と評価されている。
- ④ 平均的なずれの速度は不明だが、活動度が評価されているものは、それを示した。ここでは便宜的に、「A~B級」は橙色、「B級」は緑色、「B~C級」は水色に区分した。

付図10 平均的なずれの速度



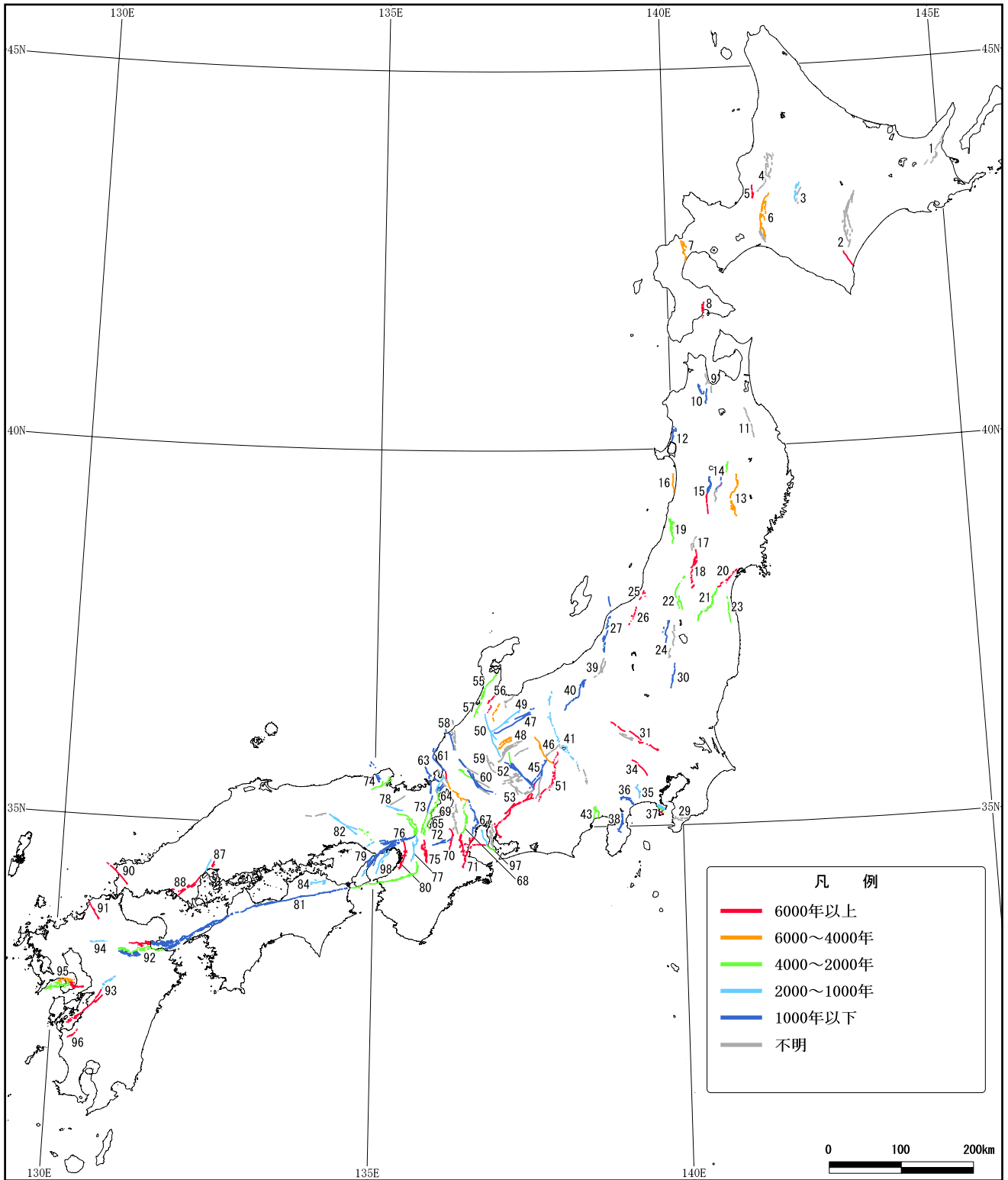
凡例

以下 評価値の幅 以上

↑ 評価値の幅の中央(分類の基準)

* 図面上端のカラーバーは、左頁の区分範囲を、図中の値幅の線の着色は、幅の中央の値が属する色で示しており、左頁の地図と対応している。

付図11 平均的なずれの速度の評価値の幅



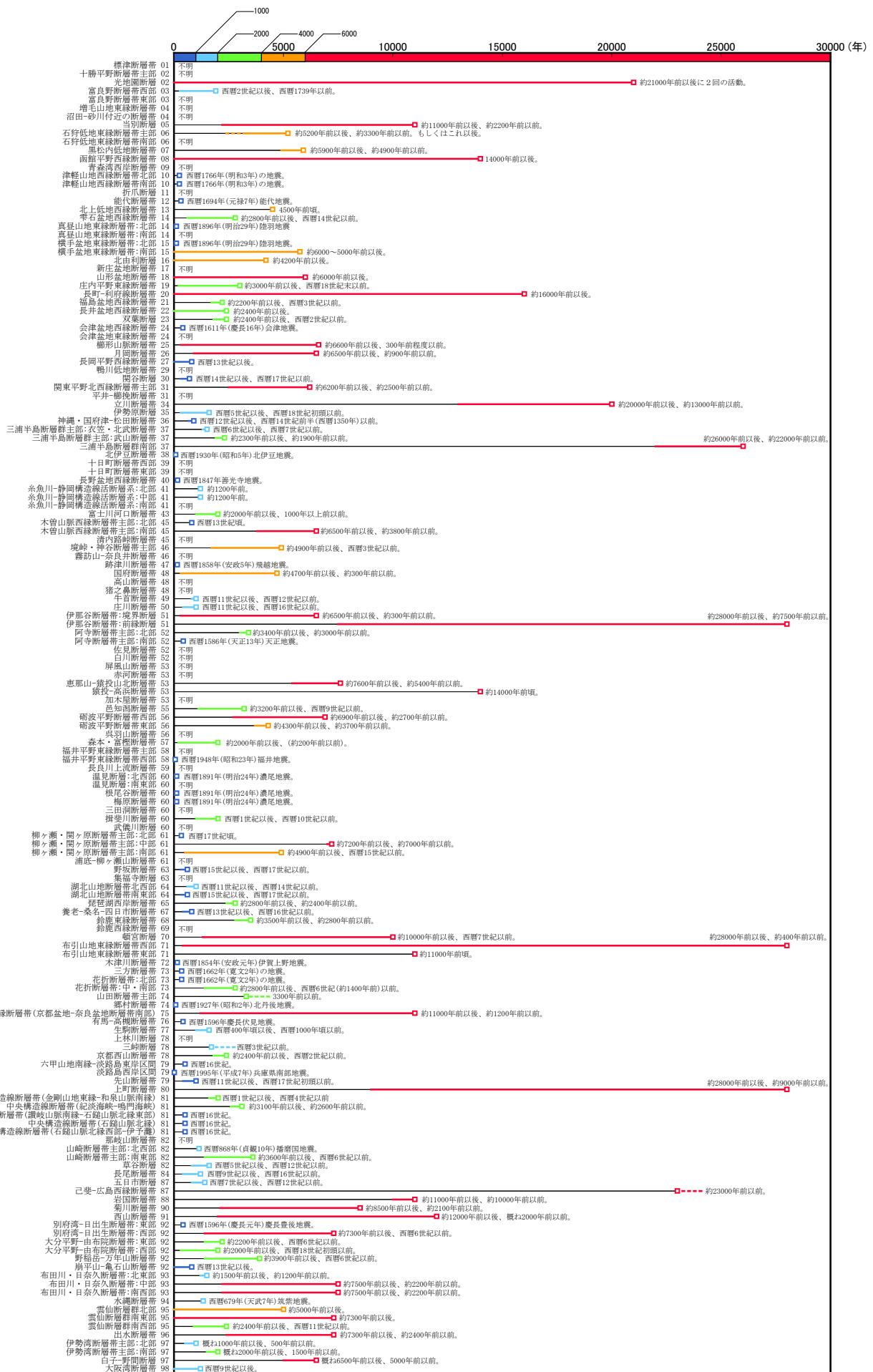
・42,44米魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

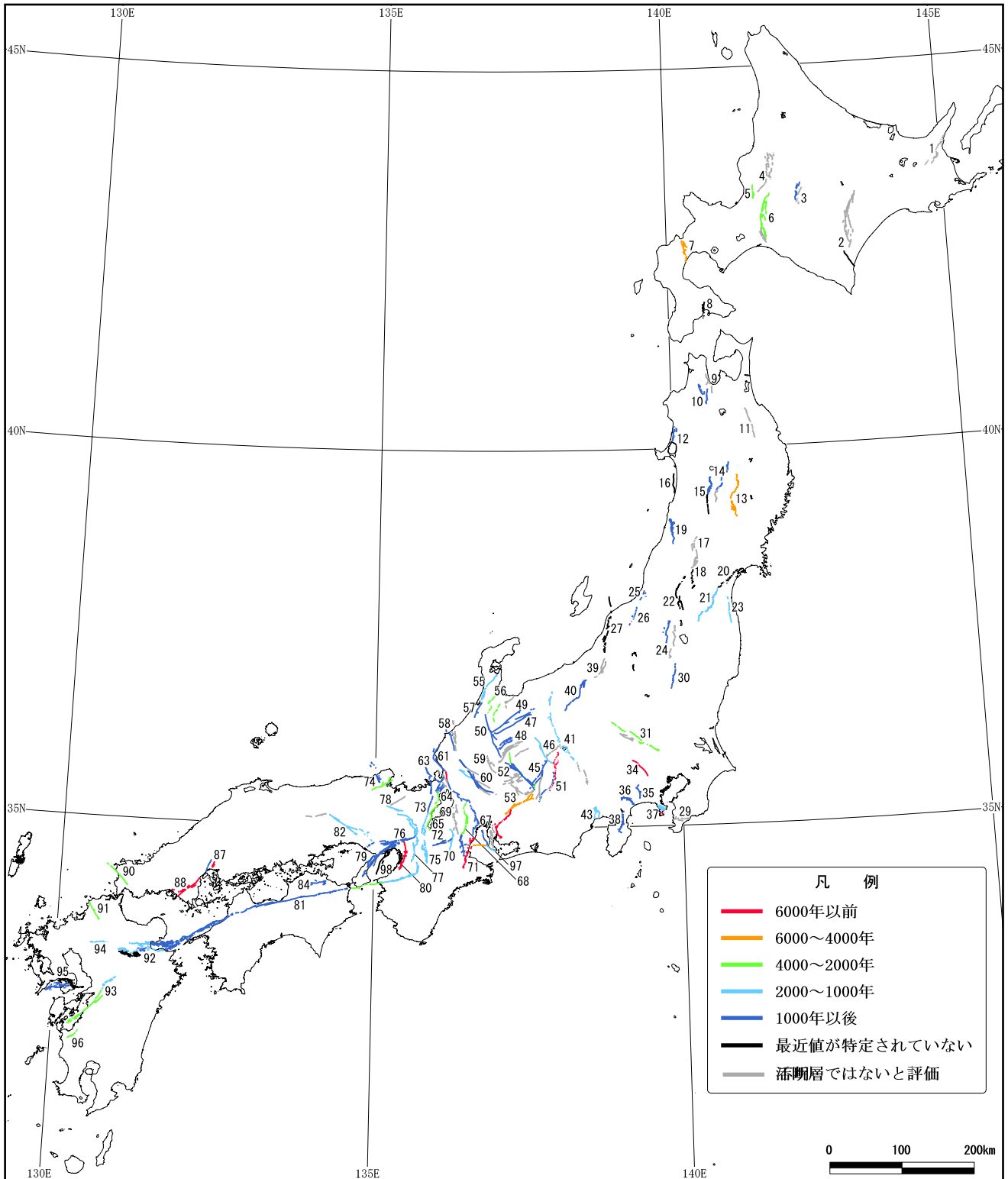
この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注)分類の基準は評価値の最遠値[以後]。なお、以下の断層帯に留意。また、各断層帯の評価値は付図1-13及び付表1を参照。

- ① 20勝平野断層帯[光地園断層]の最新活動時期は特定されていないが、21000年前以後、2回の活動があったと評価されている。
- ② 74山田断層帯[主部]、78三峠・京都西山断層帯及び87五日市断層[己斐-広島西縁]は、「以前」とのみ評価され、最新活動時期の最遠値は特定されていない。本図では、不明とせず、最近値を代表値として示している。

付図12 最新活動時期からの経過年(最遠値)





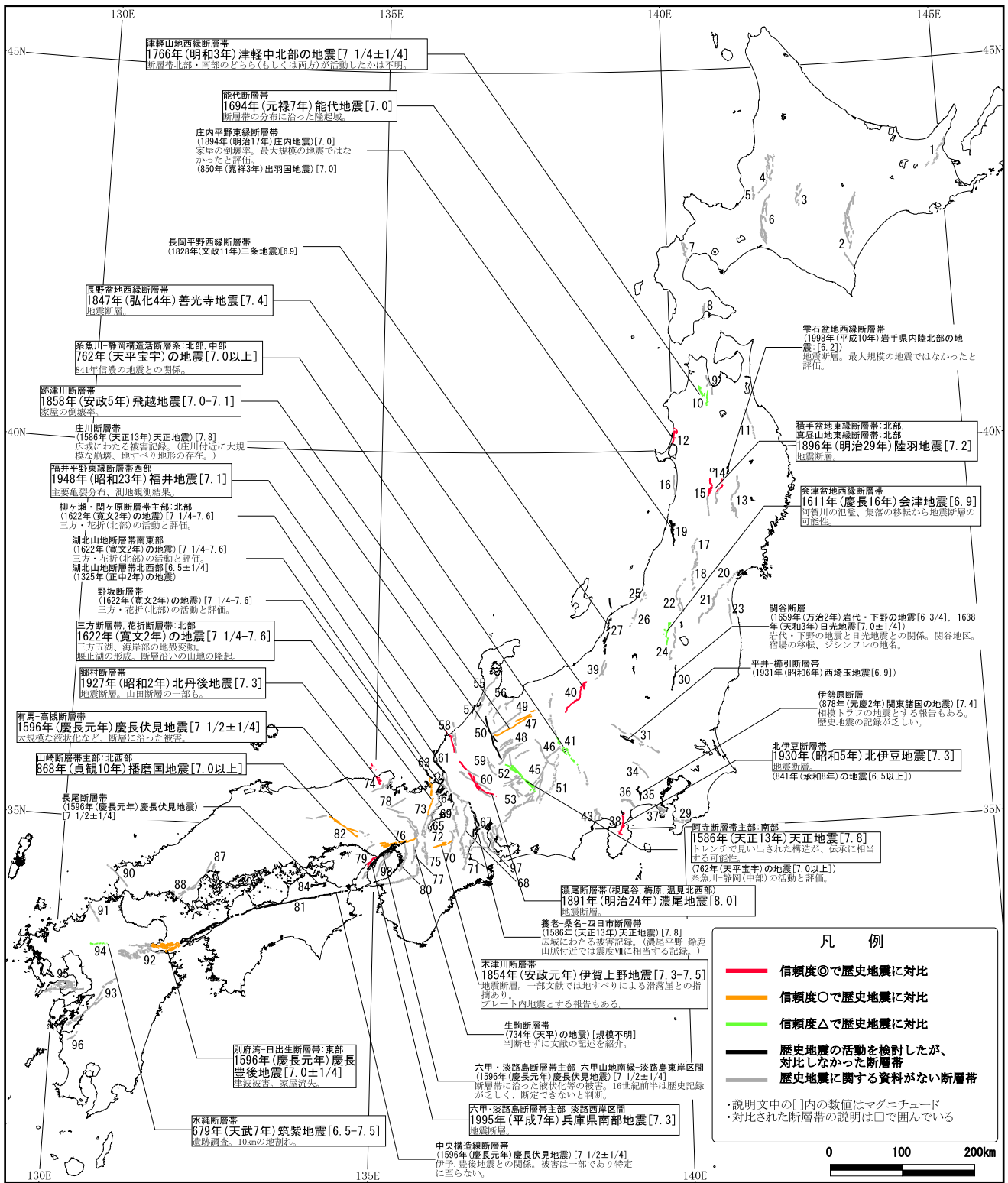
・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注)分類の基準は評価値の最近値[以前]。なお、以下の断層帯に留意。

- ① 20勝平野断層帯[光地園断層]の最新活動時期は特定されていないが、21000年前以後、2回の活動があったと評価されている。
- ② 8函館平野西縁断層帯、15横手盆地東縁断層帯[南部]、16北由利断層、18山形盆地断層帯、20長町-利府線断層帯、22長井盆地西縁断層帯、27長岡平野西縁断層帯、92別府-万年山断層帯[崩平山-亀石山]、95雲仙断層群[北部、南東部]及び98大阪湾断層帯は、「以後」とのみ評価され、最新活動時期の最近値は特定されていない。このうち、27長岡平野断層帯及び92別府-万年山断層帯[崩平山-亀石山]の経過年は1000年内以後である。

付図14 最新活動時期からの経過年(最近値)

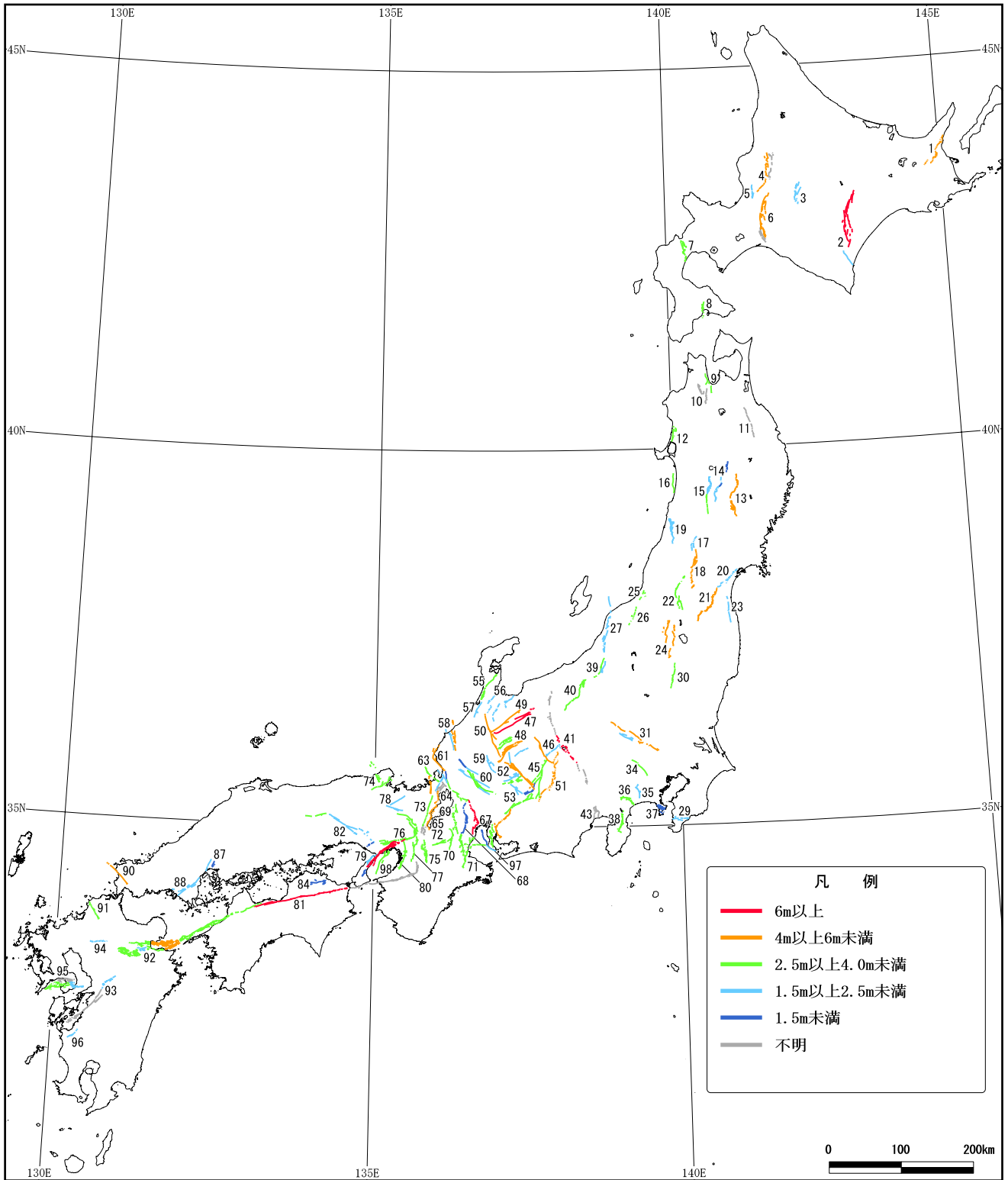


・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

注1)42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。

注2)活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

付図1-15 歴史地震の活動との対比



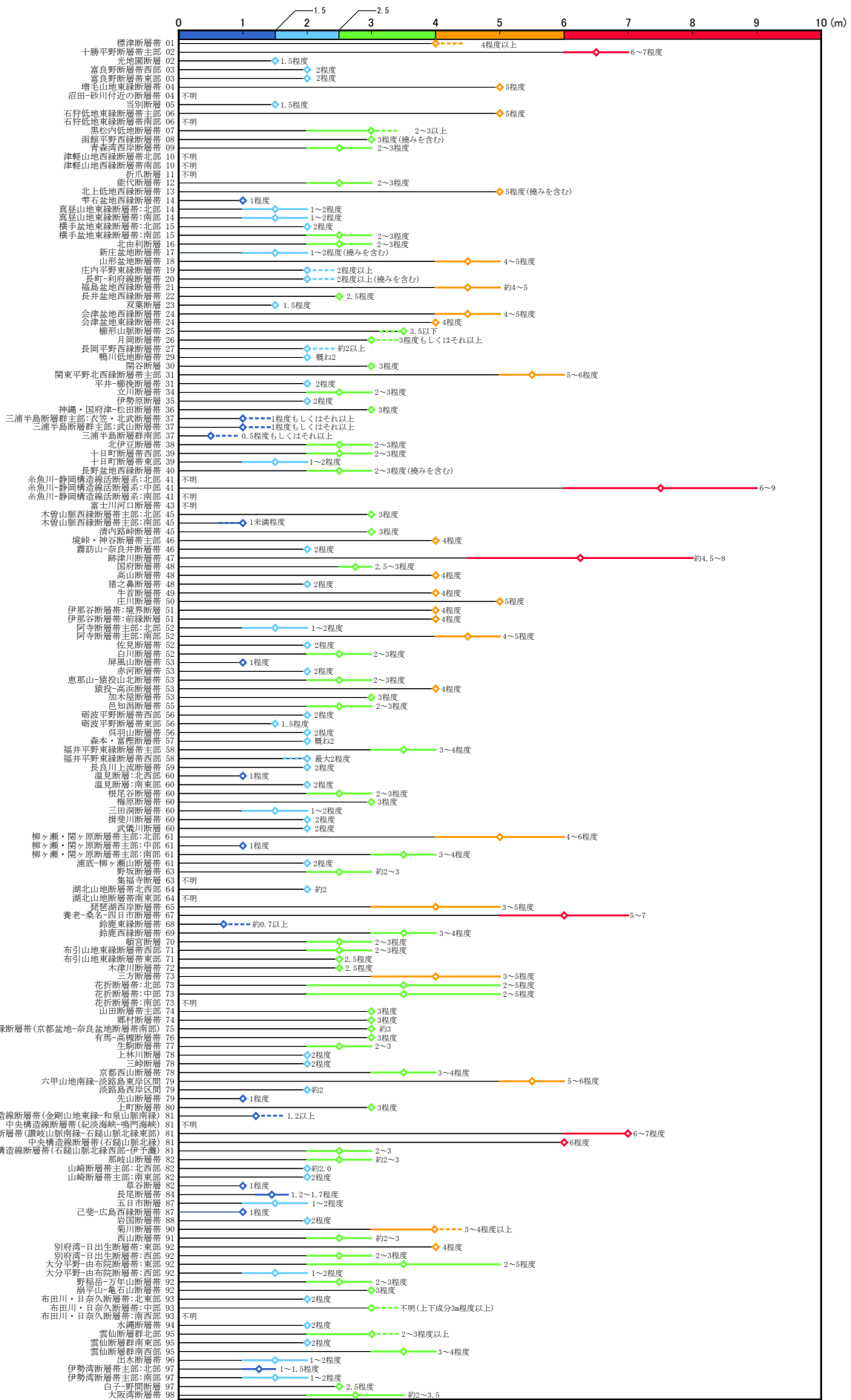
・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 ・62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注)分類の基準は評価値の幅の中央値。なお、以下の断層帯に留意。また、各断層帯の評価値は付図1-17及び付表1を参照。

- ① 1つの断層帯で、上下成分と横ずれ成分のいずれの向きが得られている場合は、卓越するいずれの向きの変位量を代表値とした。
- ② 次の断層帯は、示された値「以上」と評価されているため、値の最高値とした。(1標津断層帯、7黒松内低地断層帯、19庄内平野東縁断層帯、20長町-利府線断層帯、26月岡断層帯、27長岡平野西縁断層帯、37三浦半島断層群、68鈴鹿東縁断層帯、81中央構造線断層帯[金剛山地東縁-和泉山脈南縁]、90菊川断層帯、93布田川・日奈久断層帯[中部]、95雲仙断層群[北部])。
- ③ 25楯形山脈断層帯は、示された値「以下」と評価されている。

付図16 過去の活動における1回のずれの量



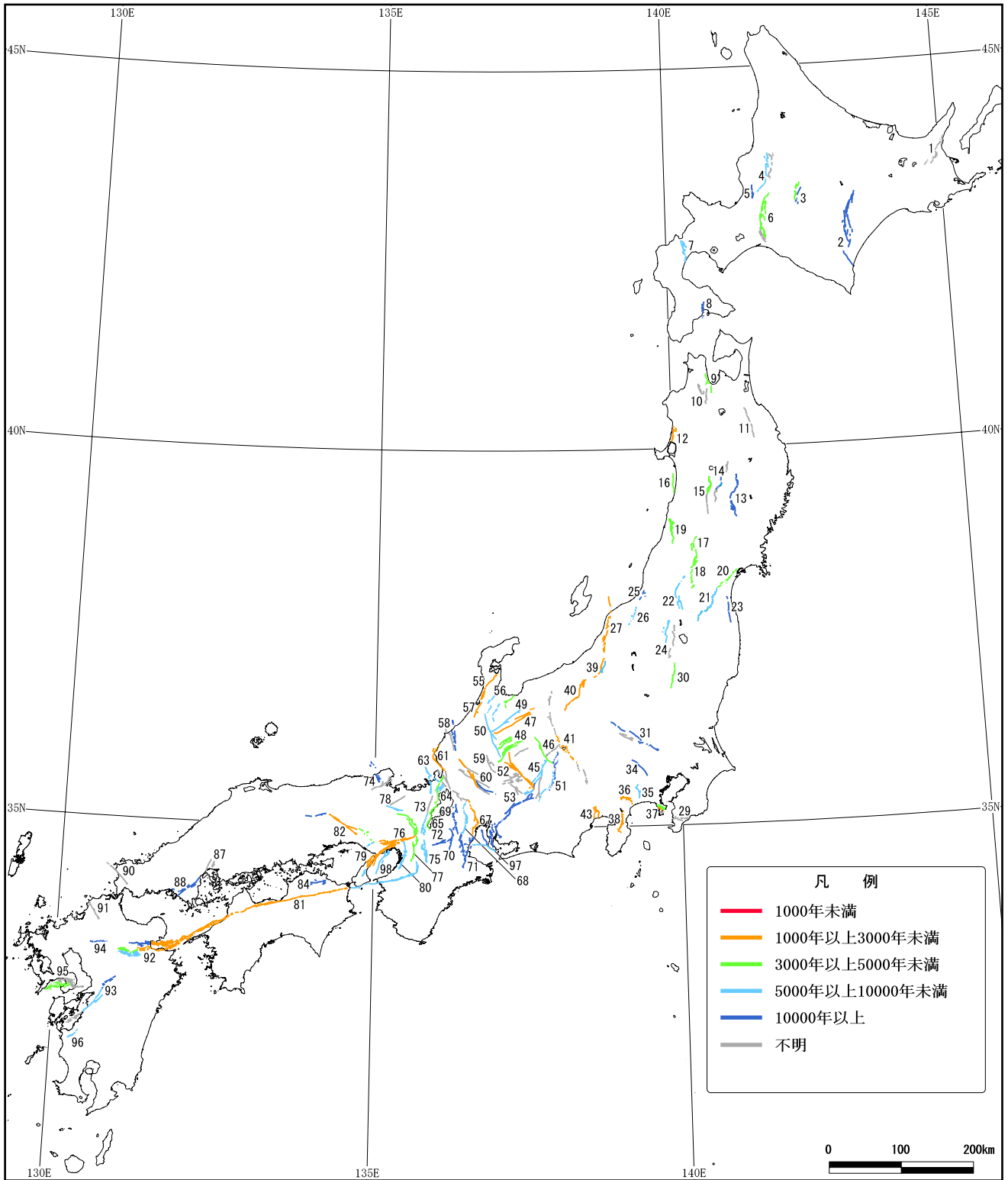
凡例

評価値の幅

以下 以上

評価値の幅の中央(分類の基準)

付図17 過去の活動における1回のずれの量の評価値の幅



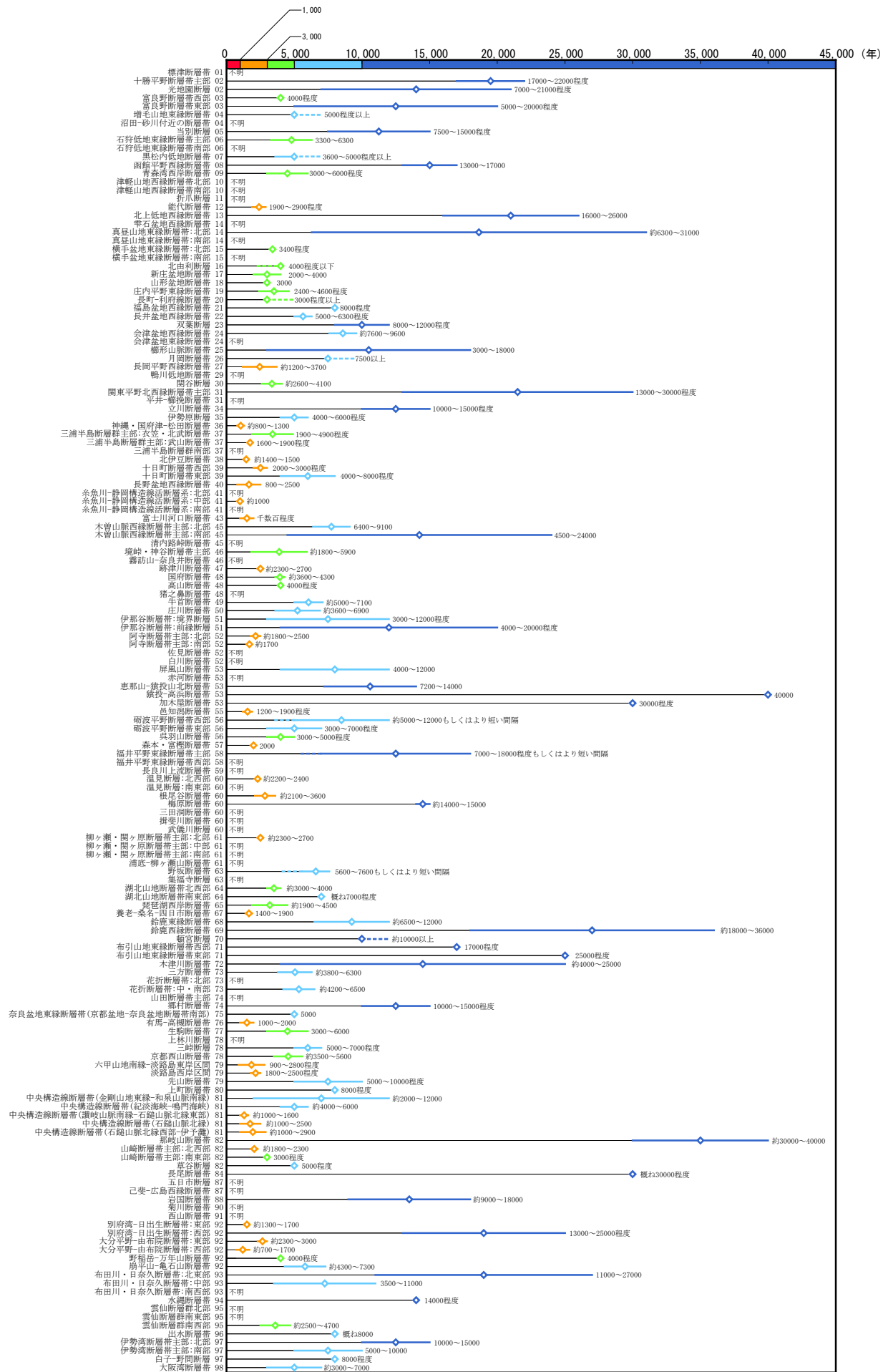
・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層帯)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注)分類の基準は評価値の幅の中央値。なお、以下の断層帯に留意。また、各断層帯の評価値は付図1-19及び付表1を参照。

- ① 1つの断層帯で、上下成分と横ずれ成分のずれの向きが得られている場合は、卓越するずれの向きの平均変位速度を代表値とした。
- ② 次の断層帯は、示された値「以上」と評価されているため、値の最高値とした。(4増毛山地東縁断層帯[主部]、7黒松内低地断層帯、20長町-利府線断層帯、26月岡断層帯、70頓宮断層帯)。
- ③ 16北由利断層は、示された値「以下」と評価されている。

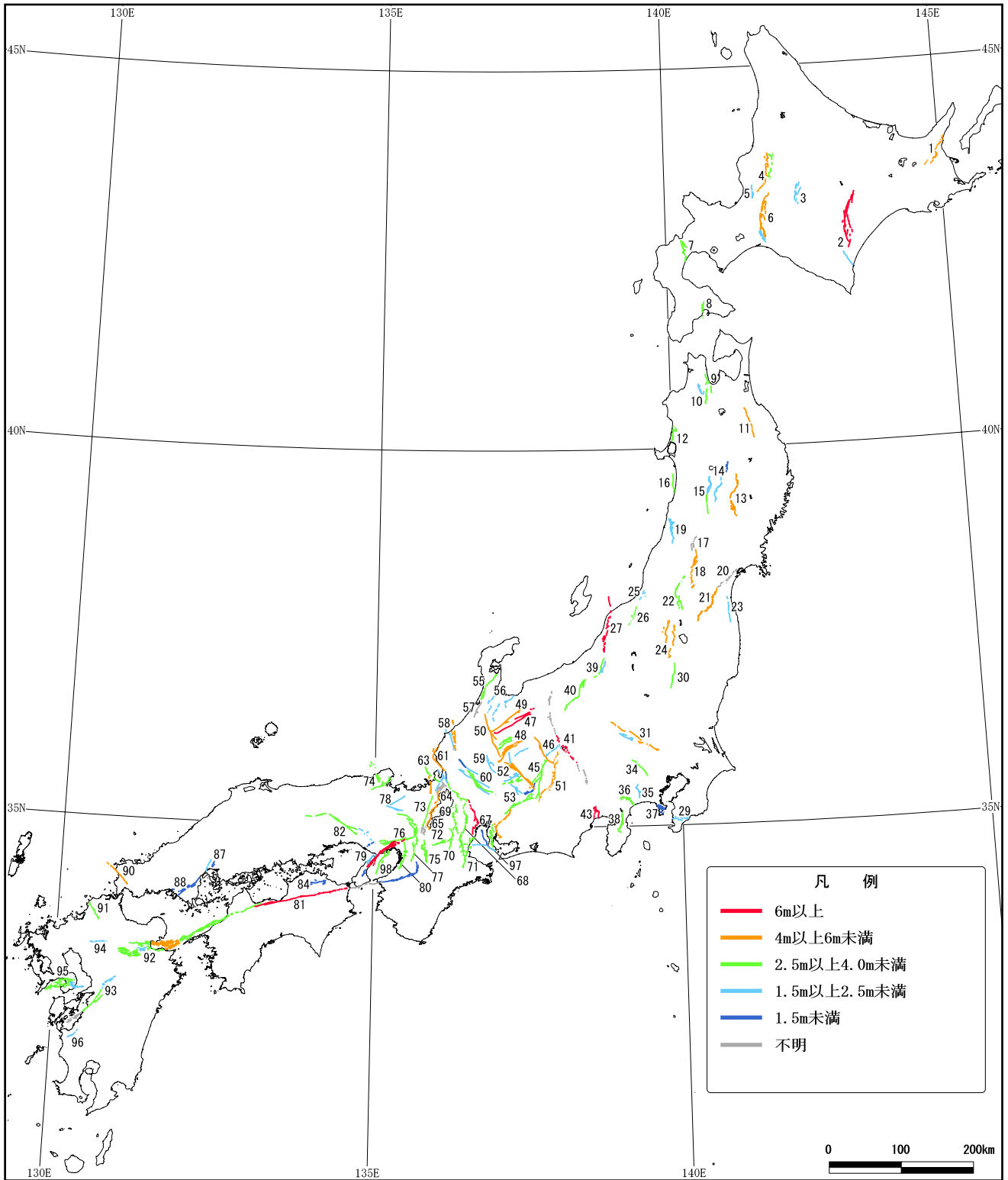
付図18 平均活動間隔



凡例
 以下 評価値の幅 以上
 評価値の幅の中央(分類の基準)

* 図面上端のカラーバーは、左頁の区分範囲を、図中の値幅の線の着色は、幅の中央の値が属する色で示しており、左頁の地図と対応している。

付図19 平均活動間隔の評価値の幅



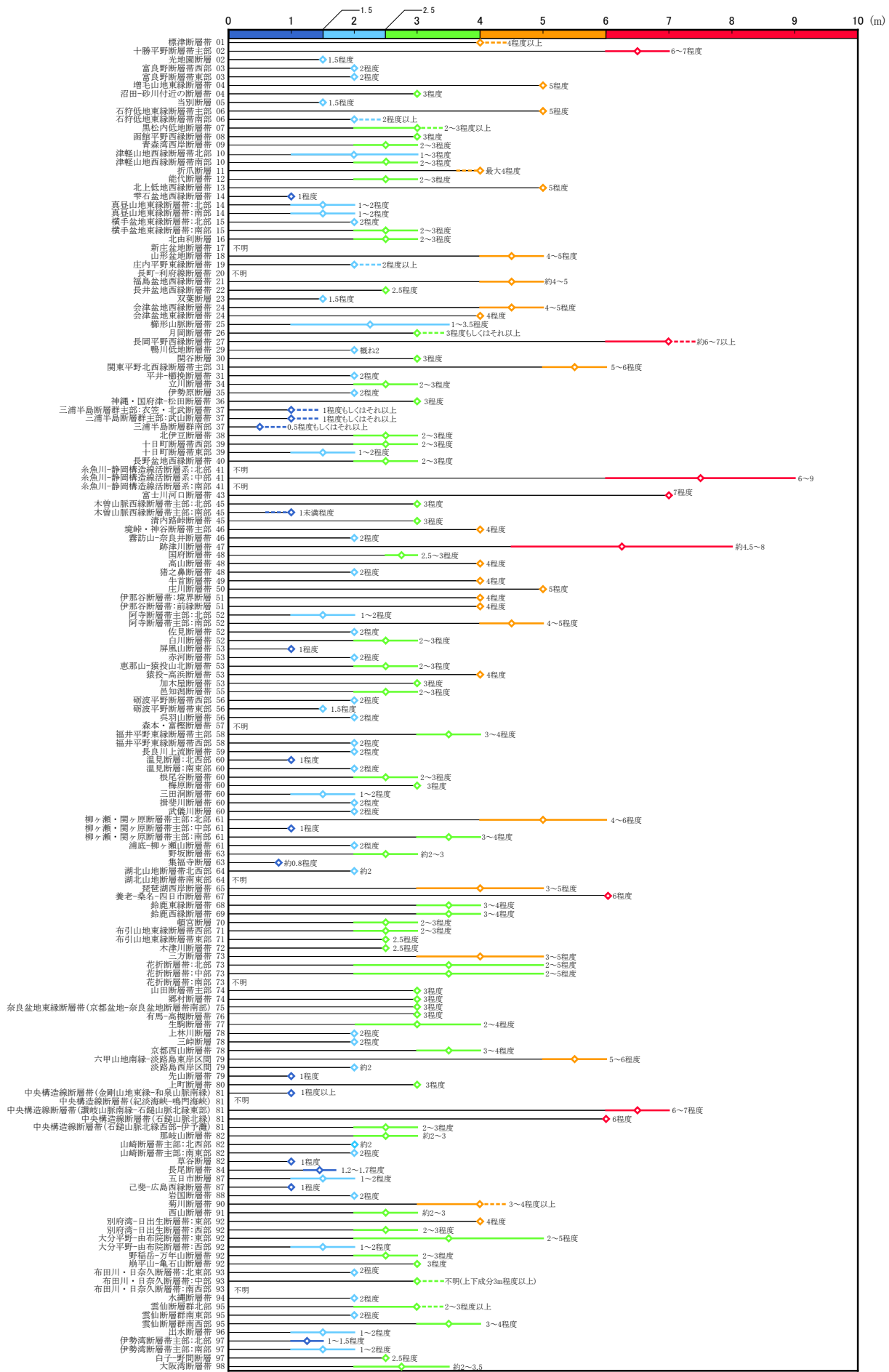
・42,44米川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

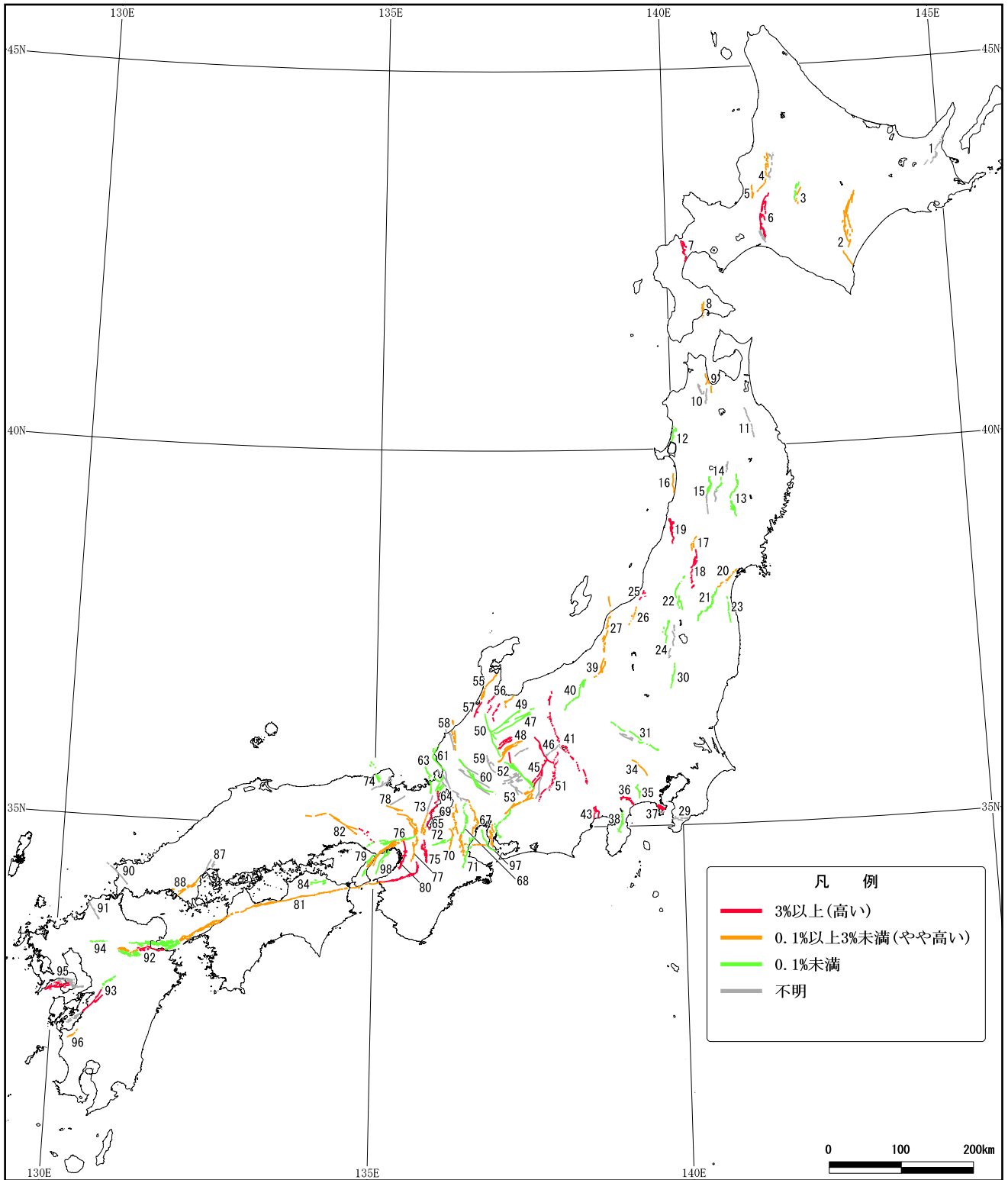
注)分類の基準は評価値の幅の中央値。なお、以下の断層帯に留意。また、各断層帯の評価値は付図1-21及び付表1を参照。

- ① 1つの断層帯で、上下成分と横ずれ成分のいずれの向きが得られている場合は、卓越するずれの向きの変位量を代表値とした。
- ② 次の断層帯は、示された値「以上」と評価されているため、値の最高値とした。(1標津断層帯、6石狩山地東縁断層帯[南部]、7黒松内低地断層帯、19庄内平野東縁断層帯、26月岡断層帯、27長岡平野西縁断層帯、37三浦半島断層群、81中央構造線断層帯[金剛山地東縁-和泉山脈南縁]、90菊川断層帯、93布田川・日奈久断層帯[中部]、95雲仙断層群[北部])。
- ③ 11折爪断層で示された値は、最大の場合と評価されている。

付図20 将来の活動における1回のずれの量



付図21 将来の活動における1回のずれの量の評価値の幅



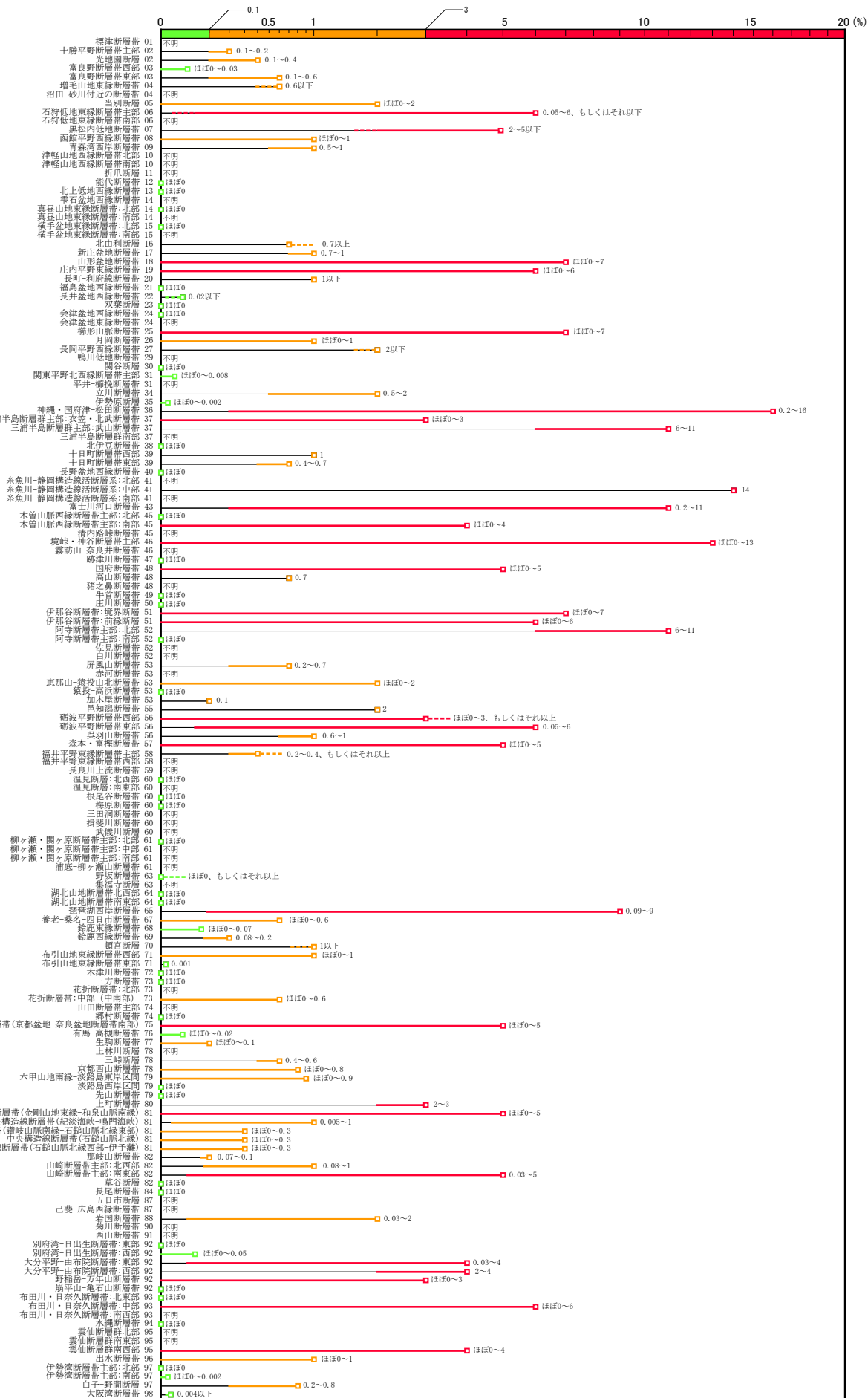
・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注)分類の基準は評価値の最大値。なお、以下の断層帯に留意。また、各断層帯の評価値は付図1-23及び付表1を参照。

- ① 41(42,44)糸魚川-静岡構造線活断層系の地震発生確率は、「牛伏寺断層を含む区間」について求められている。ただし、その区間については示されていないことから、ここでは41、42及び44を一括して示している。

付図22 将来の地震発生確率



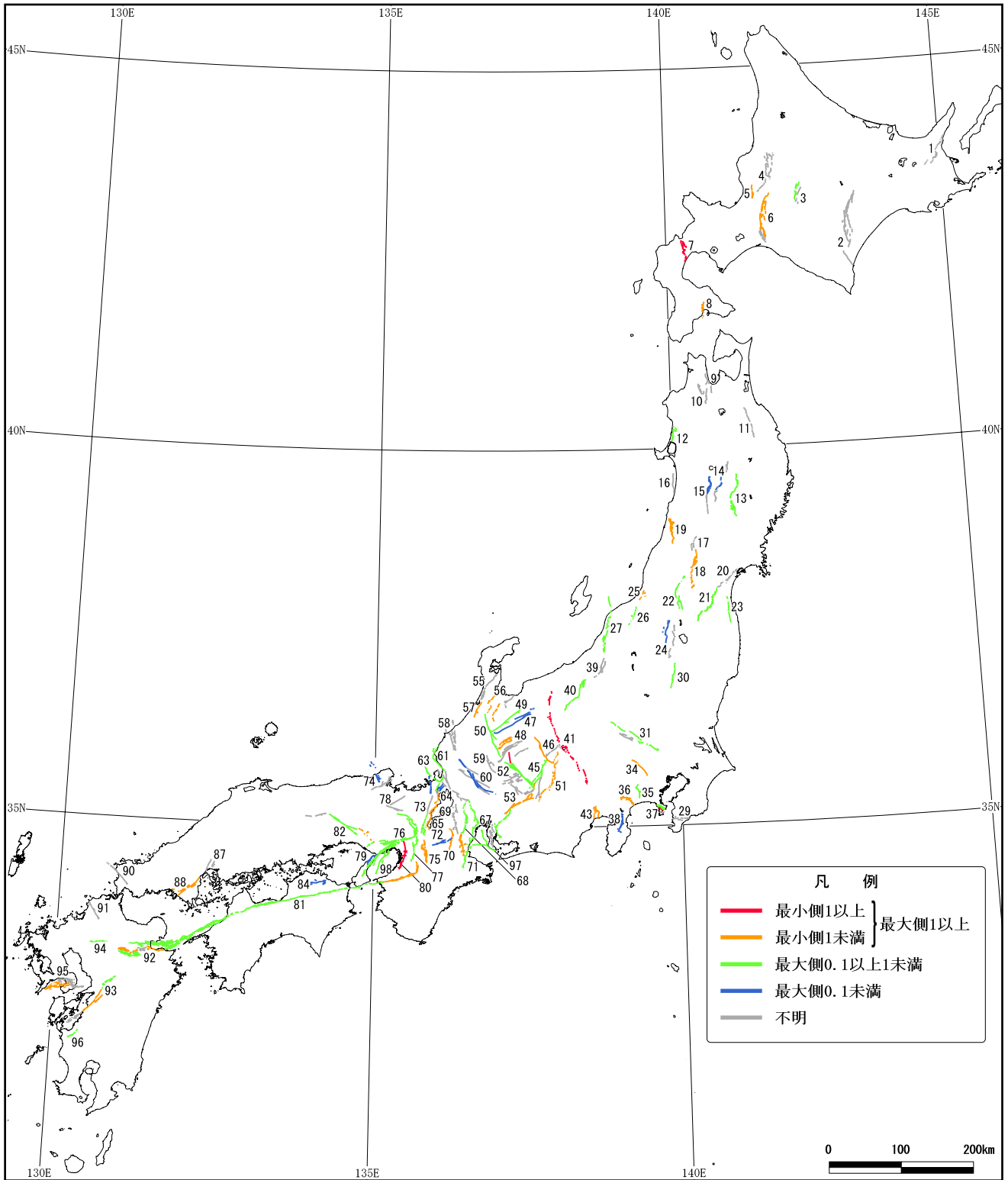
凡例

以下 評価値の幅 以上

評価値の最大値(分類の基準)

* 図面上端のカラーバーは、左頁の区分範囲を、図中の値幅の線の着色は、幅の最大値が属する色で示しており、左頁の地図と対応している。

付図23 将来の地震発生確率の評価値の幅

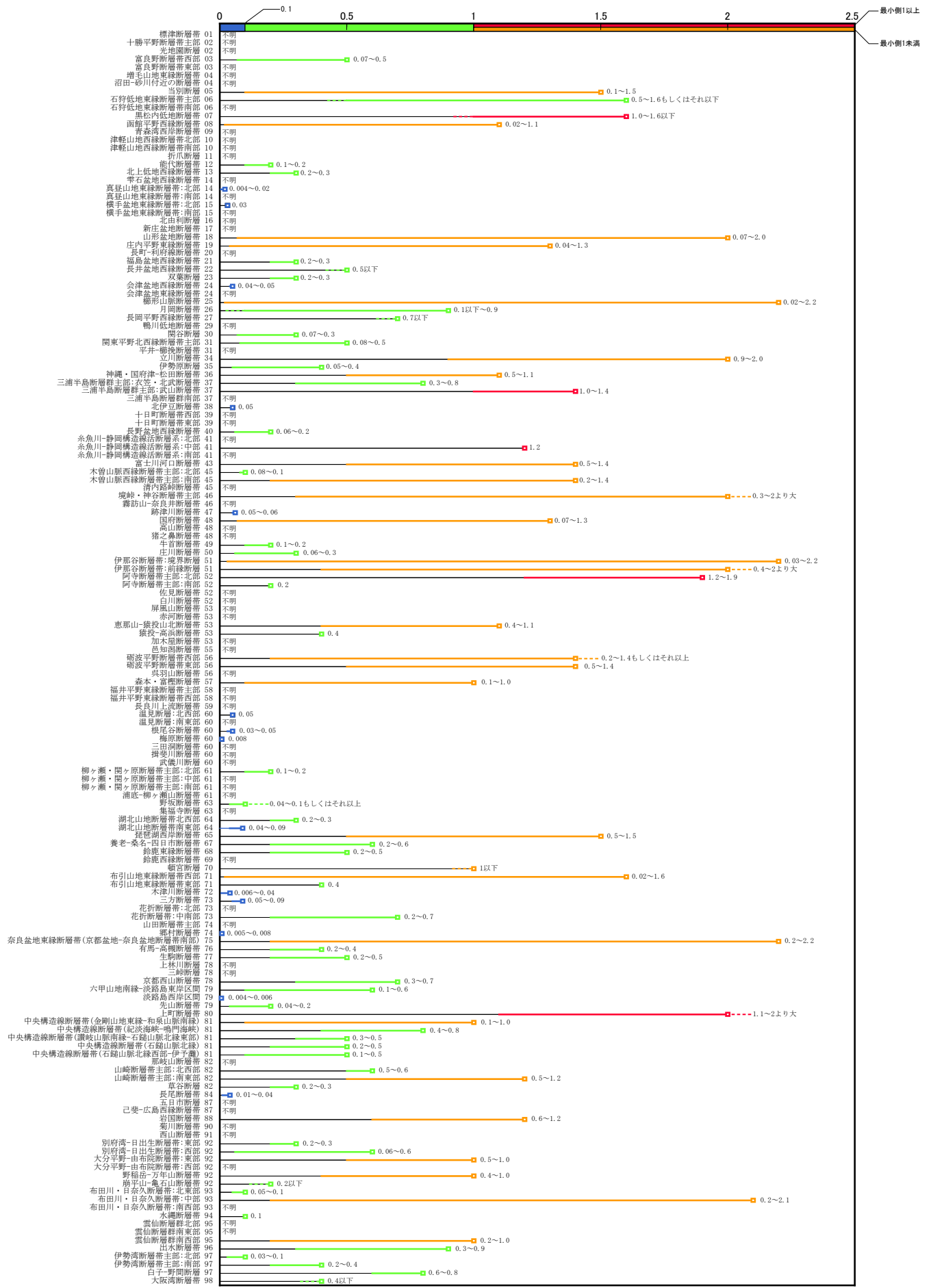


・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

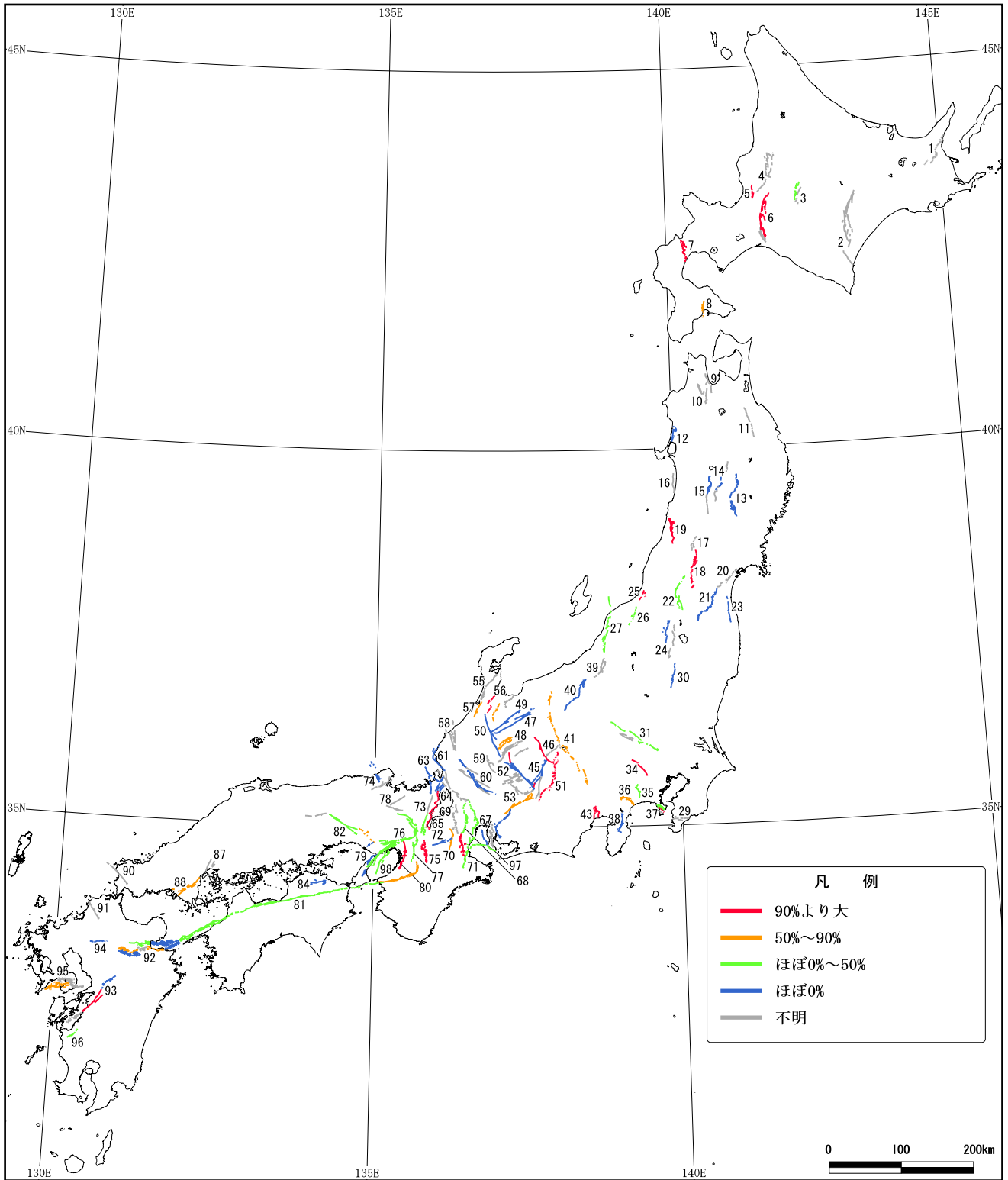
この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注)分類の基準は評価値幅の最大値。また、各断層帯の評価値は付図1-25及び付表1を参照。

付図24 地震後経過率



付図25 地震後経過率の評価値の幅の分布

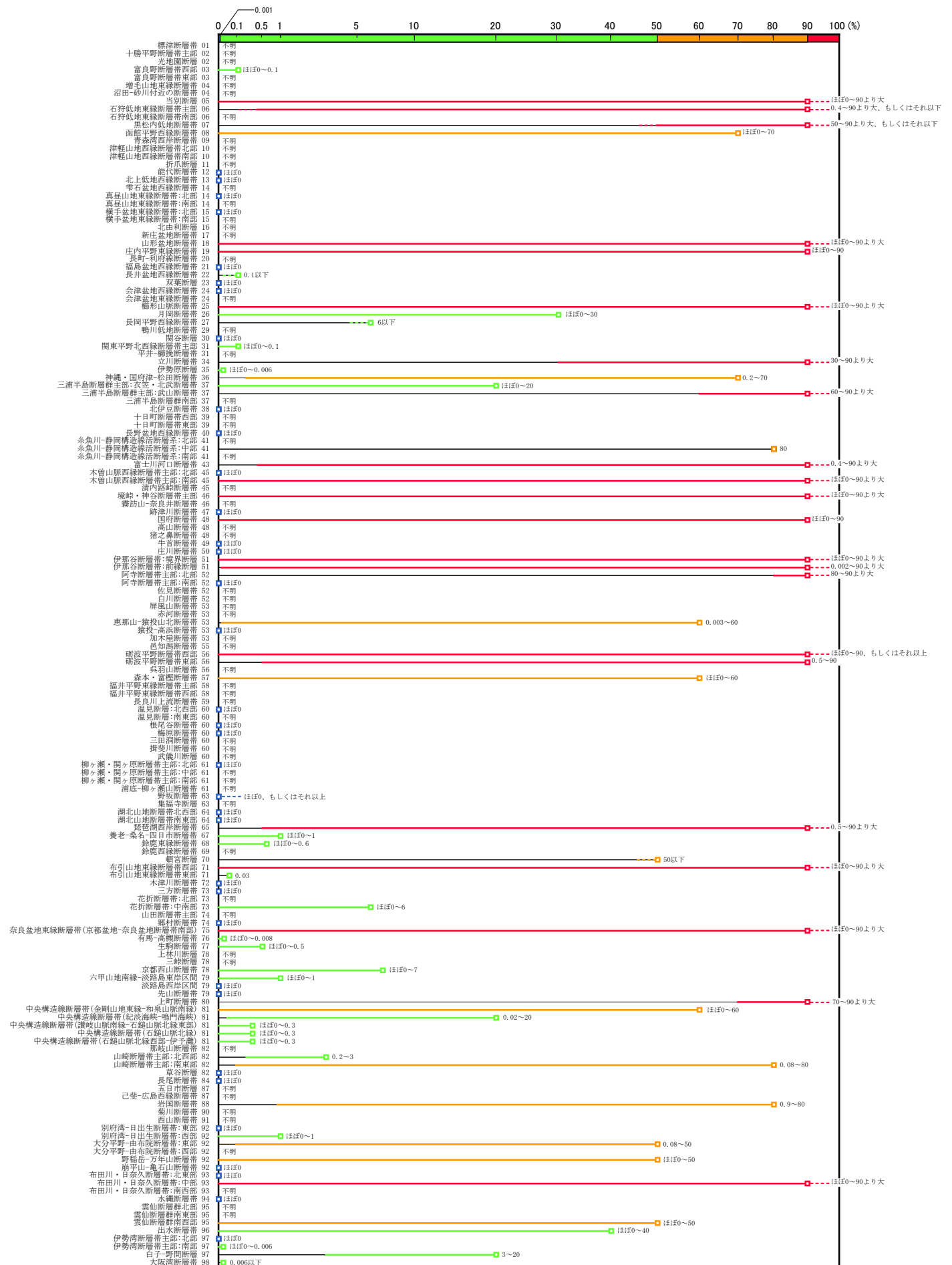


・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

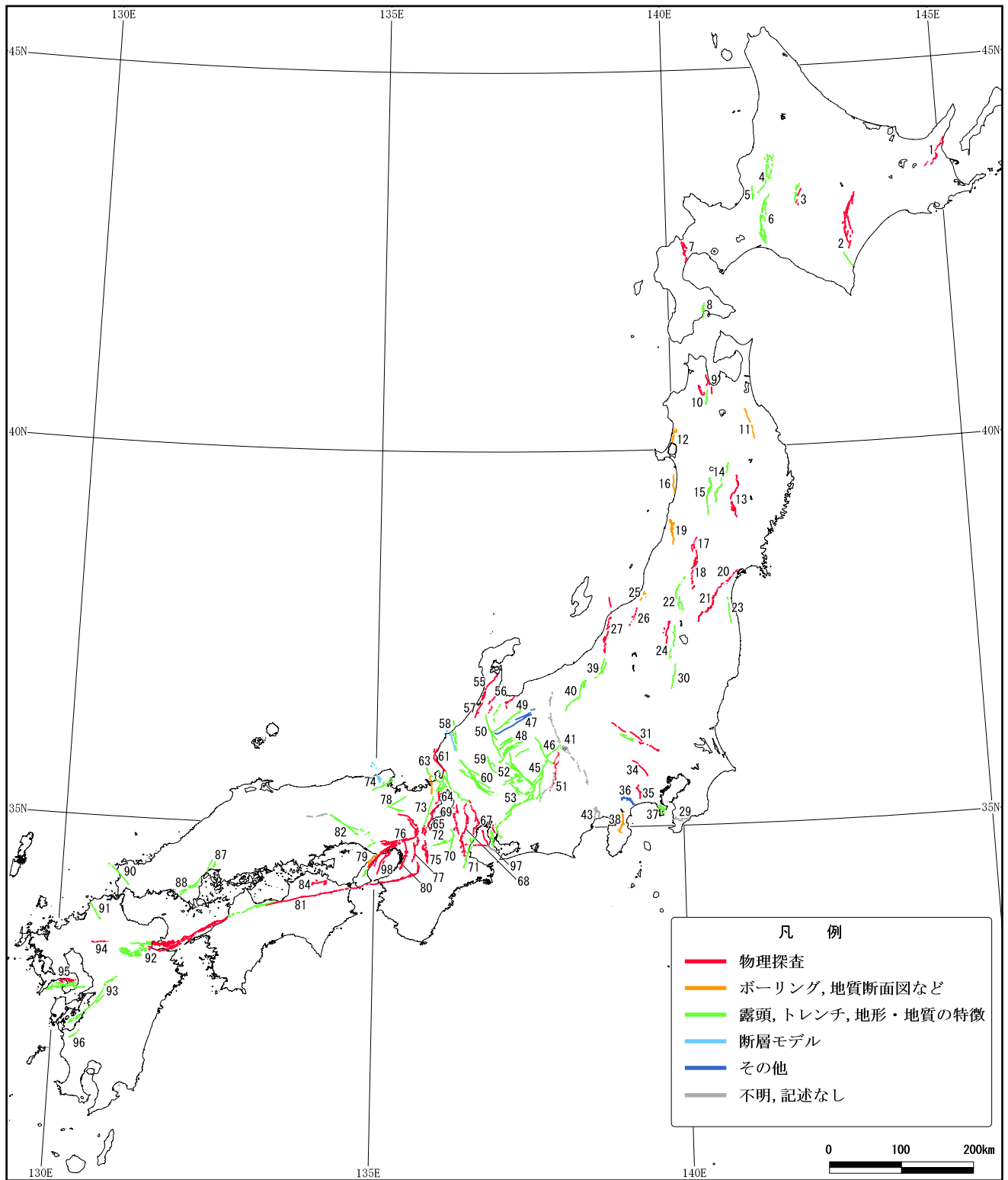
この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注)分類の基準は評価値幅の最大値。また、各断層帯の評価値は付図1-27及び付表1を参照。

付図26 集積確率(最大値)



付図27 集積確率の評価値の幅



・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層帯)は表示していない。

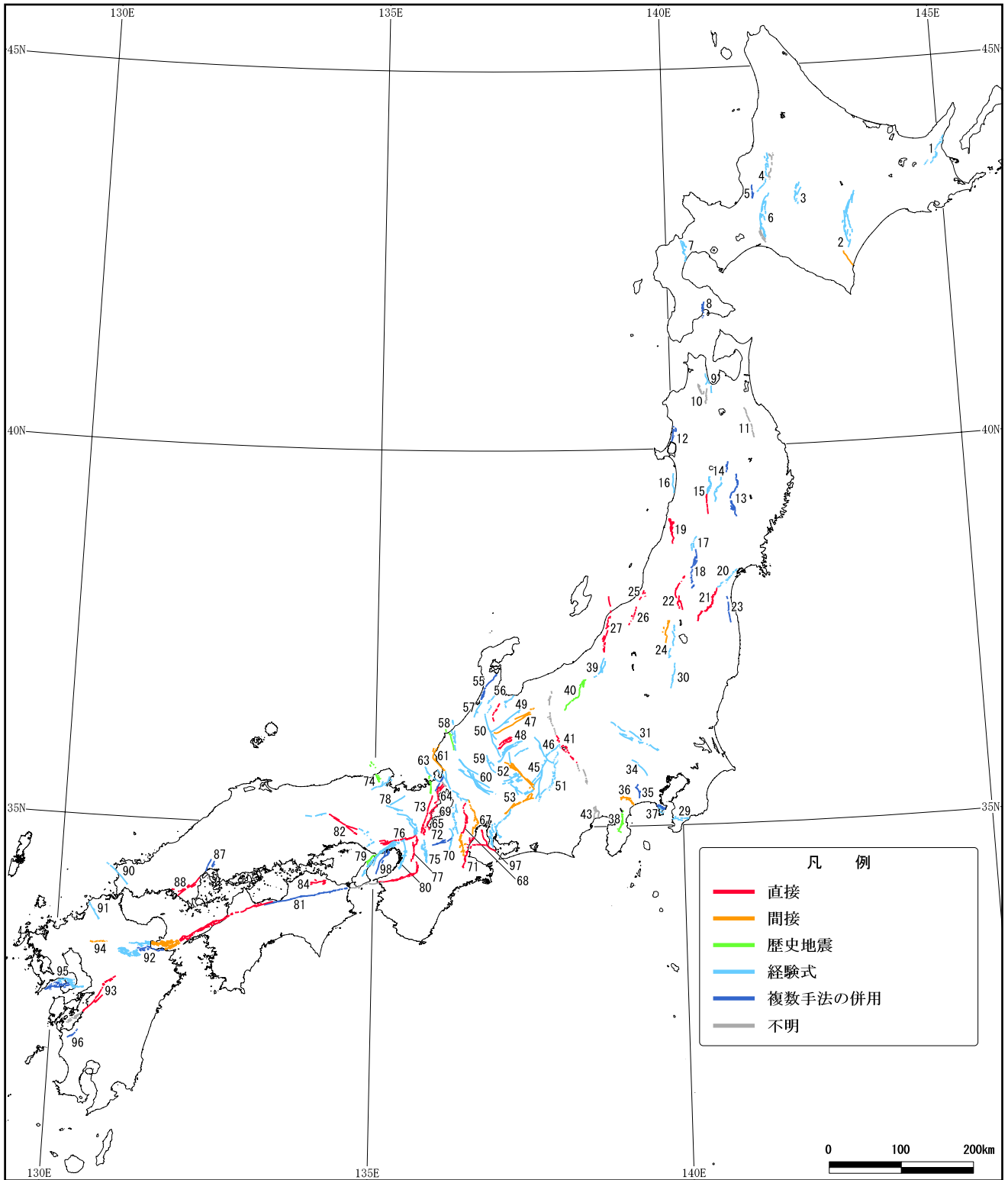
この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注)一つの活動区間で、複数の手法が記述されている場合は、より深部の情報が得られた手法を代表手法として、図示した。

付図28 断層面の傾斜の評価手法別分類



付図29 断層面の傾斜の評価手法と断層の長さの対応

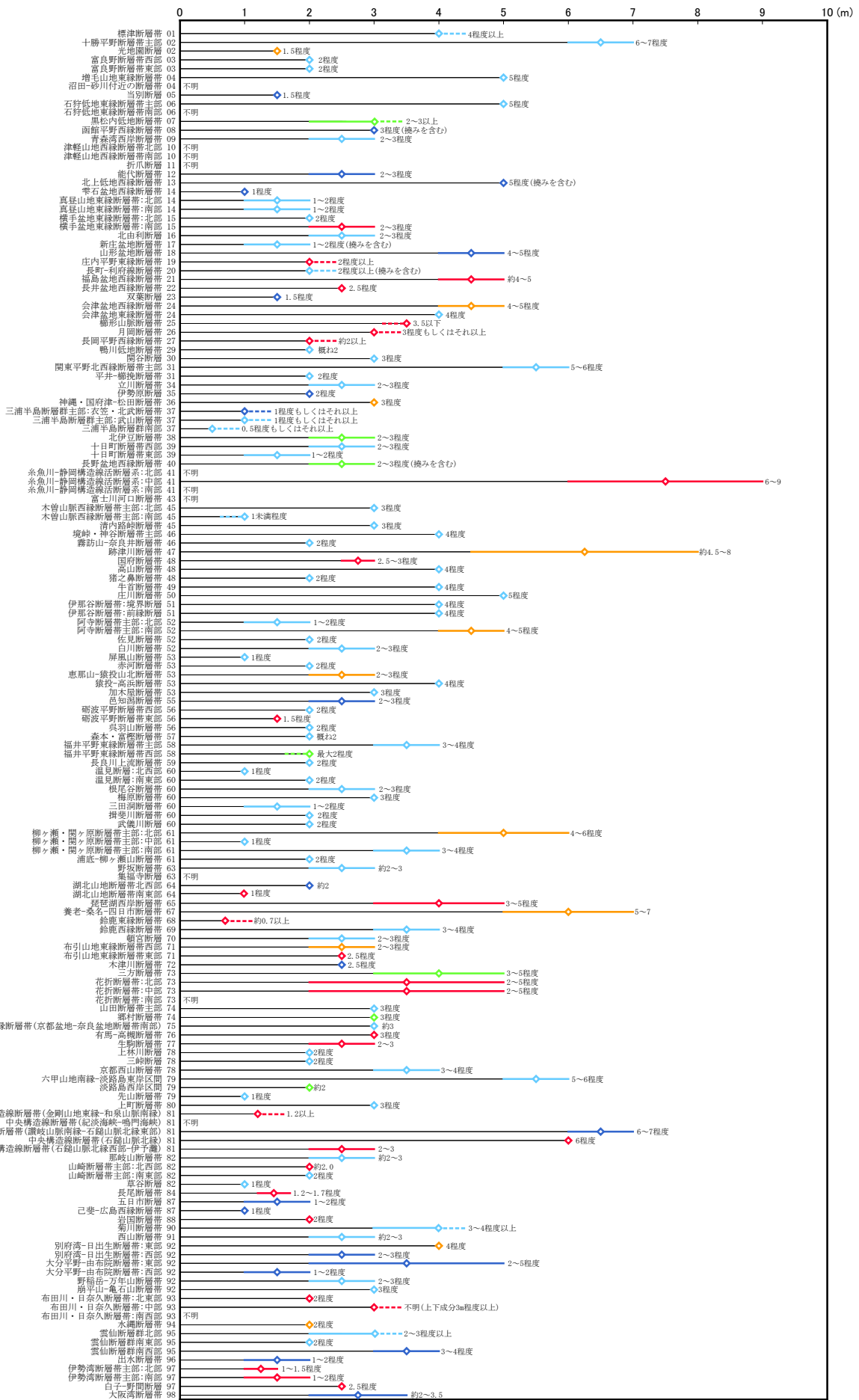


・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-宮断層)は表示していない。

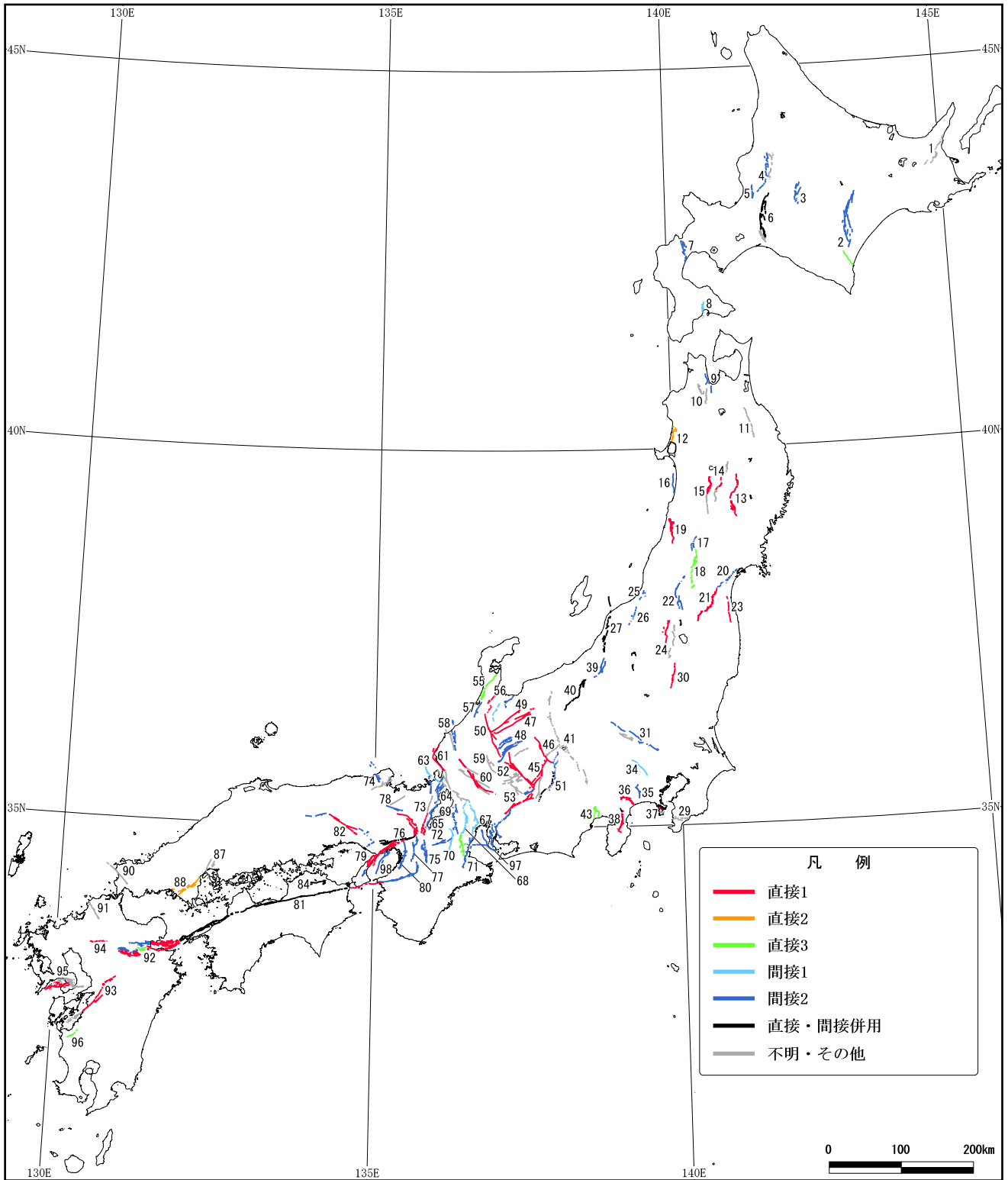
この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注) 凡例中の直接は、本文2.2.4(3)の「直接的に求める手法」、間接は「間接的に求める手法」、歴史地震は「歴史地震から推定する方法」、経験式は「断層長から補助的に推定する方法」を略記したものである。また、複数手法の併用は、これらの手法のいくつかを組み合わせたものを略記したものである。

付図30 過去の活動における1回のずれの量の評価手法別分類



付図31 過去の活動における1回のずれの量と評価手法の対応



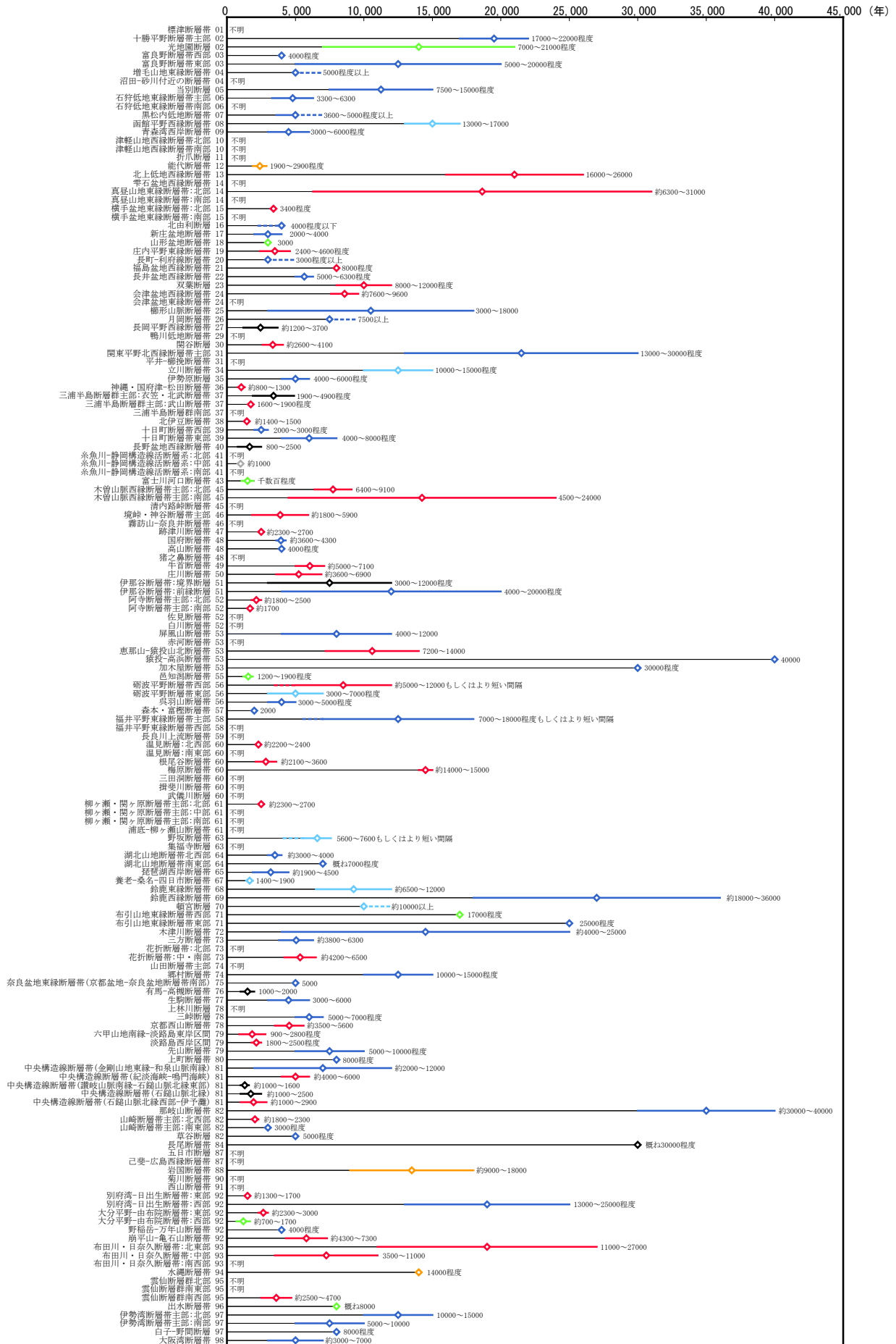
・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注1) 凡例中の直接1は、本文2.2.4(4)の「個々の活動履歴から直接的に求める手法」、直接2は「直接的に求める手法2」、直接3は「直接的に求める手法3」、間接1は「間接的に求める手法1」、間接2は「間接的に求める手法2」、直接・間接併用は「直接的手法、間接的手法の両方を併用」を略記したものである。

注2) 凡例中の不明・その他は、41(42,43)糸魚川-静岡構造線活断層系、43富士川河口断層帯について、活動間隔の評価手法が不明であるため、その他とした。

付図32 平均活動間隔の評価手法別分類

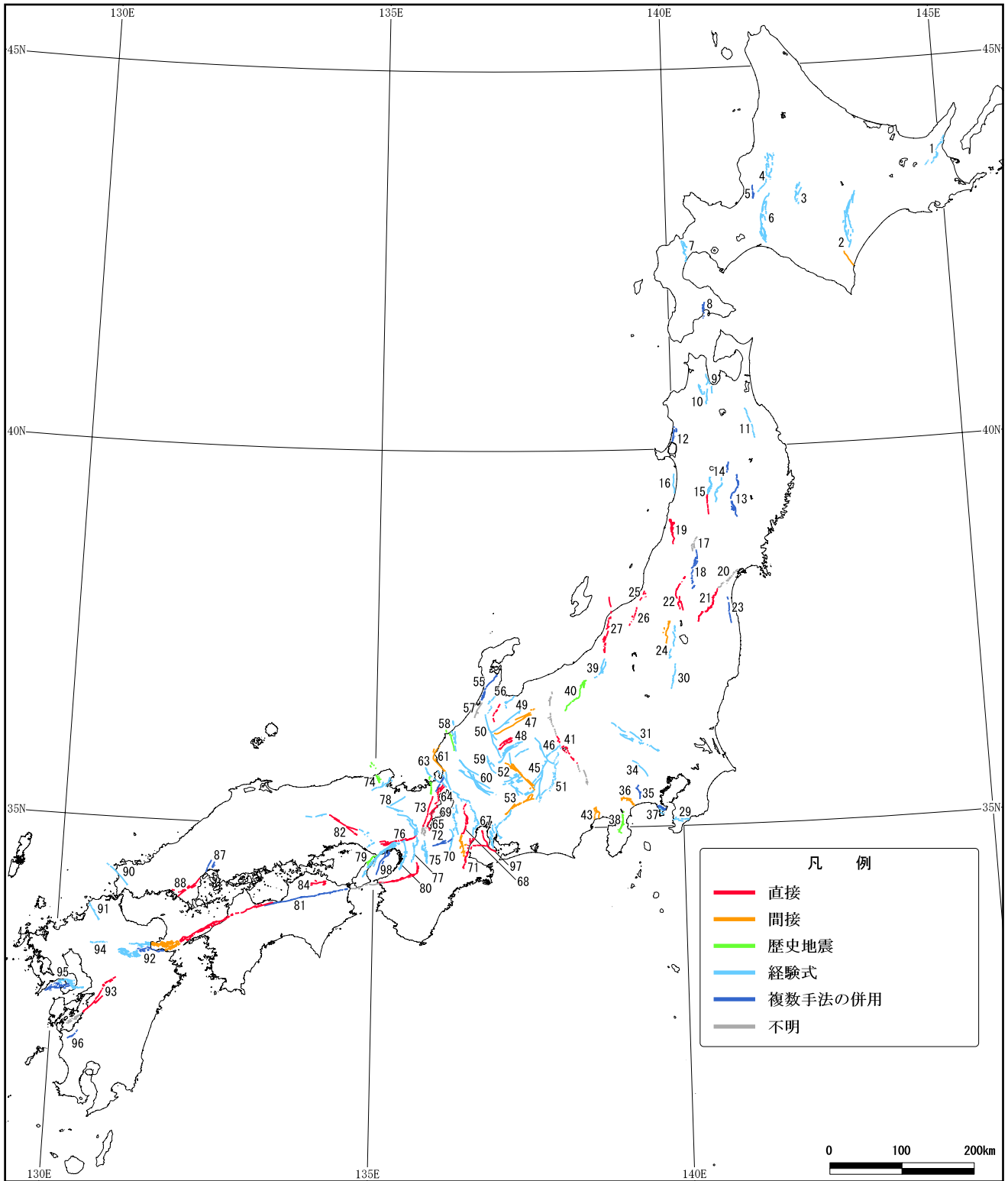


凡例

評価値の幅
以下 以上
評価値の幅の中央

手法
直接1 直接2 直接3
間接1 間接2
直接・間接併用 その他

付図33 平均活動間隔の評価値の幅と評価手法の対応

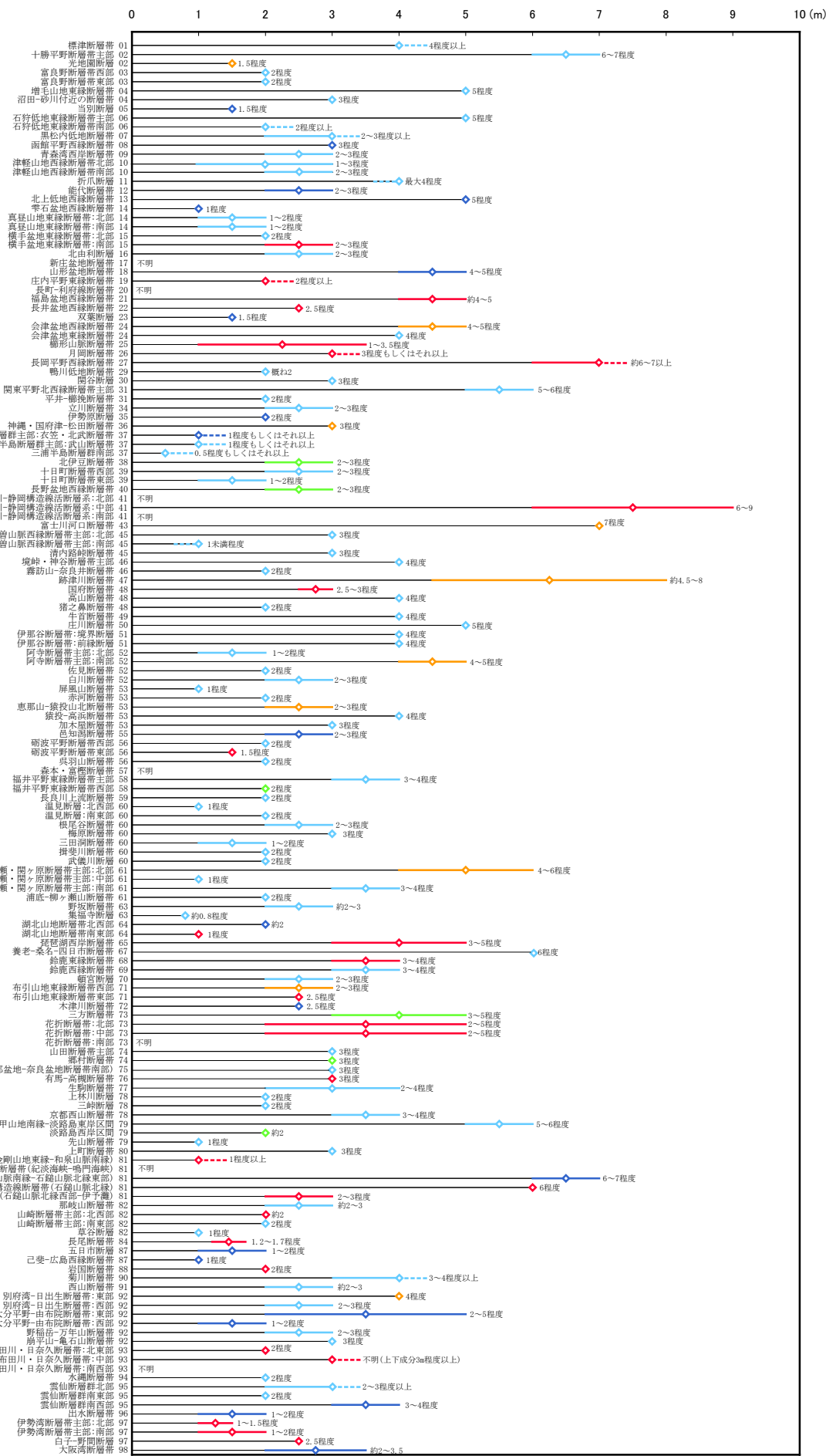


・42,44米川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注) 凡例中の直接は、本文2.2.4(3)の「直接的に求める手法」、間接は「間接的に求める手法」、歴史地震は「歴史地震から推定する方法」、経験式は「断層長から補助的に推定する方法」を略記したものである。また、複数手法の併用は、これらの手法のいくつかを組み合わせたものを略記したものである。

付図34 将来の活動における1回のずれの量の評価手法別分類

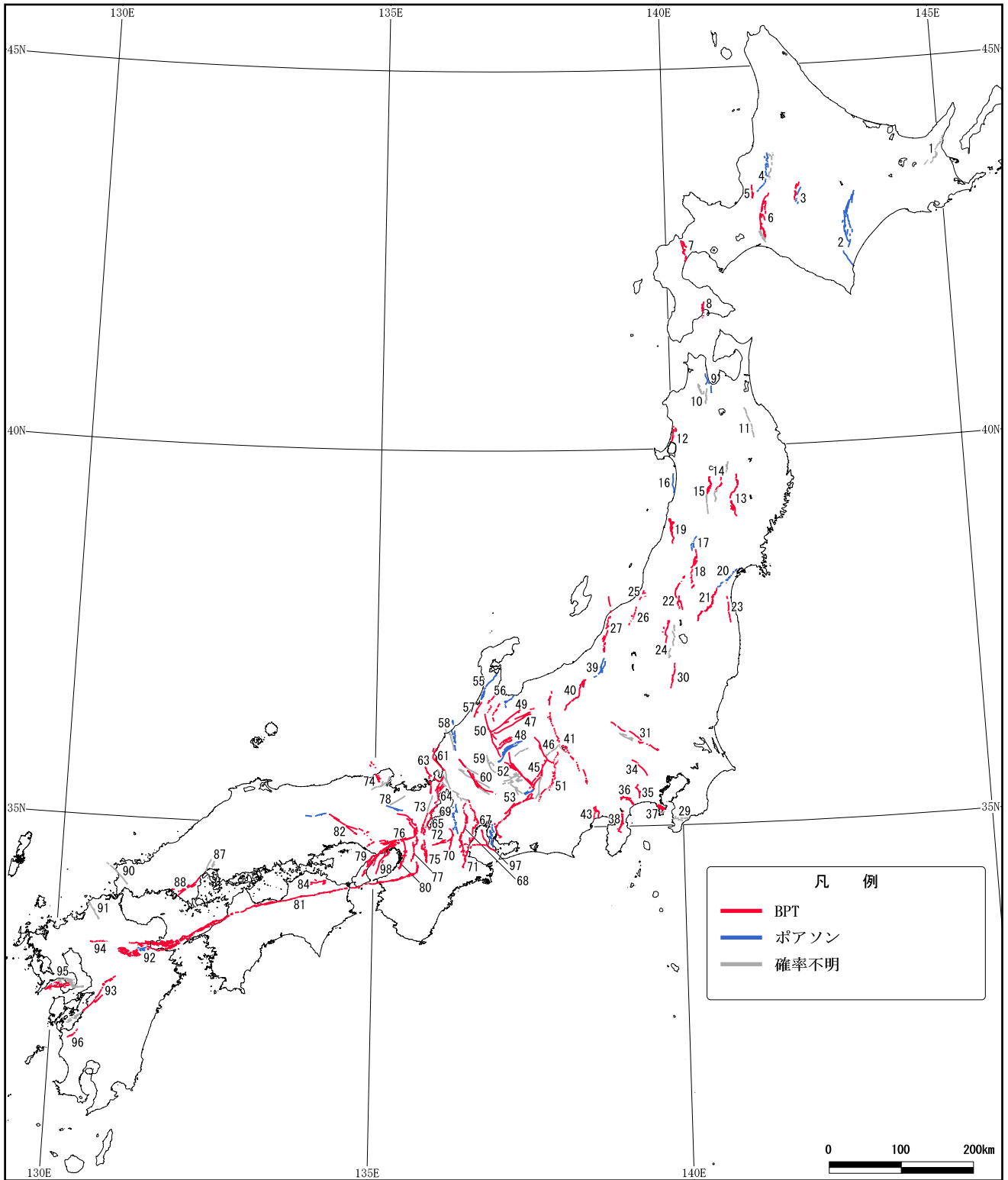


凡例

評価値の幅: 以下, 以上, 評価値の幅の中央

手法: 直接 (Red line), 間接 (Orange line), 経験式 (Blue line), 複数手法の併用 (Blue line with diamond), 歴史地震 (Green line), 不明 (Black line)

付図35 将来の活動における1回のずれの量と評価手法の対応

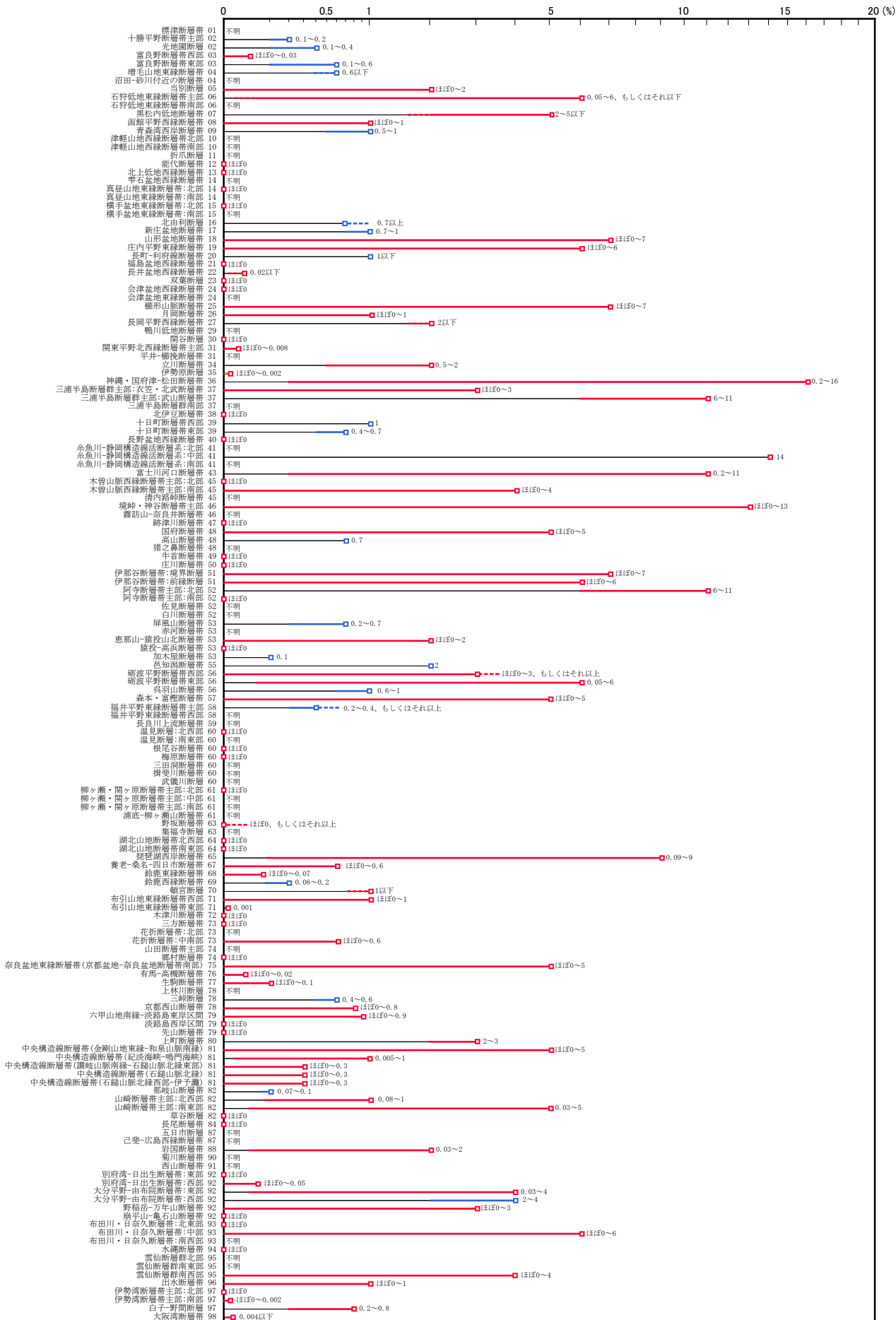


・42,44糸魚川-静岡構造線活断層系は41に統合。54猿投山断層帯は53に統合。
 62柳ヶ瀬断層帯は61に統合。83,85,86,89中央構造線断層帯は81に統合。
 ・活断層ではないと評価された4断層帯(28東京湾北縁断層帯、32元荒川断層帯、
 33荒川断層帯、66岐阜-一宮断層帯)は表示していない。

この地図の海岸線には国土地理院の「地球地図日本」を使用した。
 地図の範囲は基盤的調査観測の対象活断層の分布する範囲。

注) 41(42,44)糸魚川-静岡構造線活断層系の地震発生確率は、「牛伏寺断層を含む区間」について求められている。ただし、その区間については示されていないことから、ここでは41、42及び44を一括して、BPTを適用したとして示している。

付図36 将来の地震発生確率算出手法



凡例 以下 評価値の幅 以上 手法 BPT ボアソン 評価値の最大値

付図37 将来の地震発生確率と評価値算出手法の対応

付録 2 . 主要 98 断層帯のパラメータ (一覧表)

断層帯の評価でとりまとめた各パラメータの値を一覧表にとりまとめた。なお、本表は主要 98 断層帯を概観するために、評価内容から数値及び手法を取り出したものである。これらの値の詳細については、断層帯ごとの評価文を参照されたい。

(添付表リスト)

付表 1 活動区間別パラメータ一覧表

付表1 活動区間別パラメータ一覧表(1)

名称 ¹⁾	断面長さ (km)	ずれの向きと種類			深さ ²⁾ (km)	断面の幅 (km)	断層面の傾斜			平均的なずれの速度			活動時期				過去の活動における1回のずれ量		平均活動間隔		将来の活動における1回のずれ量		将来の地震発生確率							
		主となる断層型	主な隆起傾/ずれ向	その他のずれの向きなど			傾斜の向きまたは角度	傾斜の適用深度の記述	手法 ³⁾	成分	(m/千年)	活動度	最新活動時期	経過年最遠側	～	経過年最近側	歴史地震	(m)	手法 ⁴⁾	(年)	手法 ⁴⁾	マグニチュード(M)	(m)	手法 ⁴⁾	地震後経過率	確率適用	今後30年以内の将来の地震発生確率(%) ⁵⁾	累積確率(%) ⁶⁾	信頼度	区分 ⁷⁾
1標津	52<	逆	北西		15	不明	北西		物		不明	B	不明			4<	経験式	不明	値不明	7.7	4<	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明		
2十勝平野(主部)	84	逆	東		20	不明	東		物	上下	0.3-0.4		不明			6-7	経験式	17000-22000	間接2	8.0	6-7	経験式	不明	ポアソン	0.1~0.2	不明	d	やや高い		
2十勝平野(光地園断層)	26	逆	東		20	不明	東		ト・露・地形	上下	0.1-0.2		約21000年前以後。 ⁸⁾	21000	↓			1.5	間接	7000-21000	直接3	7.2	1.5	間接	不明	ポアソン	0.1~0.4	不明	d	やや高い
3富良野(西部)	27	逆	西		15	不明	西		ト・露・地形	上下	0.5		西暦2世紀以後、西暦1739年以前。	1905	～	266		2	経験式	4000	間接2	7.2	2	経験式	0.07~0.5	BPT	ほぼ0~0.03	ほぼ0~0.1	c	
3富良野(東部)	25	逆	東		15	不明	東		物	上下	0.1-0.4		不明					2	経験式	5000-20000	間接2	7.2	2	経験式	不明	ポアソン	0.1~0.6	不明	d	やや高い
4増毛山地東縁・沼田一砂川付近(増毛山地東縁)	60	逆	西		20	不明	西		ト・露・地形	上下	<1	B	不明					5	経験式	5000<	間接2	7.8	5	経験式	不明	ポアソン	0.6以下	不明	d	やや高い
4増毛山地東縁・沼田一砂川付近(沼田一砂川付近)	38	逆	東		20	不明	東		ト・露・地形		不明		不明					値不明	不明	値不明	7.5	3	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
5当別断層	20	逆	西		20	不明	30~50° 西	地表付近	ト・露・地形	上下	0.1-0.2		約11000年前以後、約2200年前以前。	11000	～	2200		1.5	直・式併用	7500-15000	間接2	7.0	1.5	直・式併用	0.1~1.5	BPT	ほぼ0~2	ほぼ0~90より大	c	やや高い
6石狩低地東縁(主部)	66	逆	東		30<	不明	東		ト・露・地形	上下	0.8-1.5		約5200年前以後、約3300年前以前、もしくはこれ以後。	5200	↓	3300		5	経験式	3300-6300	間接2	7.9	5	経験式	0.5~1.6もしくはそれ以下	BPT	0.05~6、もしくはそれ以下	0.4~90より大、もしくはそれ以下	b	高い
6石狩低地東縁(南部)	23<	逆	東		30<	不明	(低角度)東		ト・露・地形	上下	0.2		不明					値不明	不明	値不明	7.1	2<	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
7黒松内低地	32<	逆	西		15	不明	西		物	上下	0.5-0.7		約5900年前以後、約4900年前以前。	5900	～	4900		2-3<	経験式	3600-5000<	間接2	7.3	2-3<	経験式	1.0~1.6以下	BPT	2~5以下	50~90より大、もしくはそれ以下	c	高い
8函館平野西縁	24	逆	西		<15	不明	西		ト・露・地形	上下	0.2-0.4		14000年前以後。	14000	↓			3	間・式併用	13000-17000	間接1	7.0-7.5	3	間・式併用	0.02~1.1	BPT	ほぼ0~1	ほぼ0~70	-	やや高い
9青森湾西岸	31	逆	西		15	不明	高角度西		物	上下	0.4-0.8		不明					2-3	経験式	3000-6000	間接2	7.3	2-3	経験式	不明	ポアソン	0.5~1	不明	d	やや高い
10津軽山地西縁(北部)	16	逆	東		15	不明	東		ポ・断面	上下	0.2-0.3		西暦1766年(明和3年)の地震。	239	=	239	(明和3年)の地震	値不明	不明	値不明	6.8-7.3	1-3	経験式 ⁹⁾	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
10津軽山地西縁(南部)	23	逆	東		15	不明	東		ト・露・地形		不明		西暦1766年(明和3年)の地震。	239	=	239	(明和3年)の地震	値不明	不明	値不明	7.1-7.3	2-3	経験式 ⁹⁾	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
11折爪断層	47	逆	西		15	不明	西		ポ・断面		不明		不明					値不明	不明	値不明	7.6	<=4	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
12能代	22<	逆	東		15	不明	東		ポ・断面	上下	0.8-0.9		西暦1694年(元禄7年)の能代地震。	311	=	311	(元禄7年)の能代地震	2-3	直・間併用	1900-2900	直接2	7.1<	2-3	直・間併用	0.1~0.2	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
13北上低地西縁	62	逆	西		15	20-30	30~40°	地下7000~8000m以浅	物	上下	0.2-0.4		4500年前頃。	4500	=	4500		5	直・間併用	16000-26000	直接1 過去3回	7.8	5	直・間併用	0.2~0.3	BPT	ほぼ0	ほぼ0	-	
14零石盆地西縁-真屋山地東縁(零石盆地西縁)	17	逆	西		15	不明	西		ト・露・地形		不明	B	約2800年前以後、西暦14世紀以前。	2800	～	605		1	直・式併用	不明	値不明	6.9	1	直・式併用	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
14零石盆地西縁-真屋山地東縁(真屋山地東縁/北部)	14-21	逆	西		15	不明	約40° 西	地表付近	ト・露・地形		不明		西暦1896年(明治29年)陸羽地震。	109	=	109	(明治29年)陸羽地震	1-2	経験式	6300-31000	直接1 過去2回	6.7-7.0	1-2	経験式	0.004~0.02	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
14零石盆地西縁-真屋山地東縁(真屋山地東縁/南部)	17-23	逆	西		15	不明	西		ト・露・地形		不明	B	不明					1-2	経験式	不明	値不明	6.9-7.1	1-2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
15横手盆地東縁(北部)	26	逆	東		15	不明	20~30° 東	地表付近	ト・露・地形	上下	1		西暦1896年(明治29年)陸羽地震。	109	=	109	(明治29年)陸羽地震	2	経験式	3400	直接1 過去2回	7.2	2	経験式	0.03	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
15横手盆地東縁(南部)	30	逆	東		15	不明	東		ト・露・地形		不明		約6000~5000年前以後。	6000-5000	↓			2-3	直接	不明	値不明	7.3	2-3	直接	不明	適用不可	不明	不明	-	不明

長さ、深さ、幅、過去の1回変位量、将来の1回変位量の項目で使用した記号のうち、<は「以上・以下(以深・以浅)」、=<及び<=は「もしくは以上・以下(以深・以浅)」の略。経過年で使用した記号のうち、↓は「以後」、↑は「以前」で値が特定されていないことを意味する。

付表1 活動区間別パラメーター一覧表(2)

名称 ¹⁾	断層長さ (km)	ずれの向きと種類			深さ ²⁾ (km)	断層面の幅 (km)	断層面の傾斜			平均的なずれの速度			活動時期				過去の活動における1回のずれ量		平均活動間隔		将来の活動における1回のずれ量		将来の地震発生確率							
		主となる断層型	主な隆起側/ずれ向	その他のずれの向きなど			傾斜の向きまたは角度	傾斜の適用深度の記述	手法 ³⁾	成分	(m/千年)	活動度	最新活動時期	経過年最遠側	経過年最近側	歴史地震	(m)	手法 ⁴⁾	(年)	手法 ⁴⁾	マグニチュード(M)	(m)	手法 ⁴⁾	地震後経過率	確率適用	今後30年以内の将来の地震発生確率(%) ⁵⁾	集積確率(%) ⁶⁾	信頼度	区分 ⁷⁾	
16北由利断層	30	逆	東		20	不明	東		ボ・断面	上下	0.6<		約4200年前以後。	4200	↓		2-3	経験式	<4000	間接2	7.3	2-3	経験式	不明	ポアソン	0.7以上	不明	d	やや高い	
17新庄盆地	11-23	逆	東		15	不明	東			物	上下	0.5	不明				1-2	経験式	2000-4000	間接2	6.6-7.1	不明	値不明	不明	ポアソン	0.7~1	不明	-	やや高い	
18山形盆地	60	逆	西		15	不明	西			物	上下	1-2	約6000年前以後。	6000	↓		4-5	間・式併用	3000	直接3	7.8	4-5	間・式併用	0.07~2.0	BPT	ほぼ0~7	ほぼ0~90より大	-	高い	
19庄内平野東縁	38	逆	東		20	不明	東		ボ・断面	上下	2-3		約3000年前以後、西暦18世紀末以前。	3000	~	205	2<	直接	2400-4600	直接1過去3回	7.5	2<	直接	0.04~1.3	BPT	ほぼ0~6	ほぼ0~90	b	高い	
20長町-利府線	21-40	逆	北西		13	15-25	30~45°西	地下約400~1000m		物	上下	0.5-0.7	約16000年前以後。	16000	↓		2<	経験式	3000<	間接2	7.0-7.5	不明	値不明	不明	ポアソン	1以下	不明	-	やや高い	
21福島盆地西縁	57	逆	北西		15	不明	30~60°程度北西	地下200m以浅		物	上下	0.7-0.9	約2200年前以後、西暦3世紀以前。	2200	~	1705	4-5	直接	8000	直接1過去2回	7.8	4-5	直接	0.2~0.3	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b		
22長井盆地西縁	51	逆	西		15	不明	西		ト・露・地形	上下	0.4-0.5		約2400年前以後。	2400	↓		2.5	直接	5000-6300	間接2	7.7	2.5	直接	0.5以下	BPT	0.02以下	0.1以下	b		
23双葉断層	16-40	横	左	西隆起	15	15	垂直~高角度東	地表付近	ト・露・地形	横	0.15		約2400年前以後、西暦2世紀以前。	2400	~	1805	1.5	直・間併用	8000-12000	直接1過去2回	6.8-7.5	1.5	直・間併用	0.2~0.3	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b		
24会津盆地西縁・東縁(西縁)	34	逆	西		15	不明	西			物	上下	1	西暦1611年(慶長16年)会津地震。	394	=	394	(慶長16年)会津地震	4-5	間接	7600-9600	直接1過去2回	7.4	4-5	間接	0.04~0.05	BPT	ほぼ0	ほぼ0	c	
24会津盆地西縁・東縁(東縁)	49	逆	東		15	不明	東		ト・露・地形		不明		不明				4	経験式	不明	値不明	7.7	4	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
25楯形山脈	16	逆	西		15	不明	45°西	十数m以浅		ボ・断面	上下	0.2-0.4	約6600年前以後、300年前程度以前。	6600	~	300	<3.5	直接	3000-18000	間接2	6.8-7.5	1-3.5	直接	0.02~2.2	BPT	ほぼ0~7	ほぼ0~90より大	-	高い	
26月岡	30	逆	西		15	15-20	50~60°程度	地下数十~300m程度		物	上下	0.4	約6500年前以後、約900年前以前。	6500	~	900	3<	直接	7500<	間接2	7.3	3<	直接	0.1以下~0.9	BPT	ほぼ0~1	ほぼ0~30	-	やや高い	
27長岡平野西縁	83	逆	西		25	不明	50~60°西	概ね地下1000~2000m以浅		物	上下	3	西暦13世紀以後。	805	↓		2<	直接	1200-3700	直・間併用	8.0	6-7<	直接	0.7以下	BPT	2以下	6以下	b	やや高い	
28東京湾北縁断層	-	-	-		-	-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29鴨川低地	25	不明(正逆)	南		15	不明	不明			不明	不明	不明	不明				2	経験式	不明	値不明	7.2	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
30関谷断層	38	逆	西		15	不明	約15~40°西	地表付近	ト・露・地形	上下	1		西暦14世紀以後、西暦17世紀以前。	705	~	305	3	経験式	2600-4100	直接1過去3回	7.5	3	経験式	0.07~0.3	BPT	ほぼ0	ほぼ0	a		
31関東平野北西縁(主部)	82	逆	南西		20	20-25	50~70°南西	地下500m以浅		物	上下	0.2-0.4	約6200年前以後、約2500年前以前。	6200	~	2500	5-6	経験式	13000-30000	間接2	8.0	5-6	経験式	0.08~0.5	BPT	ほぼ0~0.008	ほぼ0~0.1	c		
31関東平野北西縁(平井-搦挽)	23	横	左	北東隆起	20	20	高角度	地表付近	ト・露・地形	横	不明		不明				2	経験式	不明	値不明	7.1	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
32元荒川断層帯	-	-	-		-	-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33荒川断層	-	-	-		-	-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
34立川	33	不明(正逆)	北東	北西部:左横ずれ	不明	不明	極めて高角	地下約1000m以浅		物	上下	0.2-0.3	約20000年前以後、約13000年前以前。	20000	~	13000	2-3	経験式	10000-15000	間接1	7.4	2-3	経験式	0.9~2.0	BPT	0.5~2	30~90より大	c	やや高い	
35伊勢原断層	21	逆	東		15	15-20	60°東	地下1500m以浅		物	上下	0.3-0.4	西暦5世紀以後、西暦18世紀初頭以前。	1605	~	305	2	間・式併用	4000-6000	間接2	7.0	2	間・式併用	0.05~0.4	BPT	ほぼ0~0.002	ほぼ0~0.006	c		
36神縄・国府津-松田 ¹⁰⁾	25<	逆	北~北東		10	10/10-15	70-80度北/40-60°北東		地震他/地震他	上下	2-3		西暦12世紀以後、西暦14世紀前半(西暦1350年)以前。	905	~	655	3	間接	800-1300	直接1過去4回	7.5	3	間接	0.5~1.1	BPT	0.2~16	0.2~70	b	高い	

長さ、深さ、幅、過去の1回変位量、将来の1回変位量の項目で使用した記号のうち、<は「以上・以下(以深・以浅)」、=<及び<は「もしくは以上・以下(以深・以浅)」の略。経過年で使用した記号のうち、↓は「以後」、↑は「以前」で値が特定されていないことを意味する。

付表1 活動区間別パラメーター一覧表(3)

名称 ¹⁾	断層長さ (km)	ずれの向きと種類			深さ ²⁾ (km)	断層面の幅 (km)	断層面の傾斜			平均的なずれの速度			活動時期			過去の活動における1回のずれ量		平均活動間隔		将来の活動における1回のずれ量		将来の地震発生確率								
		主となる断層型	主な隆起側/ずれ向	その他のずれの向きなど			傾斜の向きまたは角度	傾斜の適用深度の記述	手法 ³⁾	成分	(m/千年)	活動度	最新活動時期	経過年最遠側	経過年最近側	歴史地震	(m)	手法 ⁴⁾	(年)	手法 ⁴⁾	マグニチュード(M)	(m)	手法 ⁴⁾	地震後経過率	確率適用	今後30年以内の将来の地震発生確率(%) ⁵⁾	集積確率(%) ⁶⁾	信頼度	区分 ⁷⁾	
37三浦半島断層群(主部/衣笠-北武)	14<	横	右	北・南隆起混在	不明(記述なし)	不明	高角度	地表付近	ト・露・地形	横	0.9-2.3		西暦6世紀以後、西暦7世紀以前。	1505	~	1305		1<	間・式併用	1900-4900	直・間併用	6.7<	1<	間・式併用	0.3~0.8	BPT	ほぼ0~3	ほぼ0~20	-	高い
37三浦半島断層群(主部/武山)	11<	横	右	北・南隆起混在	不明(記述なし)	不明	高角度	地表付近	ト・露・地形	横	0.5-2.8		約2300年前以後、約1900年前以前。	2300	~	1900		1<	経験式	1600-1900	直接1過去3回	6.6<	1<	経験式	1.0~1.4	BPT	6~11	60~90より大	-	高い
37三浦半島断層群(南部)	6<	横	右	南隆起	不明(記述なし)	不明	高角度	地表付近	ト・露・地形	横	不明		約26000年前以後、約22000年前以前。	26000	~	22000		0.5<	経験式	不明	値不明	6.1<	0.5<	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
38北伊豆	32	横	左		10	10	ほぼ垂直~高角度	地下160m以浅	ホ・断面	横	2		西暦1930年(昭和5年)北伊豆地震。	75	=	75	(昭和5年)北伊豆地震	2-3	歴史地震	1400-1500	直接1過去5回	7.3	2-3	歴史地震	0.05	BPT	ほぼ0	ほぼ0	a	
39十日町(西部)	33	逆	西		15	不明	西		ト・露・地形	上下	1		不明					2-3	経験式	2000-3000	間接2	7.4	2-3	経験式	不明	ポアソン	1	不明	d	やや高い
39十日町(東部)	19	逆	東		15	不明	東		ト・露・地形	上下	0.2-0.4		不明					1-2	経験式	4000-8000	間接2	7.0	1-2	経験式	不明	ポアソン	0.4~0.7	不明	d	やや高い
40信濃川[長野盆地西縁]	58	逆	西		15	不明	西		ト・露・地形	上下	1.2-2.6		西暦1847年善光寺地震。	158	=	158	善光寺地震	2-3	歴史地震	800-2500	直・間併用	7.4-7.8	2-3	歴史地震	0.06~0.2	BPT	ほぼ0	ほぼ0	-	
41糸魚川-静岡構造線(北部)	140-150	逆	東		不明(記述なし)	不明(記述なし)	記述なし			--	不明		約1200年前。	1200	=	1200		値不明	不明	その他	不明	不明	不明	不明	11)					
41糸魚川-静岡構造線(中部)		横	左		不明(記述なし)	不明(記述なし)	記述なし			--	8		約1200年前。	1200	=	1200		6-9	直接	1000	その他	6-9	直接	1.2	BPT	14 ^{11,12)}	80	-	高い	
41糸魚川-静岡構造線(南部)		逆	西		不明(記述なし)	不明(記述なし)	記述なし			--	不明		不明					値不明	不明	その他	不明	不明	不明	不明	11)					
43富士川河口	20	逆	西	大宮断層:南西隆起、南西隆起。左横推定、詳細不明	不明(記述なし)	不明(記述なし)	垂直ないし西		不明	上下	7		約2000年前以後、1000年以上以前。	2000	~	1000		値不明	千数百	直接3	8.0	7	間接	0.5~1.4	BPT	0.2~11 ¹²⁾	0.4~90より大	-	高い	
45木曾山脈西縁(主部/北部 ¹⁰⁾)	40	逆/横	東/右	右横ずれ/北西隆起	不明/20	20	約40°ないしそれより低角度東/高角度	地表付近/地表付近	ト・露・地形/ト・露・地形	上下	0.4		西暦13世紀頃。	805	~	705		3	経験式	6400-9100	直接1過去4回	7.5	3	経験式	0.08~0.1	BPT	ほぼ0	ほぼ0	a	
45木曾山脈西縁(主部/南部)	8	横	右		20	20	高角度	地表付近	ト・露・地形	不明	B		約6500年前以後、約3800年前以前。	6500	~	3800		<1	経験式	4500-24000	直接1過去2回	6.3	<1	経験式	0.2~1.4	BPT	ほぼ0~4	ほぼ0~90より大	a	高い
45木曾山脈西縁(清内路峠)	34	横	右		20	20	高角度	地表付近	ト・露・地形	不明	B	不明						3	経験式	不明	値不明	7.4	3	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
46境峠・神谷(主部)	47	横	左	北部:北東隆起、南部:南西隆起	15	15	高角度	地表付近	ト・露・地形	不明	A-B		約4900年前以後、西暦3世紀以前。	4900	~	1705		4	経験式	1800-5900	直接1過去2回	7.6	4	経験式	0.3~2より大	BPT	ほぼ0~13	ほぼ0~90より大	c	高い
46境峠・神谷(霧訪山-奈良井)	28	横	右		15	15	高角度	地表付近	ト・露・地形	不明	A-B	不明						2	経験式	不明	値不明	7.2	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
47跡津川	69	横	右	北西隆起	15	15	ほぼ垂直		地震他	横	2-3		西暦1858年(安政5年)飛越地震。	147	=	147	(安政5年)飛越地震	4.5-8	間接	2300-2700	直接1過去5回	7.9	4.5-8	間接	0.05~0.06	BPT	ほぼ0	ほぼ0	a	
48高山・大原(国府)	27	横	右	一部:南東隆起	<10	10	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形	横	0.7		約4700年前以後、約300年前以前。	4700	~	300		2.5-3	直接	3600-4300	間接2	7.2	2.5-3	直接	0.07~1.3	BPT	ほぼ0~5	ほぼ0~90	b	高い
48高山・大原(高山)	48	横	右	一部:上下成分	15	15	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形	横	1		不明					4	経験式	4000	間接2	7.6	4	経験式	不明	ポアソン	0.7	不明	d	やや高い
48高山・大原(猪之鼻)	24	横	右	一部:北西隆起	15	15	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形	不明	B,B-C	不明						2	経験式	不明	値不明	7.1	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
49牛首	54	横	右	北東部:南東隆起、南西部:北西隆起	15	15	ほぼ垂直~高角度	地表付近	ト・露・地形	不明	A-B		西暦11世紀以後、西暦12世紀以前。	1005	~	805		4	経験式	5000-7100	直接1過去3回	7.7	4	経験式	0.1~0.2	BPT	ほぼ0	ほぼ0	a	
50庄川	67	横	左	加須良断層:東隆起、三尾河断層:西隆起	15	15	高角度	地表付近	ト・露・地形	不明	B		西暦11世紀以後、西暦16世紀以前。	1005	~	405		5	経験式	3600-6900	直接1過去3回	7.9	5	経験式	0.06~0.3	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
51伊那谷(境界)	49	逆	西		15-20	不明	不明		不明	上下	0.5-1.3		約6500年前以後、約300年前以前。	6500	~	300		4	経験式	3000-12000	直・間併用	7.7	4	経験式	0.03~2.2	BPT	ほぼ0~7	ほぼ0~90より大	-	高い

長さ、深さ、幅、過去の1回変位量、将来の1回変位量の項目で使用した記号のうち、<は「以上・以下(以深・以浅)」、=<及び<は「もしくは以上・以下(以深・以浅)」の略。経過年で使用した記号のうち、「は」以後、「は」以前で値が特定されていないことを意味する。

付表1 活動区間別パラメータ一覧表(4)

名称 ¹⁾	断層長さ (km)	ずれの向きと種類			深さ ²⁾ (km)	断層面の幅 (km)	断層面の傾斜			平均的なずれの速度			活動時期			過去の活動における1回のずれ量		平均活動間隔		将来の活動における1回のずれ量		将来の地震発生確率								
		主となる断層型	主な隆起側/ずれ向	その他のずれの向きなど			傾斜の向きまたは角度	傾斜の適用深度の記述	手法 ³⁾	成分	(m/千年)	活動度	最新活動時期	経過年最遠側	経過年最近側	歴史地震	(m)	手法 ⁴⁾	(年)	手法 ⁴⁾	マグニチュード(M)	(m)	手法 ⁴⁾	地震後経過率	確率適用	今後30年以内の将来の地震発生確率(%) ⁵⁾	集積確率(%) ⁶⁾	信頼度	区分 ⁷⁾	
51伊那谷(前縁)	57	逆	西		15-20	25-60	20~40° 西	150~300m以浅	物	上下	0.2-1		約28000年前以後、約7500年前以前。	28000	~	7500		4	経験式	4000-20000	間接2	7.8	4	経験式	0.4~2より大	BPT	ほぼ0~6	0.002~90より大	-	高い
52阿寺(主部/北部)	17	横	左	東隆起	15	15	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明		約3400年前以後、約3000年前以前。	3400	~	3000		1-2	経験式	1800-2500	直接1 過去3回	6.9	1-2	経験式	1.2~1.9	BPT	6~11	80~90より大	a	高い
52阿寺(主部/南部)	60	横	左	北東隆起	15	15	高角度	地表付近	ト・露・地形	横	2-4		西暦1586年(天正13年)天正地震。	419	=	419	(天正13年)天正地震	4-5	間接	1700	直接1 過去6回	7.8	4-5	間接	0.2	BPT	ほぼ0	ほぼ0	c	
52阿寺(佐見)	25	横	右		15	15	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明	B	不明					2	経験式	不明	値不明	7.2	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
52阿寺(白川)	31	横	右	南東隆起	15	15	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明	B	不明					2-3	経験式	不明	値不明	7.3	2-3	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
53屏風山・恵那山及び猿投山(屏風山)	15	逆	南東		15	不明	高角度南東	地表付近	ト・露・地形	上下	0.1-0.3		不明					1	経験式	4000-12000	間接2	6.8	1	経験式	不明	ポアン	0.2~0.7	不明	d	やや高い
53屏風山・恵那山及び猿投山(赤河)	23	不明(正逆)	南西		15	不明	高角度		ト・露・地形		不明		不明					2	経験式	不明	値不明	7.1	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
53屏風山・恵那山及び猿投山(恵那山-猿投山北 ¹⁰⁾)	51	逆/横	南東/右	右横ずれ/上下	20	不明/20	30~50° 南東/高角度	地表付近/地表付近	ト露地形/ト露地形	上下	0.2-0.4		約7600年前以後、約5400年前以前。	7600	~	5400		2-3	間接	7200-14000	直接1 過去3回	7.7	2-3	間接	0.4~1.1	BPT	ほぼ0~2	0.003~60	b	やや高い
53屏風山・恵那山及び猿投山(猿投-高浜)	51	逆	西		20	不明	50~80° 西	地表付近	ト・露・地形	上下	0.1		約14000年前頃。	14000	=	14000		4	経験式	40000	間接2	7.7	4	経験式	0.4	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
53屏風山・恵那山及び猿投山(加木屋 ¹⁰⁾)	35	逆/逆	西/東		20	不明/不明	高角度西/東	地下800以浅/一	ト・露・地形	上下	0.1		不明					3	経験式	30000	間接2	7.4	3	経験式	不明	ポアン	0.1	不明	d	やや高い
55色知湯	44	逆	南東		20	不明	約30° 南東	地下200m以浅	物	上下	0.4-0.8		約3200年前以後、西暦9世紀以前。	3200	~	1105		2-3	直・間・式併用	1200-1900	直接3	7.6	2-3	直・間・式併用	不明	ポアン	2	不明	d	やや高い
56砺波平野・呉羽山(砺波平野西部)	26	逆	西		20	25-30	40~50° 西	地下200~500m以浅	物	上下	0.3-0.4<		約6900年前以後、約2700年前以前。	6900	~	2700		2	経験式	<=5000-12000	直接1 過去3回	7.2	2	経験式	0.2~1.4もしくはそれ以上	BPT	ほぼ0~3、もしくはそれ以上	ほぼ0~90、もしくはそれ以上	-	高い
56砺波平野・呉羽山(砺波平野東部)	30	逆	東		20	不明	南東		ト・露・地形	上下	0.3-0.4		約4300年前以後、約3700年前以前。	4300	~	3700		1.5	直接	3000-7000	間接1	7.3	1.5	直接	0.5~1.4	BPT	0.05~6	0.5~90	-	高い
56砺波平野・呉羽山(呉羽山)	22<	逆	西		20	30	約45° 西	地下1000m以浅	物	上下	0.4-0.6		不明					2	経験式	3000-5000	間接2	7.2	2	経験式	不明	ポアン	0.6~1	不明	-	やや高い
57森本・富樫	26	逆	東		15	不明	東		物	上下	1		約2000年前以後、(約200年前以前)。	2000	~	200		2	経験式	2000	間接2	7.2	不明	値不明	0.1~1.0	BPT	ほぼ0~5	ほぼ0~60	-	高い
58福井平野東縁(主部)	45	縦&横	左&東		15	15	50° 東~ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形	上下	0.2-0.5<		不明					3-4	経験式	<=7000-18000	間接2	7.6	3-4	経験式	不明	ポアン	0.2~0.4、もしくはそれ以上	不明	-	やや高い
58福井平野東縁(西部)	33	横	左	中・北部:東隆起 南部:西隆起	15	15	高角度東~ほぼ垂直		モデル	横	不明		西暦1948年(昭和23年)福井地震。	57	=	57	(昭和23年)福井地震	<=2	歴史地震	不明	値不明	7.1	2	歴史地震	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
59長良川上流	29	縦&横	左&西		15	不明	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明	B	不明					2	経験式	不明	値不明	7.3	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
60濃尾(温見/北西部)	16	横	左	北東隆起	15	15	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明	A-B	西暦1891年(明治24年)濃尾地震。	114	=	114	(明治24年)濃尾地震	1	経験式	2200-2400	直接1 過去4回	6.8	1	経験式	0.05	BPT	ほぼ0	ほぼ0	a	
60濃尾(温見/南東部)	21	横	左	南西隆起	15	15	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明	A-B	不明					2	経験式	不明	値不明	7.0	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
60濃尾(主部/根尾谷)	30	横	左		15-20	15	高角度	地表付近	ト・露・地形	横	2		西暦1891年(明治24年)濃尾地震。	114	=	114	(明治24年)濃尾地震	2-3	経験式	2100-3600	直接1 過去3回	7.3	2-3	経験式	0.03~0.05	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
60濃尾(主部/梅原)	36	横	左	北西部一部:北東隆起、南東部:南西隆起	15-20	20	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明	B-C	西暦1891年(明治24年)濃尾地震。	114	=	114	(明治24年)濃尾地震	3	経験式	14000-15000	直接1 過去3回	7.4	3	経験式	0.008	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
60濃尾(主部/三田河)	19	横	左	南西隆起	15-20	20	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明	B-C	不明					1-2	経験式	不明	値不明	7.0	1-2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明

長さ、深さ、幅、過去の1回変位量、将来の1回変位量の項目で使用した記号のうち、<は「以上・以下(以深・以浅)」、=<及び<=は「もしくは以上・以下(以深・以浅)」の略。経過年で使用した記号のうち、「は」以後、「は」以前で値が特定されていないことを意味する。

付表1 活動区間別パラメーター一覧表(5)

名称 ¹⁾	断層長さ (km)	ずれの向きと種類			深さ ²⁾ (km)	断層面の幅 (km)	断層面の傾斜			平均的なずれの速度			活動時期				過去の活動における1回のずれ量		平均活動間隔		将来の活動における1回のずれ量		将来の地震発生確率						
		主となる断層型	主な隆起個/ずれ向	その他のずれの向きなど			傾斜の向きまたは角度	傾斜の適用深度の記述	手法 ³⁾	成分	(m/千年)	活動度	最新活動時期	経過年最遠側	経過年最近側	歴史地震	(m)	手法 ⁴⁾	(年)	手法 ⁴⁾	マグニチュード(M)	(m)	手法 ⁴⁾	地震後継率	確率適用	今後30年以内の将来の地震発生確率(%) ⁵⁾	集積確率(%) ⁶⁾	信頼度	区分 ⁷⁾
60濃尾(揖斐川)	24	横	左	南東部・南西隆起	15	15	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明	B	西暦1世紀以後、西暦10世紀以前。	2005	~	1005	2	経験式	不明	値不明	7.1	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
60濃尾(武儀川)	29	横	左	南東部・北東隆起	20	20	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明	B	不明				2	経験式	不明	値不明	7.3	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
61柳ヶ瀬・関ヶ原(主部/北部 ¹⁰⁾)	48	逆/逆	東/北東	—/左横	15	25	東/約40°北東		物/物	上下	0.6-0.8<		西暦17世紀頃。	405	=	305	4-6	間接	2300-2700	直接1 過去2回	7.6	4-6	間接	0.1~0.2	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
61柳ヶ瀬・関ヶ原(主部/中部)	12	横	左		15	15	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形		不明	B	約7200年前以後、約7000年前以前。	7200	~	7000	1	経験式	不明	値不明	6.6	1	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
61柳ヶ瀬・関ヶ原(主部/南部)	45	縦&横	左&北東、東		15	15	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形		不明	B	約4900年前以後、西暦15世紀以前。	4900	~	505	3-4	経験式	不明	値不明	7.6	3-4	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
61柳ヶ瀬・関ヶ原(浦底-柳ヶ瀬山)	25	横	左		15	15	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形		不明	B-C	不明				2	経験式	不明	値不明	7.2	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
63野坂・集福寺(野坂)	31	縦&横	左&北東		15	15	高角度北東	地表付近	ト・露・地形	横	不明		西暦15世紀以後、西暦17世紀以前。	605	~	305	2-3	経験式	<=5600-7600	間接1	7.3	2-3	経験式	0.04~0.1 もしくはそれ以上	BPT	ほぼ0、もしくはそれ以上	ほぼ0、もしくはそれ以上	b	
63野坂・集福寺(集福寺)	10	横	左	北東隆起	15	15	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形		不明	B	不明				-	値不明	不明	値不明	6.5	0.8	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
64湖北山地(北西部)	25	縦&横	右&南東		15	15	高角度南東	地表付近	ト・露・地形	上下	0.5		西暦11世紀以後、西暦14世紀以前。	1005	~	605	2	直・式併用	3000-4000	間接2	7.2	2	直・式併用	0.2~0.3	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
64湖北山地(南東部)	16	横	右	一部・北西隆起	15	15	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形	横	不明		西暦15世紀以後、西暦17世紀以前。	605	~	305	1 ¹³⁾ (上下)	直接 (上下)	7000	間接2	6.8	1 ¹³⁾ (上下)	直接	0.04~0.09	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
65琵琶湖西岸	59	逆	西		15-20	不明	西		物	上下	1.1-1.6		約2800年前以後、約2400年前以前。	2800	~	2400	3-5	直接	1900-4500	間接2	7.8	3-5	直接	0.5~1.5	BPT	0.09~9	0.5~90より大	c	高い
66岐阜-一宮	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
67養老-桑名-四日市	60	逆	西		15-20	30-40	30°西	約500m以浅	物	上下	3-4		西暦13世紀以後、西暦16世紀以前。	805	~	405	5-7	間接	1400-1900	間接1	8.0	6	経験式	0.2~0.6	BPT	ほぼ0~0.6	ほぼ0~1	-	やや高い
68鈴鹿東縁「一部改訂」	34-47	逆	西		20	20-25	高角度西/やや高角度(60°程度)西	地表付近/地下2000m程度以浅	ト露地形/物	上下	0.2-0.3		約3500年前以後、約2800年前以前。	3500	~	2800	0.7<	直接	6500-12000	間接1	7.5	3-4	直接	0.2~0.5	BPT	ほぼ0~0.07	ほぼ0~0.6	b	
69鈴鹿西縁	44	逆	東		20	30-40	30~40°東	400m以浅	物	上下	0.1-0.2		不明				3-4	経験式	18000-36000	間接2	7.6	3-4	経験式	不明	ポアソン	0.08~0.2	不明	d	やや高い
70頓宮断層	31	逆	東		15	不明	50~80°東	地表付近	ト・露・地形		不明	B	約10000年前以後、西暦7世紀以前。	10000	~	1305	2-3	経験式	10000<	間接1	7.3	2-3	経験式	1以下	BPT	1以下	50以下	c	やや高い
71布引山地東縁(西部)	33	逆	西		15	20	50~60°西	地下800m以浅	物	上下	0.15		約28000年前以後、約400年前以前。	28000	~	400	2-3	間接	17000	直接3	7.4	2-3	間接	0.02~1.6	BPT	ほぼ0~1	ほぼ0~90より大	c	やや高い
71布引山地東縁(東部)	48	逆	西		20	不明	45°西	地表付近	ト・露・地形	上下	0.1		約11000年前頃。	11000	=	11000	2.5	直接	25000	間接2	7.6	2.5	直接	0.4	BPT	0.001	0.03	b	
72木津川	31	逆	北	右横ずれ	15	不明	40~60°北	地表付近	ト・露・地形	上下	0.1-0.6		西暦1854年(安政元年)伊賀上野地震。	151	=	151	2.5	直・式併用	4000-25000	間接2	7.3	2.5	直・式併用	0.006~0.04	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
73三方・花折(三方)	26	逆	東		15	不明	高角度東	—	ポ・断面	上下	0.8		西暦1662年(寛文2年)の地震。	343	=	343	3-5	歴史地震	3800-6300	間接2	7.2	3-5	歴史地震	0.05~0.09	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b	
73三方・花折(花折/北部)	26	横	右		15-20	15-20	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形		不明		西暦1662年(寛文2年)の地震。	343	=	343	2-5	直接	不明	値不明	7.2	2-5	直接	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
73三方・花折(花折/中南部 ¹⁴⁾)	32	横/逆	右/東	東隆起/一部西隆起	15-20/20-45	15-20	ほぼ垂直/50°東、25-55°東	地表付近/200m以浅、100-300m以浅	ト露地形/物		不明/0.3		約2800年前以後、西暦6世紀(約1400年前)以前。	2800	~	1405	2-5	直接	4200-6500	直接1 過去2回	7.3	2-5	直接	0.2~0.7	BPT	ほぼ0~0.6	ほぼ0~6	b	やや高い
74山田(主部)	33	横	右	北西隆起	10	不明	北西	地表付近	ト・露・地形		不明	B	3300年前以前。	↑	3300		3	経験式	不明	値不明	7.4	3	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明

長さ、深さ、幅、過去の1回変位量、将来の1回変位量の項目で使用した記号のうち、<は「以上・以下(以深・以浅)」、=<及び<=<は「もしくは以上・以下(以深・以浅)」の略。経過年で使用した記号のうち、↑は「以後」、↓は「以前」で値が特定されていないことを意味する。

付表1 活動区間別パラメーター一覧表(6)

名称 ¹⁾	断層長さ (km)	ずれの向きと種類			深さ ²⁾ (km)	断層面の幅 (km)	断層面の傾斜			平均的なずれの速度			活動時期			過去の活動における1回のずれ量		平均活動間隔		将来の活動における1回のずれ量		将来の地震発生確率						
		主となる断層型	主な隆起側/ずれ向	その他のずれの向きなど			傾斜の向きまたは角度	傾斜の適用深度の記述	手法 ³⁾	成分	(m/千年)	活動度	最新活動時期	経過年最遠側	経過年最近側	歴史地震	(m)	手法 ⁴⁾	(年)	手法 ⁴⁾	マグニチュード(M)	(m)	手法 ⁴⁾	地震後確率	確率適用	今後30年以内の将来の地震発生確率(%) ⁵⁾	集積確率(%) ⁶⁾	信頼度
74山田(郷村)	34<	横	左	南西隆起	15	15	高角度	断層モデル	モデル	横	0.2-0.3		西暦1927年(昭和2年)北丹後地震	(昭和2年)北丹後地震	3	歴史地震	10000-15000	間接2	7.4<	3	歴史地震	0.005~0.008	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b		
75京都-奈良南部(奈良盆地東縁)	35	逆	東		15	不明	50~60° 東	地下600m以浅	物	上下	0.6		約11000年前以後、約1200年前以前。	11000 ~ 1200	3	経験式	5000	間接2	7.4	3	経験式	0.2~2.2	BPT	ほぼ0~5	ほぼ0~90より大	-	高い	
76有馬-高槻	55	横	右	上下変位東部:地溝帯形成すること多い	不明(注)	不明	高角度北	地下数百m	物	横	1.5		西暦1596年慶長伏見地震。	409 = 409	3	直接	1000-2000	直・間併用	7.5	3	直接	0.2~0.4	BPT	ほぼ0~0.02	ほぼ0~0.008	-		
77生駒	38	逆	東		15	不明	低角度(30~40°程度)東	地下400m程度以浅	物	上下	0.5-1		西暦400年頃以後、西暦1000年頃以前。	1605 ~ 1005	2-3	直接	3000-6000	間接2	7.0-7.5	2-4	経験式	0.2~0.5	BPT	ほぼ0~0.1	ほぼ0~0.5	-	やや高い	
78京都西山(上林川)	26	横	右	北西隆起	15	不明	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明		不明	不明	2	経験式	不明	値不明	7.2	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
78京都西山(三峠)	26	横	左	北東隆起	15	不明	高角度	地表付近	ト・露・地形	横	0.3-0.4		西暦3世紀以前。	↑ 1705	2	経験式	5000-7000	間接2	7.2	2	経験式	不明	ポアン	0.4~0.6	不明	d	やや高い	
78京都西山(京都西山 ¹⁰⁾)	42	横/逆	左/西	北東隆起の逆断層成分/-	15	不明	高角度、一部で北東/西	400m以浅/200m以浅	物/物	横	0.3-1		約2400年前以後、西暦2世紀以前。	2400 ~ 1805	3-4	経験式	3500-5600	直接1過去3回	7.5	3-4	経験式	0.3~0.7	BPT	ほぼ0~0.8	ほぼ0~7	b	やや高い	
79六甲・淡路島(六甲山地南縁-淡路島東岸 ¹⁰⁾)	71	横	主として右	北西隆起の逆断層成分	15	15-20/15	50~70° 北西/高角度北西	地下約1000m以浅/淡路島地下約2000m以浅、原野沖地下約3000m以浅	物/物	横	2		西暦16世紀。	505 ~ 405	5-6	経験式	900-2800	直接1過去2回	7.9	5-6	経験式	0.1~0.6	BPT	ほぼ0~0.9	ほぼ0~1	a	やや高い	
79六甲・淡路島(淡路島西岸)	23	横	右	南東隆起の逆断層成分	15	15	約80° 南東	地下約600m以浅	ホ・断面	横	0.7		西暦1995年の兵庫県南部地震。	10 = 10	2	歴史地震	1800-2500	直接1過去3回	7.1	2	歴史地震	0.004~0.006	BPT	ほぼ0	ほぼ0	a		
79六甲・淡路島(先山)	12	逆	北西		15	不明	北西	地表付近	ト・露・地形	上下	0.1-0.2		西暦11世紀以後、西暦17世紀初頭以前。	1005 ~ 405	1	経験式	5000-10000	間接2	6.6	1	経験式	0.04~0.2	BPT	ほぼ0	ほぼ0	c		
80上町	42	逆	東		15	15-20	65~70° 東	地下1000m以浅	物	上下	0.4		約28000年前以後、約9000年前以前。	28000 ~ 9000	3	経験式	8000	間接2	7.5	3	経験式	1.1~2より大	BPT	2~3	70~90より大	c	高い	
81中央構造線(金剛山地東縁-和泉山脈南縁 ¹⁰⁾)	66-74	逆/横	西/右	-/上下	15	20-60	15-45° 西/15-45° 北	300m以浅/1000m以浅	物/物	上下	0.1-0.6		西暦1世紀以後、西暦4世紀以前。	2005 ~ 1605		1.2<	直接	2000-12000	間接2	8.0	1	直接	0.1~1.0	BPT	ほぼ0~5	ほぼ0~60	-	高い
81中央構造線(紀淡海峡-鳴門海峡)	43-51	横	右	上下成分	15	20-60	15~45° 北	紀淡海峡1000m以浅	物		不明		約3100年前以後、約2600年前以前。	3100 ~ 2600		値不明	4000-6000	直接1過去2回	7.7	不明	値不明	0.4~0.8	BPT	0.005~1	0.02~20	-	やや高い	
81中央構造線(讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部)	130	横	右	上下成分	15	20-30	30~40° 北	讃岐山脈南縁5000m以浅	物	横	6-9		西暦16世紀。	505 ~ 405	6-7	直・間併用	1000-1600	直・間併用	8.0<	6-7	直・間併用	0.3~0.5	BPT	ほぼ0~0.3	ほぼ0~0.3	-	やや高い	
81中央構造線(石鎚山脈北縁)	30	横	右	上下成分	15	不明	高角度	地表付近	ト・露・地形	横	5-6		西暦16世紀。	505 ~ 405	6	直接	1000-2500	直・間併用	7.3-8.0	6	直接	0.2~0.5	BPT	ほぼ0~0.3	ほぼ0~0.3	-	やや高い	
81中央構造線(石鎚山脈北縁西部-伊予灘)	130	横	右	上下成分	15	不明	高角度/高角度北	地表及び海底付近/2000m以浅	ト露地形/物		不明		西暦16世紀。	505 ~ 405	2-3	直接	1000-2900	直接1過去4回 ¹⁵⁾	8.0<	2-3	直接	0.1~0.5	BPT	ほぼ0~0.3	ほぼ0~0.3	-	やや高い	
82山崎(那岐山)	32	不明(正逆)	北	右横ずれ	15-20	不明	不明		不明	上下	0.06-0.09		不明	不明	2-3	経験式	30000-40000	間接2	7.3	2-3	経験式	不明	ポアン	0.07~0.1	不明	d	やや高い	
82山崎(主部/北西部)	51	横	左	北東隆起	20	20	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形	横	1		西暦868年(貞観10年)播磨国地震。	1137 = 1137	2	直接	1800-2300	直接1過去2回	7.7	2	直接	0.5~0.6	BPT	0.08~1	0.2~3	b	やや高い	
82山崎(主部/南東部)	30	横	左	北東隆起	20	20	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形	横	0.8		約3600年前以後、西暦6世紀以前。	3600 ~ 1405	2	経験式	3000	間接2	7.3	2	経験式	0.5~1.2	BPT	0.03~5	0.08~80	c	高い	
82山崎(草谷)	13	横	右	北西隆起	20	20	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形	横	0.2		西暦5世紀以後、西暦12世紀以前。	1605 ~ 805	1	経験式	5000	間接2	6.7	1	経験式	0.2~0.3	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b		
84長尾	24	逆	南	右横ずれ	15	25-30	30~40° 南	地下50~200m以浅	物	上下	0.05-0.1		西暦9世紀以後、西暦16世紀以前。	1205 ~ 405	1.2-1.7	直接	30000	直・間併用	7.1	1.2-1.7	直接	0.01~0.04	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b		
87五日市(五日市断層)	20	横	右	西隆起、逆断層	25	25	高角度西	地表付近	ト・露・地形		不明	B	西暦7世紀以後、西暦12世紀以前。	1405 ~ 805	1-2	直・式併用	不明	値不明	7.0	1-2	直・式併用	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
87五日市(己斐-広島西縁)	10	横	右		25	不明	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形		不明	B-C	約23000年前以前。	↑ 23000	1	直・式併用	不明	値不明	6.5	1	直・式併用	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	

長さ、深さ、幅、過去の1回変位量、将来の1回変位量の項目で使用した記号のうち、<は「以上・以下(以深・以浅)」、=<及び<は「もしくは以上・以下(以深・以浅)」の略。経過年で使用した記号のうち、↑は「以後」、↓は「以前」で値が特定されていないことを意味する。

付表1 活動区間別パラメーター一覧表(7)

名称 ¹⁾	断層長さ (km)	ずれの向きと種類			深さ ²⁾ (km)	断層面の幅 (km)	断層面の傾斜			平均的なずれの速度			活動時期				過去の活動における1回のずれ量		平均活動間隔		将来の活動に おける1回のずれ量		将来の地震発生確率								
		主となる断層型	主な隆起側/ずれ向	その他のずれの向きなど			傾斜の向きまたは角度	傾斜の適用深度の記述	手法 ³⁾	成分	(m/千年)	活動度	最新活動時期	経過年最遠側	経過年最近側	歴史地震	(m)	手法 ⁴⁾	(年)	手法 ⁴⁾	マグニチュード(M)	(m)	手法 ⁴⁾	地震後経過率	確率適用	今後30年以内の将来の地震発生確率(%) ⁵⁾	集積確率(%) ⁶⁾	信頼度	区分 ⁷⁾		
88岩国	44	横	右	北西隆起、逆断層	20	20	高角度北西	地表付近	ト・露・地形		不明			約11000年前以後、約10000年前以前。	11000	~	10000		2	直接	9000-18000	直接2	7.6	2	直接	0.6~1.2	BPT	0.03~2	0.9~80	b	やや高い
90菊川	44<	横	左	北隆起、逆断層	10-15	不明	高角度北東	地表付近	ト・露・地形		不明			約8500年前以後、約2100年前以前。	8500	~	2100		3-4<	経験式	不明	値不明	7.6<	3-4<	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
91西山	31	横	左		15	15	ほぼ垂直	地表付近	ト・露・地形		不明			約12000年前以後、概ね2000年前以前。	12000	~	2000		2-3	経験式	不明	値不明	7.3	2-3	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明
92別府・万年山(別府湾-日出生/東部)	43	正	主として北		15	15	主として高角度南	地下2000m以浅	物	上下	3<		西暦1596年(慶長元年)の慶長豊後地震。	409	=	409	(慶長元年)の慶長豊後地震	4	間接	1300-1700	直接1過去5回	7.6	4	間接	0.2~0.3	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b		
92別府・万年山(別府湾-日出生/西部)	32	正	主として北		15	不明	主として高角度南	地表付近	ト・露・地形	上下	0.1-0.2		約7300年前以後、西暦6世紀以前。	7300	~	1405		2-3	経験式	13000-25000	間接2	7.3	2-3	経験式	0.06~0.6	BPT	ほぼ0~0.05	ほぼ0~1	b		
92別府・万年山(大分-由布院/東部)	27	正	南		15	15	主として高角度北	地下1000m以浅	物	上下	2-4		約2200年前以後、西暦6世紀以前。	2200	~	1405		2-5	直・間併用	2300-3000	直接1過去3回	7.2	2-5	直・間併用	0.5~1.0	BPT	0.03~4	0.08~50	a	高い	
92別府・万年山(大分-由布院/西部)	14	正	南		15	不明	主として高角度北	地表付近	ト・露・地形		不明		約2000年前以後、西暦18世紀初頭以前。	2000	~	305		1-2	間・式併用	700-1700	直接3	6.7	1-2	間・式併用	不明	ポアン	2~4	不明	d	高い	
92別府・万年山(野稲岳-万年山)	30	正	主として北		10	不明	主として高角度南	地表付近	ト・露・地形	上下	0.6		約3900年前以後、西暦6世紀以前。	3900	~	1405		2-3	経験式	4000	間接2	7.3	2-3	経験式	0.4~1.0	BPT	ほぼ0~3	ほぼ0~50	b	やや高い ¹⁶⁾	
92別府・万年山(崩平山-亀石山)	34	正	主として南		10	不明	主として高角度北	地表付近	ト・露・地形	上下	0.1-0.4		西暦13世紀以後。	805	↓			3	経験式	4300-7300	直接1過去2回	7.4	3	経験式	0.2以下	BPT	ほぼ0	ほぼ0	b		
93布田川・日奈久(北東部)	27	横	右	南東隆起一部・小規模地溝帯形成	15	不明	高角度	地表付近	ト・露・地形	横	0.2		約1500年前以後、約1200年前以前。	1500	~	1200		2	直接	11000-27000	直接1過去2-3回	7.2	2	直接	0.05~0.1	BPT	ほぼ0	ほぼ0	-		
93布田川・日奈久(中部)	47	横	右	南東隆起	15	不明	高角度	地表付近	ト・露・地形	横	0.7		約7500年前以後、約2200年前以前。	7500	~	2200		3<	直接	3500-11000	直接1過去2-3回	7.6	3<	直接	0.2~2.1	BPT	ほぼ0~6	ほぼ0~90より大	-	高い	
93布田川・日奈久(南西部)	27	横	右	南東隆起小規模地溝帯形成	15	不明	高角度	地表付近	ト・露・地形		不明		約7500年前以後、約2200年前以前。	7500	~	2200		値不明	不明	値不明	不明	不明	不明	不明	不明	適用不可	不明	不明	-		
94水縄	26	正	南		15	15	高角度北	地下約700m以浅	物	上下	0.2		西暦679年(天武7年)筑紫地震。	1326	=	1326	(天武7年)筑紫地震	2	間接	14000	直接1過去3回	7.2	2	経験式	0.1	BPT	ほぼ0	ほぼ0	c		
95雲仙断層群(北部)	30<	正	主として北		15	不明	高角度南	地下約200m以浅	物		不明		約5000年前以後。	5000	↓			2-3<	経験式	不明	値不明	7.3<	2-3<	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
95雲仙断層群(南東部)	23	正	南		15	不明	高角度北	地表及び海底付近	ト・露・地形		不明		約7300年前以後。	7300	↓			2	経験式	不明	値不明	7.1	2	経験式	不明	適用不可	不明	不明	-	不明	
95雲仙断層群(南西部)	38	正	主として南		15	不明	高角度北	地表及び海底付近	ト・露・地形	上下	1		約2400年前以後、西暦11世紀以前。	2400	~	905		3-4	間・式併用	2500-4700	直接1過去2回	7.5	3-4	間・式併用	0.2~1.0	BPT	ほぼ0~4	ほぼ0~50	b	高い	
96出水	20	正	南東	右横ずれ	15	不明	40~50°北西	地下100m以浅	ト・露・地形	上下	0.1-0.2		約7300年前以後、約2400年前以前。	7300	~	2400		1-2	間・式併用	8000	直接3	7.0	1-2	間・式併用	0.3~0.9	BPT	ほぼ0~1	ほぼ0~40	c	やや高い	
97伊勢湾(主部/北部)	25	逆	東	横ずれ不明	15-20	15-25	60~70°東	2000m以浅	物	上下	0.1		概ね1000年前以後、500年前以前。	1000	~	500		1-1.5	直接	10000-15000	間接2	7.2	1-1.5	直接	0.03~0.1	BPT	ほぼ0	ほぼ0	-		
97伊勢湾(主部/南部)	17	不明(正逆)	北	正・逆不明横ずれ不明	15-20	不明	不明		不明	上下	0.2		概ね2000年前以後、1500年前以前。	2000	~	1500		1-2	直接	5000-10000	間接2	6.9	1-2	直接	0.2~0.4	BPT	ほぼ0~0.002	ほぼ0~0.006	-		
97伊勢湾(白子-野間)	21	逆	北	横ずれ不明	15-20	15-20	高角度北	地下1500m以浅	物	上下	0.3		概ね6500年前以後、5000年前以前。	6500	~	5000		2.5	直接	8000	間接2	7.0	2.5	直接	0.6~0.8	BPT	0.2~0.8	3~20	-	やや高い	
98大阪湾	39	逆	北西		15	15-20	60~80°西	地下3000m以浅	物	上下	0.5-0.7		西暦9世紀以後。	1205	↓			2-3.5	間・式併用	3000-7000	間接2	7.5	2-3.5	間・式併用	0.4以下	BPT	0.004以下	0.006以下	b		

長さ、深さ、幅、過去の1回変位量、将来の1回変位量の項目で使用した記号のうち、<は「以上・以下(以深・以浅)」、=<及び<は「もしくは以上・以下(以深・以浅)」の略。経過年で使用した記号のうち、↓は「以後」、↑は「以前」で値が特定されていないことを意味する。

付表1に関する注

- 1) 断層名は評価公表時に付された名称とした。従って平成9年に策定された平成9年に策定された「地震における基盤的調査観測計画」で示された際の名称とは異なる場合がある。
 - ・断層名の前に付した番号は、「地震における基盤的調査観測計画」において選択された際の番号。
なお、41糸魚川ー静岡構造線断層帯(北部)、42同(中部)及び44同(南部)、81,83,85,86,89の中央構造線断層帯、61の柳ヶ瀬断層帯と62関ヶ原断層帯、53屏風山・恵那山断層帯と54猿投山断層帯は同時公表した。ここでは、番号は糸魚川ー静岡構造線は41、中央構造線は81、柳ヶ瀬と関ヶ原は61、屏風山・恵那山と猿投山は53に統合した。また、その際の名称はそれぞれ、糸魚川ー静岡構造線活断層系、中央構造線断層帯、柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯、屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯としている。
 - ・ここでの表記にあたって、〇〇断層帯とされるものについては「断層帯」を省略した。〇〇断層とされるものについては略さずに記した。また括弧内は複数の断層帯(起震断層)に区分した際の名称。このうち斜字で示したものは、過去の活動履歴の違いにより、1つの断層帯(起震断層)を細分した際の区間名称。
- 2) 地震発生層の下限の深さの略
- 3) 表中に記した[ト・露・地形]はトレンチ調査結果、断層露頭観察結果、ずれを生じている地形の特徴、[ボ・断面]はボーリング調査結果及び地質断面図の検討結果、[物]は浅層反射法弾性波探査結果や大深度ボーリング調査結果、[モデル]は深部反射法弾性波探査結果・歴史地震の断層モデル検討結果を略したものである。なお、1つの区間で、複数の手法により傾斜が得られる場合もある。ここでは、より深部の情報が得られた手法を代表値として記した。
- 4) ここで略記したものは、本文2.2.4 断層(帯)の過去の活動(4)平均活動間隔の項で示した手法に対応し、直接1は直接的に求める手法(その1)、直接2は直接的に求める手法(その2)、直接3は直接的に求める手法(その3)、間接1は間接的に求める手法(その1)、間接2は間接的に求める手法(その2)、直・間併用は直接的に求める手法と間接的に求める手法を併用したものに对应する。
- 5) ここで略記したものは、本文2.2.4 断層(帯)の過去の活動(3)過去の活動における1回の変位量(1回のずれの量)の項で示した手法に対応し、直接は直接的に求める手法、間接は間接的に求める手法、歴史は歴史地震から推定する方法、経験式は断層長から補助的に推定する方法を略記したものである。また、〇・〇併用などあるものは、複数の手法を併用したもので、直は直接的に求める手法、間は間接的に求める手法、式は断層長から補助的に推定する方法を略記したものである。
- 6) 表中、「ほぼ0%」とあるのは、10-3%未満の確率値を表す。
- 7) BPT分布モデル、もしくはポアソン過程を用いて求めた30年確率の最大値に基づいて以下の3つに区分して評価している。3%以上…高い、3%~0.1%…やや高い、0.1%未満…表記なし
- 8) 十勝平野断層帯(光地園断層)は、最新活動時期が十分絞り込まれておらず、約21000年前以後に2回の活動があったと評価されていることに留意されたい。
- 9) 津軽山地西縁断層帯(北部)及び同断層帯(南部)では、将来の1回のずれの量を歴史地震のマグニチュードから、松田(1975)の経験式を用いて算出している。
- 10) 1つの区間の中で、複数のずれの向きと種類が認められる場合、あるいは屈曲点を設けた場合には、ずれの向きと種類、地震発生層の下限の深さ、断層面の幅及び断層面の傾斜に複数の値が得られる場合がある。そのような場合、ここでは「/」で区切り示した。
- 11) 長期評価では、「牛伏寺断層を含む区間」について、地震発生確率を求めているが、この区間がどこまでかは判断できないとしている。ここでは、糸魚川ー静岡構造線断層帯中部の箇所を代表して、確率値を示した。
- 12) 糸魚川ー静岡構造線断層帯及び富士川河口断層帯については、長期評価を発表した際には確率を示していなかった。これらの断層帯の確率は、「長期的な地震発生確率の評価手法について」(平成13年6月8日)に有効数字2桁で示されており、これを有効数字1桁で記述した。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述した。
- 13) 湖北山地断層帯(南東部)は、横ずれが卓越すると評価されている。この横ずれ成分の1回のずれの量は不明であるが、上下ずれ成分は判明しており、地震発生確率の計算にこの値を用いていることから、ここには例外的に示した。
- 14) 三方・花折断層帯の中部及び南部は、活動時期及び活動間隔が同じと判断され、中南部として一括して地震発生確率を求めていることから、ここでは中南部として示した。なお、中部、南部それぞれ独立して求められた各評価値について、ここでは「/」で区切り、中部、南部の順で記述した。
- 15) 最大値を3%(有効数字1桁)と表記しているが、実際には2.6%であるため、ランクについては「やや高い」に属するものとして扱った。

付録3 委員会名簿

委員の所属は、現在設置されている委員会に在籍者については2005年3月現在のもの。それ以外は、委員会解散時、もしくは退任時のもの。

地震調査委員会
(平成7年8月9日設置)

委員長

津村建四郎 (財)日本気象協会参与 平成12年4月～
宮崎大和 (社)日本測量協会専務理事 平成7年8月～平成12年3月

委員

阿部勝征 東京大学地震研究所教授
(委員長代理 平成12年4月～) 平成7年8月～
安藤雅孝 京都大学防災研究所教授 平成7年8月～平成12年3月
石田瑞穂 (独)防災科学技術研究所研究主監 平成8年7月～
入倉孝次郎 京都大学副学長 平成10年3月～
内池浩生 気象庁地震火山部長 平成12年5月～平成14年3月
海野徳仁 東北大学大学院理学研究科教授 平成12年4月～
梅田康弘 京都大学防災研究所教授 平成16年4月～
海津優 国土地理院地理地殻活動研究センター長 平成12年7月～
笠原稔 北海道大学大学院理学研究科教授 平成7年8月～平成13年5月
平成14年3月～
我如古康弘 海上保安庁水路部企画課長 平成7年8月～平成10年3月
菊地正幸 東京大学地震研究所教授 平成14年3月～平成15年10月
衣笠善博 工業技術院地質調査所首席研究官 平成7年8月～平成11年3月
小牧和雄 国土地理院地理地殻活動研究センター長 平成11年4月～平成12年6月
櫻井邦雄 気象庁地震火山部長 平成16年4月～
佐々木稔 海上保安庁海洋情報部技術・国際課長 平成14年4月～平成16年3月
島崎邦彦 東京大学地震研究所教授 平成7年8月～
清水洋 九州大学大学院理学研究院教授 平成12年4月～
杉山雄一 (独)産業技術総合研究所活断層研究センター長 平成11年4月～平成13年5月
平成16年4月～
鈴置哲朗 気象庁地震火山部長 平成7年8月～平成8年3月
塚原弘一 国土地理院地殻調査部長 平成7年8月～平成8年6月
佃栄吉 (独)産業技術総合研究所研究コーディネータ 平成13年5月～平成16年3月
土出昌一 海上保安庁海洋情報部技術・国際課長 平成16年4月～
西田英男 海上保安庁水路部企画課長 平成10年4月～平成12年3月
浜田和郎 防災科学技術研究所地圏地球科学技術研究部長 平成7年8月～平成8年6月
平木哲 気象庁地震火山部長 平成15年4月～平成16年3月
平澤朋郎 東北大学大学院理学研究科教授(委員長代理) 平成7年8月～平成12年3月
藤谷徳之助 気象庁地震火山部長 平成14年4月～平成15年3月
本谷義信 北海道大学大学院理学研究科助教授 平成13年5月～平成14年3月
松田時彦 西南学院大学文学部教授 平成7年8月～平成14年3月
モリ・ジェームス・ジロウ 京都大学防災研究所教授 平成12年3月～平成16年3月
森俊雄 気象庁地震火山部長 平成10年4月～平成12年4月
八島邦夫 海上保安庁水路部企画課長 平成12年4月～平成14年3月
山崎晴雄 東京都立大学大学院理学研究科教授 平成14年3月～
山本孝二 気象庁地震火山部長 平成8年4月～平成10年3月
吉村好光 国土地理院地理地殻活動研究センター長 平成8年7月～平成11年3月

地震調査委員会長期評価部会
(平成7年12月13日設置)

部会長	島崎 邦彦	東京大学地震研究所教授	平成7年12月 ~
委員	安藤 雅孝	京都大学防災研究所教授	平成7年12月 ~ 平成9年9月
	岩淵 洋	海上保安庁海洋情報部技術・国際課課長補佐	平成7年12月 ~ 平成15年3月
	加藤 照之	東京大学地震研究所教授	平成13年10月 ~
	川瀬 博	九州大学大学院人間環境学研究院教授	平成14年6月 ~ 平成16年3月
	菊地 正幸	東京大学地震研究所教授	平成14年3月 ~ 平成15年10月
	衣笠 善博	工業技術院地質調査所首席研究官	平成7年12月 ~ 平成11年3月
	熊木 洋太	国土地理院地理地殻活動研究センター研究管理課長	平成12年8月 ~ 平成15年3月
	杉山 雄一	(独)産業技術総合研究所活断層研究センター長	平成11年4月 ~
	多田 堯	国土地理院地理地殻活動研究センター 地理地殻活動総括研究官	平成7年12月 ~ 平成12年7月
	津沢 正晴	国土地理院地理地殻活動研究センター研究管理課長	平成15年4月 ~
	都司 嘉宣	東京大学地震研究所助教授	平成9年10月 ~
	中田 高	広島大学大学院文学研究科教授	平成13年4月 ~
	西澤あずさ	海上保安庁海洋情報部技術・国際課 海洋研究室上席研究官	平成15年4月 ~
	橋本 学	京都大学防災研究所教授	平成9年10月 ~ 平成13年9月
	平澤 朋郎	(財)地震予知総合研究振興会 地震調査研究センター所長	平成7年12月 ~
	藤原 広行	(独)防災科学技術研究所特定プロジェクトセンター プロジェクトディレクター	平成16年4月 ~
	前田 憲二	気象庁気象研究所地震火山研究部第四研究室長	平成16年4月 ~
松澤 暢	東北大学大学院理学研究科助教授	平成16年4月 ~	
松田 時彦	西南学院大学文学部教授	平成7年12月 ~ 平成14年2月	
松村 正三	(独)防災科学技術研究所固体地球研究部門長	平成7年12月 ~	
山崎 晴雄	東京都立大学大学院理学研究科教授	平成14年3月 ~	
吉田 明夫	気象庁地磁気観測所長	平成7年12月 ~ 平成16年3月	
米倉 伸之	東京大学名誉教授	平成12年4月 ~ 平成13年3月	

地震調査委員会長期評価部会活断層分科会
(平成8年2月27日設置 ~ 平成13年6月27日解散)

主査 委員	松田 時彦	西南学院大学文学部教授	平成8年4月 ~ 平成13年6月
	池田 安隆	東京大学大学院理学系研究科助教授	平成8年4月 ~ 平成13年6月
	伊藤 潔	京都大学防災研究所助教授	平成8年4月 ~ 平成13年6月
	岡田 篤正	京都大学大学院理学研究科教授	平成8年4月 ~ 平成9年9月
	衣笠 善博	工業技術院地質調査所首席研究官	平成8年4月 ~ 平成10年6月
	佐藤比呂志	東京大学地震研究所助教授	平成8年4月 ~ 平成13年6月
	杉山 雄一	(独)産業技術総合研究所活断層研究センター 副センター長	平成10年6月 ~ 平成13年6月
	鈴木 康弘	愛知県立大学情報科学部助教授	平成8年4月 ~ 平成13年6月
	千田 昇	大分大学教育福祉科学部教授	平成8年4月 ~ 平成13年6月
	松澤 暢	東北大学大学院理学研究科助教授	平成8年4月 ~ 平成13年6月
	山崎 晴雄	東京都立大学大学院理学研究科教授	平成8年4月 ~ 平成13年6月

地震調査委員会長期評価部会北日本活断層分科会
(平成11年11月24日設置～平成17年3月15日解散)

主査	東郷 正美	法政大学社会学部教授	平成12年3月～平成17年3月
委員	粟田 泰夫	(独)産業技術総合研究所活断層研究センター 断層活動モデル研究チーム長	平成13年8月～平成17年3月
	勝俣 啓	北海道大学大学院理学研究科助手	平成16年4月～平成17年3月
	鈴木 康弘	名古屋大学大学院環境学研究科教授	平成12年3月～平成17年3月
	竹村 恵二	京都大学大学院理学研究科 附属地球熱学研究施設教授	平成12年3月～平成17年3月
	佃 栄吉	(独)産業技術総合研究所活断層研究センター長	平成12年3月～平成13年7月
	堤 浩之	京都大学大学院理学研究科助教授	平成15年4月～平成17年3月
	松澤 暢	東北大学大学院理学研究科助教授	平成12年3月～平成16年3月
	山崎 晴雄	東京都立大学大学院理学研究科教授	平成12年3月～平成14年2月

地震調査委員会長期評価部会中日本活断層分科会
(平成11年11月24日設置～平成17年3月15日解散)

主査	中田 高	広島大学大学院文学研究科教授	平成12年3月～平成17年3月
委員	池田 安隆	東京大学大学院理学系研究科助教授	平成12年3月～平成15年3月
	後藤 秀昭	福島大学人間発達文化学類助教授	平成15年4月～平成17年3月
	千田 昇	大分大学教育福祉科学部教授	平成12年3月～平成17年3月
	佃 為成	東京大学地震研究所助教授	平成12年3月～平成17年3月
	宮内 崇裕	千葉大学理学部助教授	平成12年3月～平成17年3月
	吉岡 敏和	(独)産業技術総合研究所活断層研究センター 活断層調査研究チーム長	平成12年3月～平成17年3月

地震調査委員会長期評価部会西日本活断層分科会
(平成11年11月24日設置～平成17年3月15日解散)

主査	佐藤比呂志	東京大学地震研究所教授	平成12年3月～平成17年3月
委員	米倉 伸之	東京大学名誉教授(主査)	平成12年3月～平成13年3月
	伊藤 潔	京都大学防災研究所教授	平成12年3月～平成17年3月
	今泉 俊文	東北大学大学院理学研究科教授	平成13年4月～平成17年3月
	奥村 晃史	広島大学大学院文学研究科教授	平成12年3月～平成17年3月
	下川 浩一	(独)産業技術総合研究所地質調査情報センター 地質調査企画室シニアリサーチャー	平成13年4月～平成17年3月
	杉山 雄一	工業技術院地質調査所地震地質部活断層研究室長	平成12年3月～平成13年3月
	渡辺 満久	東洋大学社会学部教授	平成12年3月～平成17年3月

地震調査委員会長期評価部会長期確率評価手法検討分科会
(平成9年11月21日設置～平成13年6月27日解散)

主 査

島崎 邦彦

東京大学地震研究所教授

平成9年12月～平成13年6月

委 員

今給黎哲郎

国土地理院測地部測地技術調整官

平成9年12月～平成13年6月

井元政二郎

(独)防災科学技術研究所固体地球研究部門

総括主任研究員

平成9年12月～平成13年6月

尾形 良彦

文部科学省統計数理研究所教授

平成9年12月～平成13年6月

隈元 崇

岡山大学理学部助教授

平成9年12月～平成13年6月

佐竹 健治

(独)産業技術総合研究所活断層研究センター

地震被害予測研究チーム長

平成9年12月～平成13年6月

鈴木 康弘

愛知県立大学情報科学部助教授

平成9年12月～平成13年6月

西出 則武

気象庁地震火山部管理課地震情報企画官

平成11年4月～平成13年6月

森 滋男

気象庁地震火山部管理課地震情報企画官

平成9年12月～平成11年3月

平成17年 4月 13日
地震調査研究推進本部
地震調査委員会

福島盆地西縁断層帯の評価

福島盆地西縁断層帯は、福島盆地の西縁部に位置する活断層帯である。ここでは、平成8 - 9年度に福島県、平成10 - 12年度に宮城県によって行われた調査をはじめ、これまでに行われた調査研究成果に基づいて、この断層帯の諸特性を次のように評価した。

1 . 断層帯の位置及び形態

福島盆地西縁断層帯は、宮城県刈田(かった)郡蔵王町から同県白石市を経て福島県福島市西部に至る断層である(図1 - 1、図2及び表1)。長さは約57kmで、北東 - 南西方向に延びており、断層の北西側が相対的に隆起する逆断層である。

2 . 断層帯の過去の活動

福島盆地西縁断層帯の平均的な上下方向のずれの速度は、約0.7 - 0.9m / 千年の可能性があり、最新活動時期は、約2千2百年前以後、3世紀以前と推定され、平均活動間隔は、8千年程度であった可能性がある。また、活動時には、断層の北西側が南東側に対して相対的に約4 - 5m隆起したと推定される(表1)。

3 . 断層帯の将来の活動

福島盆地西縁断層帯は、全体が1つの区間として活動する場合、マグニチュード7.8程度の地震が発生する可能性がある。その時、断層の近傍の地表面では、北西側が南東側に対して相対的に約4 - 5m高まる段差や撓みが生じる可能性がある(表1)。本断層帯の最新活動後の経過率及び将来このような地震が発生する長期確率は表2に示すとおりである。

4 . 今後に向けて

福島盆地西縁断層帯の北東延長部には長町 - 利府線断層帯が本断層帯と同様な走向で連続的に分布している(図1 - 2)。このため、両断層帯の関係も含め活動区間等について調査する必要がある。

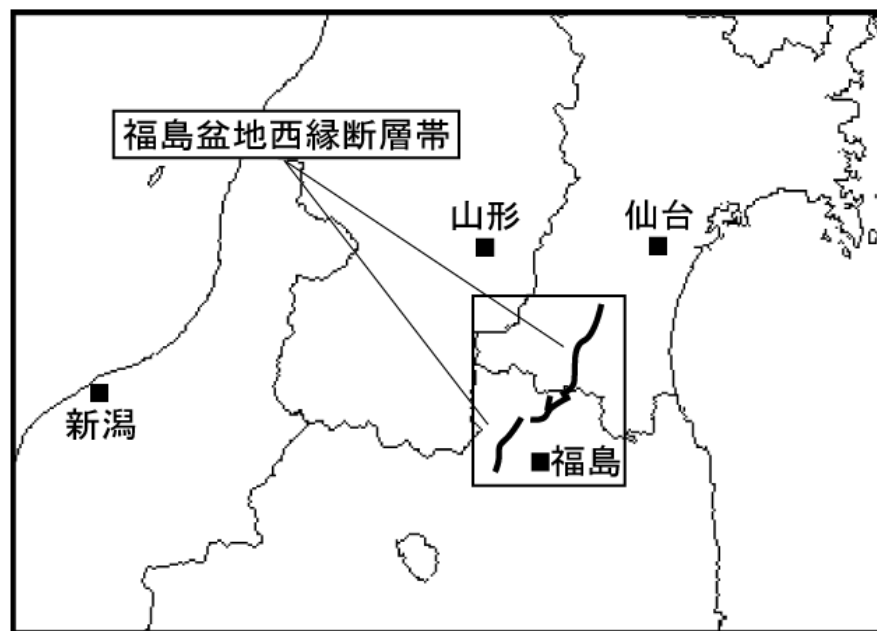


図1-1 福島盆地西縁断層帯の概略位置図
(長方形は図2の範囲)

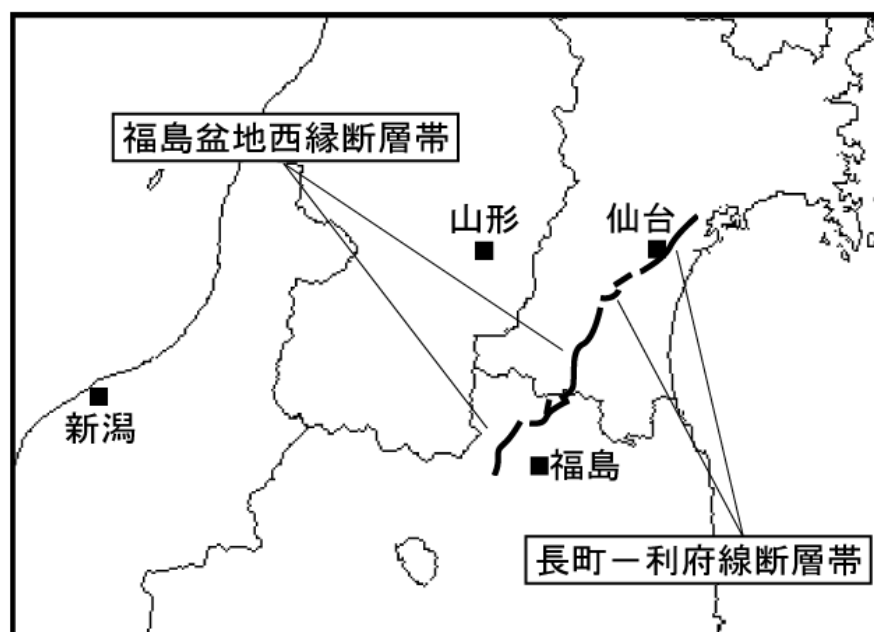
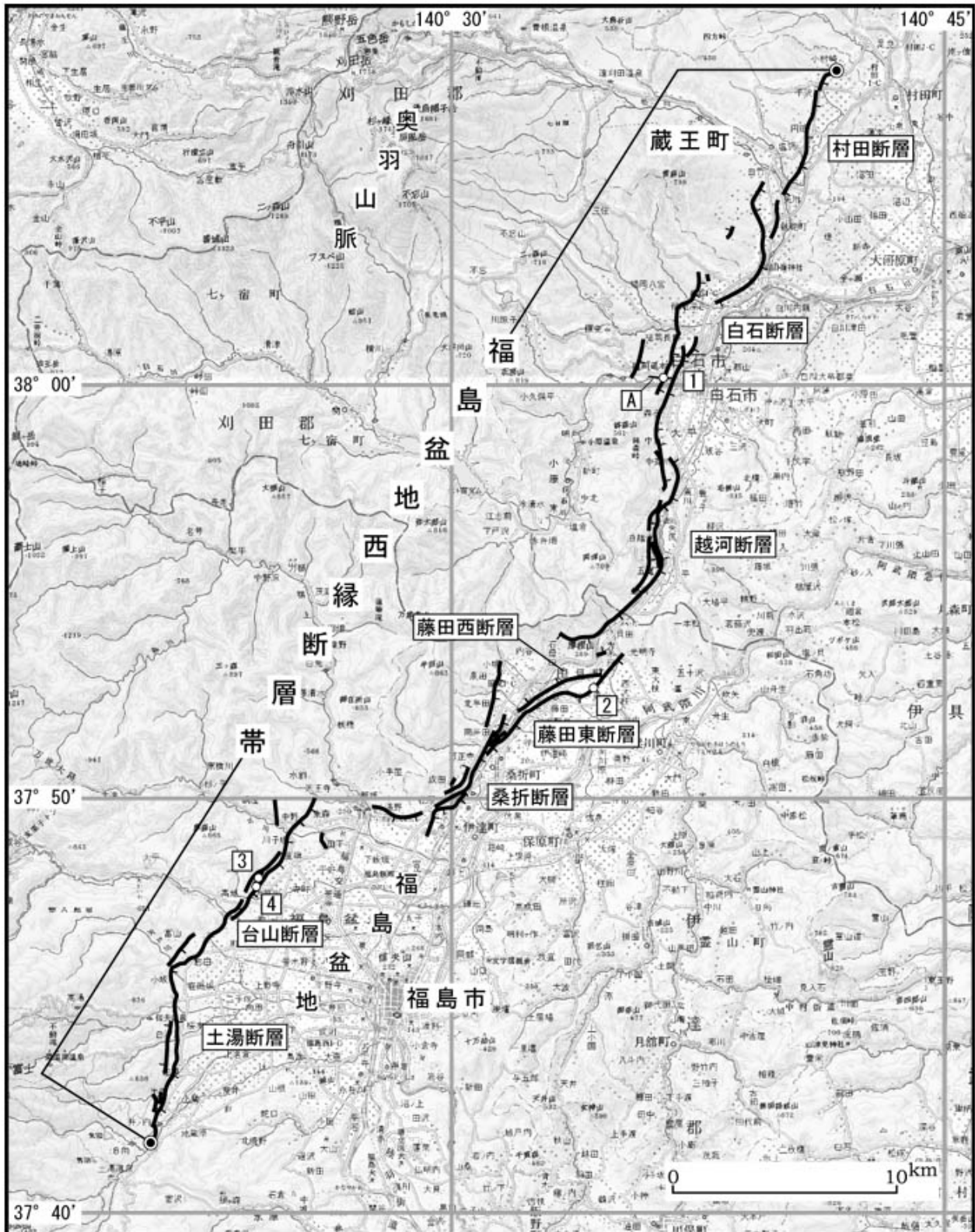


図1-2 福島盆地西縁断層帯と長町-利府線断層帯の概略位置関係図



1：菅生田地点 2：森山地点 3：大笹生B地点 4：大笹生A地点
 A：反射法弾性波探査測線（文献7）
 ●：断層帯の北端と南端
 断層の位置は文献3に基づく。
 基図は国土地理院発行数値地図200000「仙台」「福島」を使用。

図2 福島盆地西縁断層帯の位置と主な調査地点

表1 福島盆地西縁断層帯の特性

項目	特性	信頼度 (注3)	根拠 (注4)
1. 断層帯の位置・形態			
(1) 断層帯を構成する断層	村田断層、白石断層、越河(こすごう)断層、藤田東断層、藤田西断層、桑折(こおり)断層、台山断層、土湯断層		文献4、6による。
(2) 断層帯の位置・形状	地表における断層帯の位置・形状 断層帯の位置 (北東端) 北緯 38°08 東経 140°42 (南西端) 北緯 37°42 東経 140°21 長さ 約 57km		文献3による。 位置及び長さは図2から計測。
	地下における断層面の位置・形状 長さ及び上端の位置 地表での長さ 位置と同じ 上端の深さ 0km 一般走向 N30°E 傾斜 30 - 60°程度 北西傾斜 (深さ 200m以浅) 幅 不明		上端の深さが0kmであることから推定。 地形の特徴から推定。 一般走向は、断層帯の両端を直線で結んだ方向(図2を参照)。 文献1、2、7、8に示された反射法弾性波探査結果やトレンチ調査結果による。 地震発生層の下限の深さは15km程度。
(3) 断層のずれの向きと種類	北西側隆起の逆断層		文献2、3、7、9などに示された地形・地質の特徴による。
2. 断層帯の過去の活動			
(1) 平均的なずれの速度	約 0.7 - 0.9m / 千年 (上下成分)		文献10、11に示された資料による。
(2) 過去の活動時期	活動1 (最新活動) 約 2千2百年前以後、3世紀以前		文献1、2、7、8に示された資料による。 文献1、2、7、8に示された資料による。
	活動2 (1つ前の活動) 1万年前頃		
(3) 1回のずれの量と平均活動間隔	1回のずれの量 約 4 - 5m (上下成分)		文献1、2、7、8、10、11に示された資料による。 過去2回の活動から推定。
	平均活動間隔 8千年程度		

(4) 過去の活動区間	断層帯全体で1区間		断層の位置形態から推定。
3. 断層帯の将来の活動			
(1) 将来の活動区間及び活動時の地震の規模	活動区間 断層帯全体で1区間 地震の規模 マグニチュード7.8程度 ずれの量 約4 - 5 m (上下成分)		断層の位置形態から推定。 断層の長さから推定。 過去の活動から推定。

表2 福島盆地西縁断層帯の将来の地震発生確率等

項目	将来の地震発生確率等 (注5)	信頼度 (注6)	備考
地震後経過率(注7)	0.2 - 0.3		発生確率及び集積確率は文献5による。
今後30年以内の地震発生確率	ほぼ0%	b	
今後50年以内の地震発生確率	ほぼ0%		
今後100年以内の地震発生確率	ほぼ0%		
今後300年以内の地震発生確率	ほぼ0%		
集積確率(注8)	ほぼ0%		

注1：我が国の陸域及び沿岸域の主要な98の活断層のうち、2001年4月時点で調査結果が公表されているものについて、その資料を用いて今後30年間に地震が発生する確率を試算すると概ね以下のように推定される。

98断層帯のうち約半数の断層帯：30年確率の最大値が0.1%未満

98断層帯のうち約1/4の断層帯：30年確率の最大値が0.1%以上 - 3%未満

98断層帯のうち約1/4の断層帯：30年確率の最大値が3%以上

(いずれも2001年4月時点での推定。確率の試算値に幅がある場合はその最大値を採用。)

この統計資料を踏まえ、地震調査委員会の活断層評価では、次のような相対的な評価を盛り込むこととしている。

今後30年間の地震発生確率(最大値)が3%以上の場合：

「本断層帯は、今後30年の間に地震が発生する可能性が、我が国の主な活断層の中では高いグループに属することになる」

今後30年間の地震発生確率(最大値)が0.1%以上 - 3%未満の場合：

「本断層帯は、今後30年の間に地震が発生する可能性が、我が国の主な活断層の中ではやや高いグループに属することになる」

注2：1995年兵庫県南部地震、1858年飛越地震及び1847年善光寺地震の地震発生直前における30年確率と集積確率は以下のとおりである。

地震名	活動した活断層	地震発生直前の 30年確率(%)	地震発生直前の 集積確率(%)	断層の平均活動 間隔(千年)
1995年兵庫県南部地震 (M7.3)	六甲・淡路島断層帯主部 淡路島西岸区間 「野島断層を含む区間」 (兵庫県)	0.02% - 8%	0.06% - 80%	約1.7 - 約3.5
1858年飛越地震 (M7.0 - 7.1)	跡津川断層帯 (岐阜県・富山県)	ほぼ0% - 13%	ほぼ0% - 90%より大	約1.7 - 約3.6
1847年善光寺地震 (M7.4)	長野盆地西縁断層帯 (長野県)	ほぼ0% - 20%	ほぼ0% - 90%より大	約0.8 - 約2.5

「長期的な地震発生確率の評価手法について」(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2001)に示されているように、地震発生確率は前回の地震後、十分長い時間が経過しても100%とはならない。その最大値は平均活動間隔に依存し、平均活動間隔が長いほど最大値は小さくなる。平均活動間隔が8千年の場合は30年確率の最大値は4%程度である。

注3：信頼度は、特性欄に記載されたデ - タの相対的な信頼性を表すもので、記号の意味は次のとおり。

：高い、：中程度、：低い

注4：文献については、本文末尾に示す以下の文献。

- 文献1：福島県(1997)
- 文献2：福島県(1998)
- 文献3：池田ほか編(2002)
- 文献4：今泉ほか(2000)
- 文献5：地震調査研究推進本部地震調査委員会(2001)
- 文献6：活断層研究会編(1991)
- 文献7：宮城県(2000)
- 文献8：宮城県(2001)
- 文献9：澤ほか(2000)
- 文献10：新屋(1984)
- 文献11：渡辺(1985)

注5：評価時点はすべて2005年1月1日現在。「ほぼ0%」は $10^{-3}\%$ 未満の確率値を示す。なお、計算に当たって用いた平均活動間隔の信頼度は低い()ことに留意されたい。

注6：地震後経過率、発生確率及び現在までの集積確率(以下、発生確率等)の信頼度は、評価に用いた信頼できるデータの充足性から、評価の確からしさを相対的にランク分けしたもので、aからdの4段階で表す。各ランクの一般的な意味は次のとおりである。

a:(信頼度が)高い b:中程度 c:やや低い d:低い

発生確率等の評価の信頼度は、これらを求めるために使用した過去の活動に関するデータの信頼度に依存する。信頼度ランクの具体的な意味は以下のとおりである。分類の詳細については付表を参照のこと。なお、発生確率等の評価の信頼度は、地震発生の切迫度を表すのではなく、発生確率等の値の確からしさを表すことに注意する必要がある。

発生確率等の評価の信頼度

- a：過去の地震に関する信頼できるデータの充足度が比較的高く、これを用いて求めた発生確率等の値の信頼性が高い。
- b：過去の地震に関する信頼できるデータの充足度が中程度で、これを用いて求めた発生確

率等の値の信頼性が中程度。

c：過去の地震に関する信頼できるデータの充足度が低く、これを用いて求めた発生確率等の値の信頼性がやや低い。

d：過去の地震に関する信頼できるデータの充足度が非常に低く、これを用いて求めた発生確率等の値の信頼性が低い。このため、今後の新しい知見により値が大きく変わる可能性が高い。または、最新活動時期のデータが得られていないため、現時点における確率値が推定できず、単に長期間の平均値を確率としている。

注7：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。今回評価した数字のうち0.2は1705年を8000年で、0.3は2200年を8000年で割った値である。

注8：前回の地震発生から評価時点までの間に地震が発生しているはずの確率。

--- 以下、評価文の中身（説明文）の詳細は省略して、項目のみ示す。 ---

既往評価文（説明文）の項目と本報告書の項目（頁）との対応

1 . 断層帯に関するこれまでの主な調査研究	2.2.1	8p
2 . 断層帯の評価結果	2.2.2	9p
2 . 1 断層帯の位置及び形態	2.2.3	11p
(1) 断層帯を構成する断層	(1)	11p
(2) 断層面の位置・形状	(2)	13p
(3) 断層の変位の向き（ずれの向き）	(3)	16p
2 . 2 断層帯の過去の活動	2.2.4	17p
(1) 平均変位速度（平均的なずれの速度）	(1)	17p
(2) 活動時期	(2)	19p
a) 地形・地質的に認められた過去の活動	a)	19p
b) 先史時代・歴史時代の活動	b)	22p
(3) 1回の変位量（ずれの量）	(3)	24p
(4) 活動間隔	(4)	26p
(5) 活動区間	(5)	30p
(6) 測地観測結果	(6)	32p
(7) 地震観測結果	(7)	33p
2 . 3 断層帯の将来の活動	2.2.5	34p
(1) 活動区間と活動時の地震の規模	(1)	34p
(2) 地震発生の可能性	(2)	37p
3 今後に向けて	2.2.6	40p

既往評価文(説明文)に添付する図表について

図 考慮した断層

20 km 未満の断層帯、活動度が低い断層帯など、詳細な評価を行わない断層(帯)がある場合、その断層(帯)の名称と位置を記した図面を作成する(主文の図2相当の図面)。ただし、長さが10 km 未満の場合には特に記述しない(2.2.2 評価の範囲についての「基盤的調査観測の対象活断層(主要98断層帯)」を複数の「断層帯(起震断層)」に分けて評価を行う場合(10p)を参照)。

図 地下における断層面の位置・形状の根拠とした図面

反射法弾性波探査断面や、地質断面図及び地震観測結果など、地下における断層面の位置・形状の判断根拠とした図面を添付する。

図 平均変位速度の推定に用いた図面

地質断面図やボーリング調査結果など、平均変位速度の推定に用いた図面を添付する。

図 過去の活動層準、活動時期の推定に用いた図面

トレンチ調査結果やボーリング調査結果、歴史地震における被害分布図など、過去の活動層準や活動時期の推定に用いた図面を添付する。

図 時空間分布図

断層帯の複数の地点で過去の活動履歴が判明している場合に作成する(図2.2.4-6(31p)を参照)。

表 地震発生確率及び参考指標

BPT 分布モデルならびにポアソン過程を用いて断層帯の将来の地震発生確率を求めた場合に巻末に添付する。BPT 分布モデルを適用した場合には、地震発生確率と併せて、地震後経過率・集積確率・その他の参考指標を併せて示す。

表 地震発生確率の評価の信頼度一覧

BPT 分布モデルならびにポアソン過程を用いて断層帯の将来の地震発生確率を求めた場合に巻末に添付する(表2.2.5-1(38p)を参照)。

その他、適宜評価に必要な図面を添付する。